B5FJ-4941-02

FMV-BIBLO LOOX U50X/V,U50XN,U50XNX

製品ガイド

FUJITSU

目次

本書をお読みになる前に

第 1 章　各部名称

第 2 章　ハードウェア

第 3 章 機能

第 4 章　セキュリティ

第 5 章　ソフトウェア

第 6 章　BIOS

第 7 章　トラブルシューティング

本書をお読みになる前に

本書の表記

警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

⚠	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
⃠	⃠で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
❗	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

　例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「＋」でつないで表記しています。

　例：【Ctrl】＋【F3】キー、【Shift】＋【↑】キーなど

コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy  a:  a:
           ↑   ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを 1 回押してください。
  また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- CD/DVD ドライブなどのドライブ名を、［CD/DVD ドライブ］で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。
  例：[CD/DVDドライブ]:¥setup.exe

連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

BIOS セットアップの表記

本文中のBIOSセットアップの設定手順において、各メニューやサブメニューまたは項目を、「－」（ハイフン）でつなげて記述する場合があります。また、設定値を「：」（コロン）の後に記述する場合があります。

例：「メイン」メニューの「言語（Language）」の項目を「日本語（JP）」に設定します。

↓

「メイン」－「言語（Language）」：日本語（JP）

画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記		
FMV-BIBLO LOOX U50X/V,U50XN,U50XNX	本パソコン パソコン本体		
Windows Vista® Home Premium	Windows Vista Home Premium	Windows Vista	Windows
Microsoft® Internet Explorer 7.0	Internet Explorer		
Microsoft® Office Excel 2007	Excel 2007		
Microsoft® Office Outlook® 2007	Outlook 2007		
Microsoft® Office Personal 2007	Office Personal 2007		
Microsoft® Office Word 2007	Word 2007		
Norton Internet Security™ 2007	Internet Security		
InterVideo WinDVD™	WinDVD		
Adobe® Reader™	Adobe Reader		

商標および著作権について

Microsoft、Windows、Windows Vista、Aero、Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
インテル、Intel は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

第 1 章

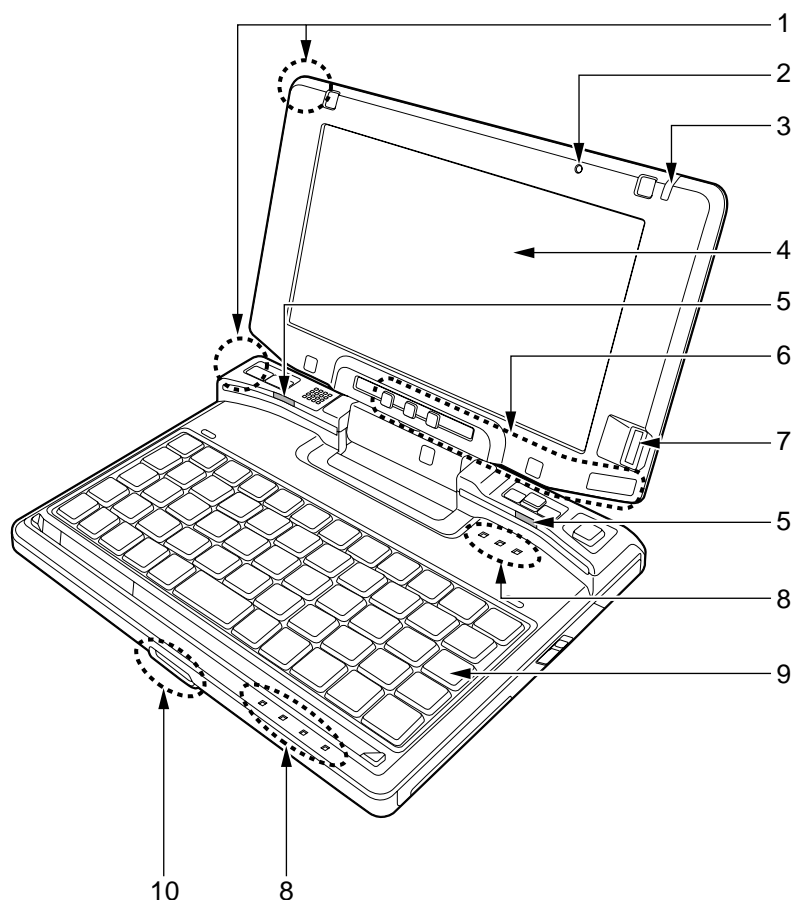
各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

1 各部の名称と働き

パソコン本体前面

U50X/V、U50XN の場合

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。

1 内蔵無線 LAN アンテナ（無線 LAN 搭載機種のみ）

無線 LAN 用のアンテナが内蔵されています。
本パソコンの使用中、特に無線 LAN で通信中はアンテナ部分に極力触れないでください。また、本パソコンを設置する場合には、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所を避けてください。通信性能が低下し、設置環境によっては通信できなくなることがあります。
「機能」－「無線 LAN（IEEE 802.11a、IEEE 802.11g 準拠）について」（→ P.115）

・無線 LAN については『内蔵無線 LAN をお使いになる方へ』をご覧ください。

2 内蔵マイク

音声を録音できます。

POINT

- マイクとスピーカーを同時に使用するソフトウェアをお使いの場合、ハウリングが起きることがあります。このようなときは、音量を調整するか、市販のヘッドホンや外付けマイクをお使いください。
  また、マイクを使用していないときは、マイクを「ミュート」(消音)にしてください。
  「ミュート」にする方法については、「機能」－「音量の設定」(→ P.94)をご覧ください。
- 内蔵マイクから録音する場合、音源との距離や方向によっては、音がひろいにくい場合があります。クリアな音声で録音したい場合には、外付けマイクを使用されることをお勧めします。

3 ペン

タッチパネルを操作するペンが収納されています。

4 液晶ディスプレイ

本パソコンの画面を表示します。

POINT

液晶ディスプレイの特性について

以下は液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

- 液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります(有効ドット数の割合は99.99% 以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています)。
- 本製品で使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。
- 長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらく経つと消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。
- 表示する条件によってはムラおよび微少な斑点が目立つことがあります。

5 キーボードライト

暗い所などでキーボードを照らします。アプリケーションボタンの「1」ボタンを押すと点灯します。

6 タブレットボタン

ボタンを押すだけで、ソフトウェアの起動などを行うことができます。

7 指紋センサー

指紋を識別してユーザー認証を行うことができます。

8 状態表示 LED

本パソコンの状態が表示されます。

「状態表示 LED について」(→ P.21)

9 キーボード

文字を入力したり、パソコン本体に命令を与えます。

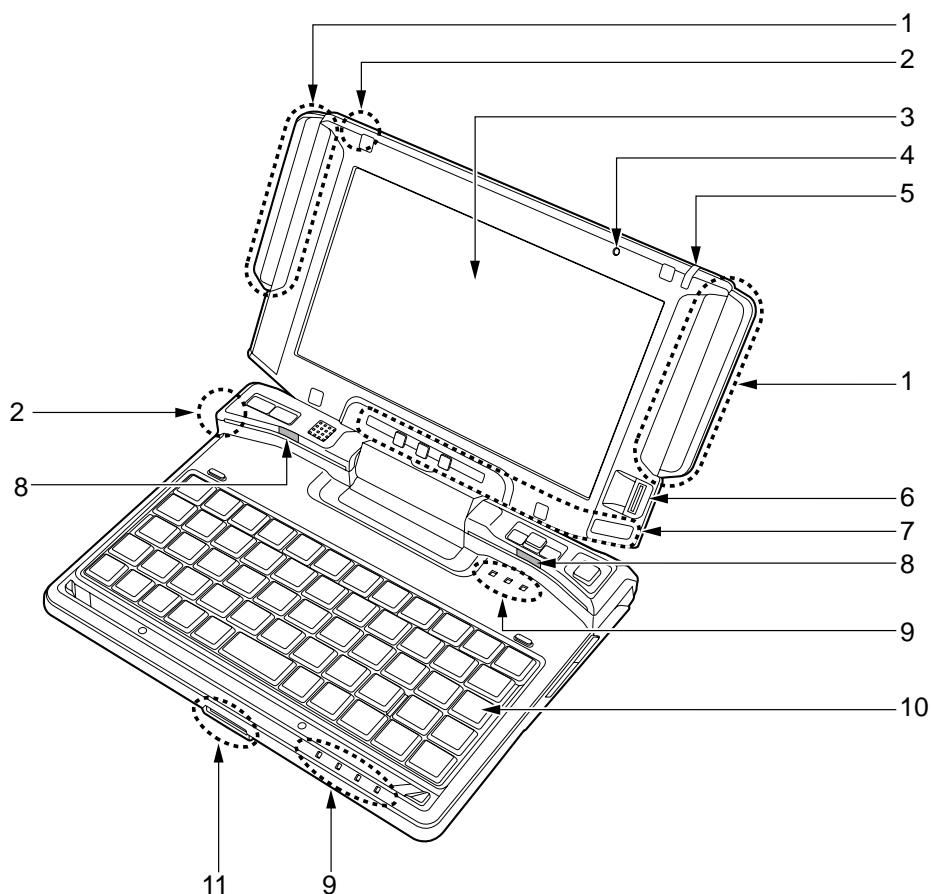
「ハードウェア」－「キーボードについて」(→ P.35)

10 ポートリプリケータ接続コネクタ/ LAN/CRT 変換コネクタ

ポートリプリケータ/変換ケーブル(LAN/CRT)を接続するためのコネクタです。

「変換ケーブル(LAN/CRT)」(→ P.20)

U50XNX の場合

ここでは、FOMA HIGH-SPEED に接続可能な無線 WAN を無線 WAN と表記しています。
各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。

1 内蔵無線 WAN アンテナ

無線 WAN 用のアンテナが内蔵されています。
無線 WAN で通信中はアンテナ部分に極力触れないでください。通信性能が低下する場合があります。

POINT

・無線 WAN については『FOMA HIGH-SPEED に接続可能な無線 WAN をお使いになる方へ』をご覧ください。

2 内蔵無線 LAN アンテナ

無線 LAN 用のアンテナが内蔵されています。
本パソコンの使用中、特に無線 LAN で通信中はアンテナ部分に極力触れないでください。また、本パソコンを設置する場合には、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所を避けてください。通信性能が低下し、設置環境によっては通信できなくなることがあります。
「機能」－「無線 LAN（IEEE 802.11a、IEEE 802.11g 準拠）について」（→ P.115）

POINT

・無線 LAN については『内蔵無線 LAN をお使いになる方へ』をご覧ください。

3 液晶ディスプレイ

本パソコンの画面を表示します。

液晶ディスプレイの特性について

以下は液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

- 液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は99.99% 以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。
- 本製品で使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。
- 長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらく経つと消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。
- 表示する条件によってはムラおよび微少な斑点が目立つことがあります。

4 内蔵マイク

音声を録音できます。

POINT

- マイクとスピーカーを同時に使用するソフトウェアをお使いの場合、ハウリングが起きることがあります。このようなときは、音量を調整するか、市販のヘッドホンや外付けマイクをお使いください。
  また、マイクを使用していないときは、マイクを「ミュート」（消音）にしてください。「ミュート」にする方法については、「機能」－「音量の設定」（→ P.94）をご覧ください。
- 内蔵マイクから録音する場合、音源との距離や方向によっては、音がひろいにくい場合があります。クリアな音声で録音したい場合には、外付けマイクを使用されることをお勧めします。

5 ペン

タッチパネルを操作するペンが収納されています。

6 指紋センサー

指紋を識別してユーザー認証を行うことができます。

7 タブレットボタン

ボタンを押すだけで、ソフトウェアの起動などを行うことができます。

8 キーボードライト

暗い所などでキーボードを照らします。アプリケーションボタンの「1」ボタンを押すと点灯します。

9 状態表示 LED

本パソコンの状態が表示されます。

「状態表示 LED について」（→ P.21）

10 キーボード

文字を入力したり、パソコン本体に命令を与えます。

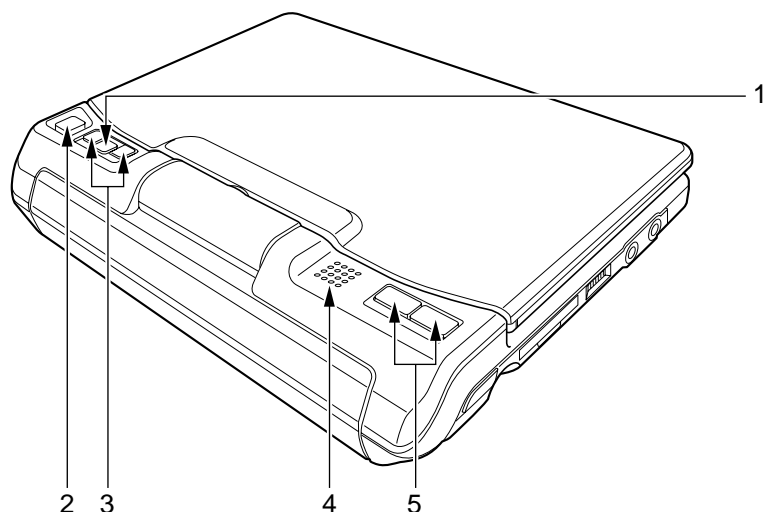
「ハードウェア」－「キーボードについて」（→ P.35）

11 ポートリプリケータ接続コネクタ／LAN/CRT 変換コネクタ

ポートリプリケータ／変換ケーブル（LAN/CRT）を接続するためのコネクタです。

「変換ケーブル（LAN/CRT）」（→ P.20）

パソコン本体上面

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。

（イラストは機種や状況により異なります）

1 Fn ボタン

他のボタンと組み合わせて使います。2 回押すと、「Fujitsu Menu」が表示されます。
「各部名称」－「タブレットボタンについて」－「「Fujitsu Menu」について」（→ P.24）

2 スティックポイント

上下左右に押してマウスポインタを操作します。

3 スクロールボタン

画面をスクロールさせます。「Fn」ボタンを押した後に「Up」ボタンを押すと、「PageUP」キーとして働きます。また、「Fn」ボタンを押した後に「Down」ボタンを押すと、「PageDown」キーとして働きます。

4 スピーカー

本パソコンの音声が出力されます。
「機能」－「音量の設定」（→ P.94）

重要

・音量は、スピーカーから聞こえる音がひずまない範囲に設定や調整をしてください。スピーカーが故障する原因となります。

5 クリックボタン

左右のボタンは、それぞれマウスの左右のボタンに相当し、その機能はソフトウェアにより異なります。

パソコン本体右側面

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。

（イラストは機種や状況により異なります）

・各コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。

1 CF（コンパクトフラッシュ）カードスロット

コンパクトフラッシュカードをセットするためのスロットです。

「ハードウェア」－「コンパクトフラッシュカードをセットする」（→ P.62）

2 電源スイッチ

パソコン本体の電源を入れたり、スリープ（中断）／レジューム（回復）させるためのスイッチです。

POINT

・電源スイッチを 4 秒以上スライドしないでください。
電源スイッチを 4 秒以上スライドし続けると、パソコンの電源が切れてしまいます。

3 ワンセグ受信アンテナ（ワンセグチューナー搭載機種のみ）

ワンセグ放送を視聴するためのアンテナです。

「機能」－「ワンセグ関連」－「ワンセグ受信アンテナを使う」（→ P.105）

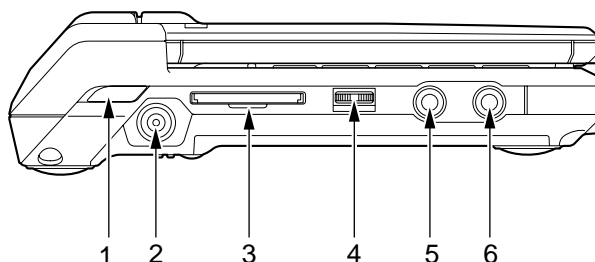
4 USB コネクタ（ ）

FDD ユニット（USB）や USB 接続に対応したプリンタなど、USB 規格の周辺機器を接続するためのコネクタです。

USB2.0 に準拠しているため、USB1.1 および USB2.0 に対応した機器が接続できます。

・USB2.0 に対応した機器をハブなどを経由して接続した場合、ハブの性能によって接続した機器の性能が低下することがあります。

パソコン本体左側面

ここでは、FOMA HIGH-SPEED に接続可能な無線 WAN を無線 WAN と表記しています。
各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。

（イラストは機種や状況により異なります）

重要

・各コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。

1 ワイヤレススイッチ（無線 LAN 搭載機種のみ使用可）

無線 LAN 搭載機種の場合は、無線 LAN の ON と OFF を切り替えます。
U50XNX の場合は、無線 LAN と無線 WAN の ON と OFF を切り替えます。
病院や飛行機内、その他電子機器使用の規制がある場所では、スイッチを OFF にしてください。

・無線 LAN については『内蔵無線 LAN をお使いになる方へ』をご覧ください。
・無線 WAN については『FOMA HIGH-SPEED に接続可能な無線 WAN をお使いになる方へ』をご覧ください。

2 DC-IN コネクタ（⎓）

添付の AC アダプタを接続するためのコネクタです。

3 SD メモリーカードスロット

SD メモリーカードをセットするためのスロットです。
「ハードウェア」－「SD メモリーカードをセットする」（→ P.67）

4 音量ボリューム

音量を調節します。手前側にたおすと小さく、奥側にたおすと大きくなります。また、音量ボリュームを押すとミュート（消音）になります。
音声入出力時のバランスや音量などは、音量を設定する画面で設定できます。音量ボリュームで調節しても、音量が大きすぎたり、小さすぎたりする場合は、画面の音量つまみで調節してください。
「機能」－「音量の設定」（→ P.94）

・音量ボリュームで音量を調節しても音が聞こえない場合は、音量を設定する画面の設定がミュート（消音）になっていないか確認してください。

5 マイク・ラインイン兼用端子（）

市販のマイクを接続することができます（外径 3.5mm のミニプラグに対応）。ただし、市販されているマイクの一部の機種（ダイナミックマイクなど）には、使用できないものがあります。ご購入前に確認してください。
また、設定を変更することにより、ライン入力端子として使用することもできます。
設定を変更する方法については、「ヘッドホン・ラインアウト兼用端子／マイク・ラインイン兼用端子の機能を切り替える」（→ P.98）をご覧ください。

重要

- マイク端子には、マイク以外のコネクタを接続しないでください。故障の原因となることがあります。

6 ヘッドホン・ラインアウト兼用端子
ヘッドホン・ラインアウト／アンテナ入力端子（ワンセグチューナー搭載機種のみ）（）

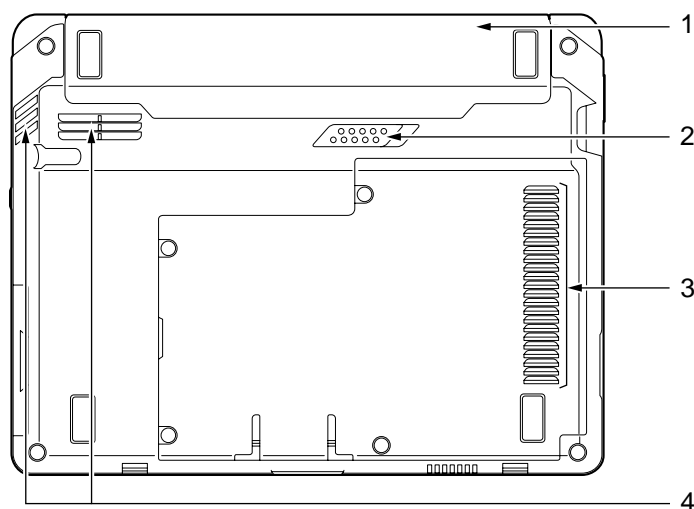
市販のヘッドホンを接続することができます（外径 3.5mm のミニプラグに対応）。ただし、形状によっては使用できないものがあります。ご購入前に確認してください。
また、設定を変更することにより、ライン出力端子として使用することもできます。
ワンセグチューナー搭載機種をお使いの場合はアンテナ変換ケーブルを接続したり、設定を変更することにより、ヘッドホンなしでワンセグ放送を視聴したりすることもできます。
設定を変更する方法については、「ヘッドホン・ラインアウト兼用端子／マイク・ラインイン兼用端子の機能を切り替える」（→ P.98）をご覧ください。

⚠注意

- ヘッドホンやイヤホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないでください。
  耳を刺激するような大きな音量で聞くと、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

- 電源を入れたり切ったりする前には音量を最小にしておいてください。また、ヘッドホンやイヤホンをしたまま、電源を入れたり切ったりしないでください。
  突然大きな音や刺激音が出て、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

パソコン本体下面

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。

（イラストは機種や状況により異なります）

1 内蔵バッテリパック

内蔵バッテリパックが装着されています。

「ハードウェア」－「内蔵バッテリパックを交換する」（→ P.43）

2 内蔵バッテリパックロック

内蔵バッテリパックを取り外すときにスライドさせます。

「ハードウェア」－「内蔵バッテリパックを交換する」（→ P.43）

3 吸気孔

空気を取り込むための穴です。

⚠注意

・吸気孔をふさがないでください。
内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

4 排気孔

パソコン本体内部の熱を外部に逃がすためのものです。
パソコンの電源を入れると、内部のファンが数秒間回転します。また、パソコン本体内部の温度が高くなると内部のファンが回転し、熱が放出されます。
このため、起動時や動作中にファンによる回転音が発生しますが、パソコンの冷却のためであり、異常ではありません。

⚠注意

・排気孔をふさがないでください。
内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

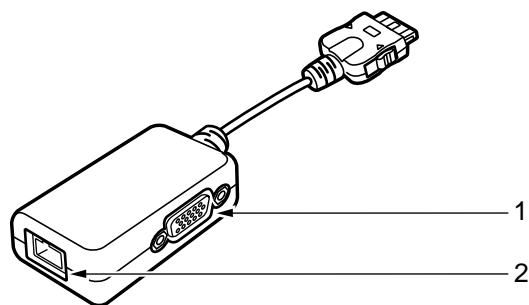
重要

・排気孔からは熱風が出ます。排気孔付近には手を触れないでください。
・排気孔の近くに物を置かないでください。排気孔からの熱で、排気孔の近くに置かれた物が熱くなることがあります。
・布団やクッションなどのやわらかい物の上に置いて、使用しないでください。

変換ケーブル（LAN/CRT）

重要

・各コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。

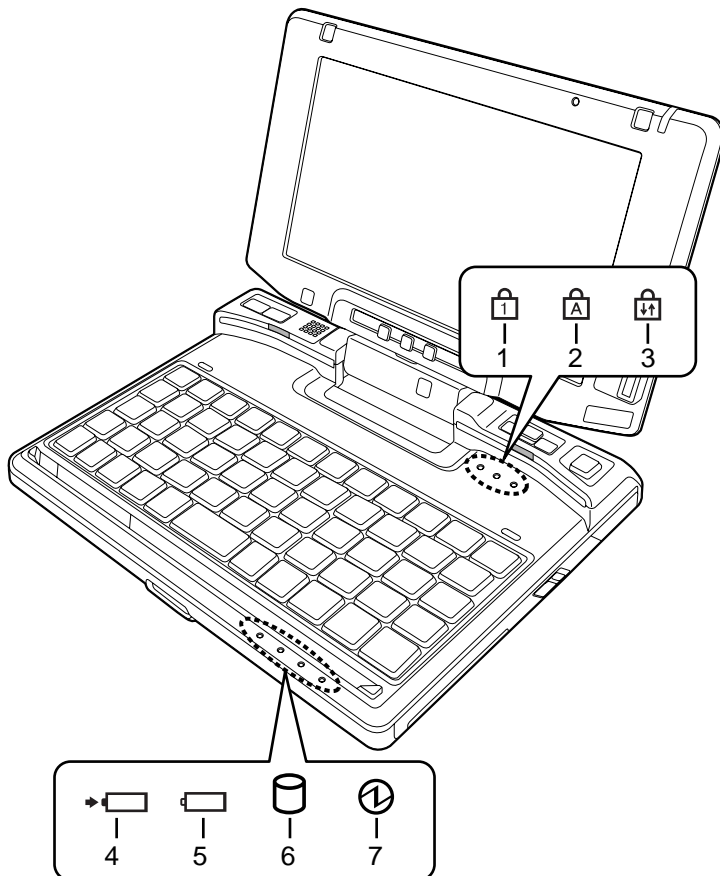
各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。

1 外部ディスプレイコネクタ（）

アナログディスプレイなど、外部ディスプレイを接続するためのコネクタです。
ポートリプリケータ接続時には、ポートリプリケータの外部ディスプレイコネクタをお使いください。
「ハードウェア」−「外部ディスプレイについて」（→ P.71）

2 LAN コネクタ（）

LAN ケーブルを接続するためのコネクタです。
ポートリプリケータ接続時には、ポートリプリケータの LAN コネクタをお使いください。
「機能」−「LAN について」（→ P.113）

2 状態表示 LED について

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。
状態表示 LED は、点灯したり、点滅したりして、パソコンの各種状態を表します。それぞれのマークには、次のような意味があります。

（イラストは機種や状況により異なります）

POINT

・電源を切っている場合は、充電中を除いて状態表示 LED の全ランプが消灯します。

1 Num Lock ランプ（1）

画面上で使用するソフトキーボードや、このパソコンに接続した USB キーボードを、テンキーモードで使用するときに点灯します。
テンキーモードには、それぞれのキーボードの【Num Lock】キーで切り替えることができます。
なお、パソコン本体のキーボードには【Num Lock】キーを搭載していないため、テンキーモードに切り替えることはできません。

2 Caps Lock ランプ（）

英大文字固定モード（英字を大文字で入力する状態）のときに点灯します。

【Shift】+【Fn】+【Z】キーを押して、英大文字固定モードの設定と解除を切り替えます。

3 Scroll Lock ランプ（）

画面をスクロールしないように設定（スクロールロック）したときに点灯します。

【Fn】+【X】キーを押して、スクロールロックの設定と解除を切り替えます。

点灯中の動作は、ソフトウェアに依存します。

4 バッテリ充電ランプ（）

本パソコンに AC アダプタが接続されている場合に、内蔵バッテリパックの充電状態を表示します。

「ハードウェア」－「バッテリを充電する」（→ P.38）

5 バッテリ残量ランプ（）

本パソコンに接続されている内蔵バッテリパックの残量を表示します。

「ハードウェア」－「バッテリ残量を確認する」（→ P.40）

6 ディスクアクセスランプ（）

内蔵ハードディスクにアクセスしているときに点灯します。

POINT

・ディスクアクセスランプが点灯中に、電源スイッチを操作すると、ハードディスクが壊れるおそれがあります。

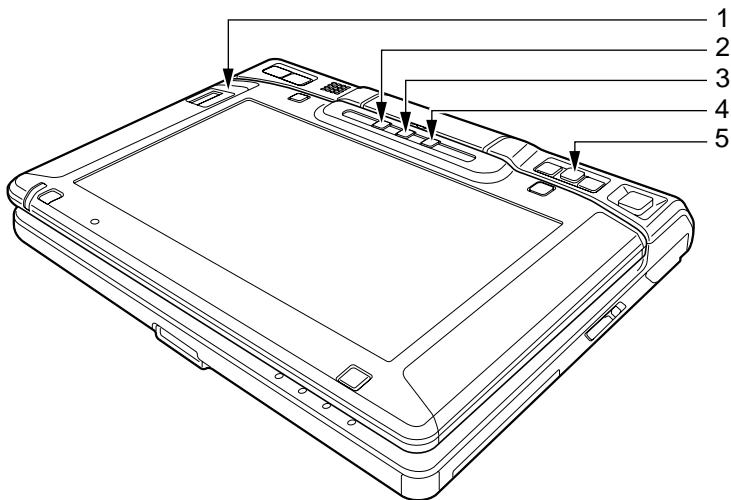
7 電源ランプ（）

パソコンの電源が入っているときに点灯します。また、このほかに次の状態を表します。

・点滅
　スリープ状態を表します。

・消灯
　電源が切れている状態、または休止状態を表します。

3 タブレットボタンについて

タブレットボタンは、パソコンの各機能を呼び出すためのボタンです。ボタンを押すだけでソフトウェアを起動することができます。

（イラストは機種や状況により異なります）

	ボタン	機能
1	［CTRL］＋［ALT］＋［DEL］ボタン	2 秒以上押し続けると、キーボードで［Ctrl］＋［Alt］＋［Fn］＋［BS］キーを押したときの動作をします。
2	ローテーションボタン	表示画面の向きを切り替えます。
3	アプリケーションボタン 2	スクリーンキーボードが起動します。Fn ボタンを押した後にこのボタンを押すと、「メモ帳」が起動します。
4	アプリケーションボタン 1	キーボードライトを点灯／消灯させます。Fn ボタンを押した後にこのボタンを押すと、「省電力ユーティリティ」のモードが切り替わります。
5	Fn ボタン	他のボタンと組み合わせて使います。2 回押すと、「Fujitsu Menu」が表示されます。

「Fujitsu Menu」について

タブレットボタンの「Fn」ボタンを 2 回押すと、「Fujitsu Menu」が表示されます。

「Fujitsu Menu」を使用すると、液晶の明るさやサウンドなどの設定を、簡単に変更することができます。

をクリック（タップ）すると、「Fujitsu Menu」の表示形式を変更することができます。

や をクリック（タップ）すると、前後のページへ移動します。

編集 をクリック（タップ）すると、「Fujitsu Menu の編集」ウィンドウが表示されます。

「Fujitsu Menu」が表示されない場合

通知領域の「Fujitsu Menu」アイコンをダブルクリックすることで「Fujitsu Menu」を表示させることができます。通知領域に「Fujitsu Menu」アイコンが表示されない場合は、「C:¥Program Files¥Fujitsu¥Utils¥FjMenu.exe」を実行して「Fujitsu Menu」を表示させてください。

「Fujitsu Menu」に追加登録をする

「Fujitsu Menu」は必要に応じてファイルやソフトウェアの起動を追加登録することができます。

1 「Fujitsu Menu」の「編集」をクリック（タップ）します。

「Fujitsu Menu の編集」ウィンドウが表示されます。
「項目の追加と削除」タブを選択します。

2 メニューから選択または参照選択から追加するファイルやソフトウェアを選択します。選択したら「追加」ボタンをクリック（タップ）します。

「メニュー項目」に追加したファイルやソフトウェアが表示されます。

3 「メニュー項目」のファイルやソフトウェアを選択し、「詳細」をクリックすると「詳細」ウインドウが表示されます。

「メニュー項目」の「指定ファイル名」、「表示項目名」または「オプション」など変更がある場合はここで入力します。

4 「OK」をクリック（タップ）します。

POINT

- 「Fujitsu Menu」に追加登録するには、登録するアイコンをドラッグし「Fujitsu Menu」の上まで押していき離すことでも登録することができます。
- 「Fujitsu Menu」の順番は、変更したいファイルやソフトウェアをドラッグし、上下に押して変更する場所で離すことでも変更できます。
- 「Fujitsu Menu」をご購入時の設定に戻すには、「編集」をクリック（タップ）し「Fujitsu Menu の編集」ウィンドウの「標準設定」ボタンをクリック（タップ）します。「全ての変更を標準設定に戻しますか？」とメッセージが表示された場合、「はい」をクリックすると（タップ）するとご購入時の設定に戻ります。

第 2 章

ハードウェア

本パソコンを使用する上での基本操作や、本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器の基本的な取り扱い方について説明しています。

1　疲れにくい使い方

パソコンを長時間使い続けていると、目が疲れ、首や肩や腰が痛くなることがあります。その主な原因は、長い時間同じ姿勢でいることや、近い距離で画面やキーボードを見続けることです。パソコンをお使いの際は姿勢や環境に注意して、疲れにくい状態で操作しましょう。

ディスプレイ

- 外光が直接目に入ったり画面に映り込んだりしないように、窓にブラインドやカーテンを取り付けたり、画面の向きや角度を調整しましょう。
- 画面の輝度や文字の大きさなども見やすく調整しましょう。
- ディスプレイの上端が目の位置と同じかやや低くなるようにしましょう。
- ディスプレイの画面は、顔の正面にくるように角度を調整しましょう。

使用時間

- 1 時間以上続けて作業しないようにしましょう。続けて作業をする場合には、1 時間に 10 〜 15 分程度の休憩時間をとりましょう。また、休憩時間までの間に 1 〜 2 分程度の小休止を 1 〜 2 回取り入れましょう。

2 周辺機器を取り付ける前に

取り扱い上の注意

ここでは周辺機器を接続する前に、予備知識として知っておいていただきたいことを説明します。

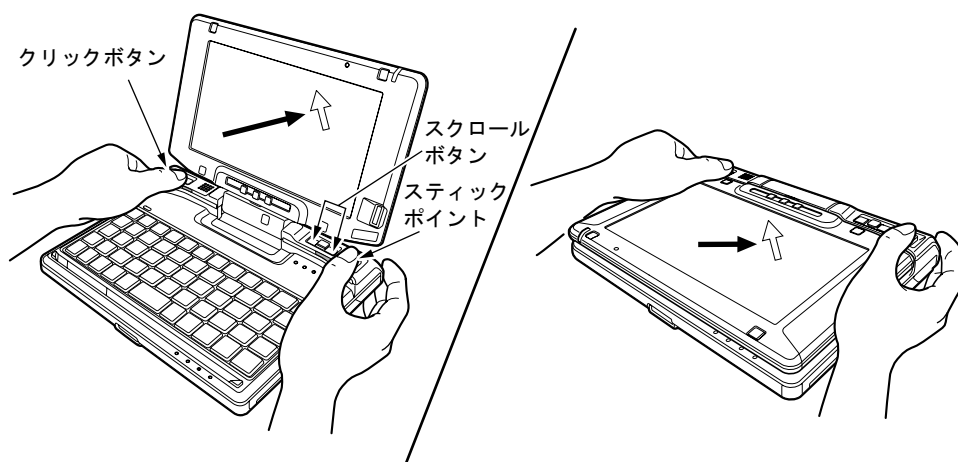
- 周辺機器によっては設定作業が必要です
  パソコンの周辺機器の中には、接続するだけでは正しく使えないものがあります。このような機器は、接続した後で設定作業を行う必要があります。たとえば、プリンタや PC カードを使うには、取り付けた後に「ドライバのインストール」という作業が必要です。また、メモリなどのように、設定作業がいらない機器もあります。周辺機器は、本書をよくご覧になり、正しく接続してください。
- マニュアルをご覧ください
  ケーブル類の接続は、本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。誤った接続状態で使用すると、本パソコンおよび周辺機器が故障する原因となることがあります。
  本書で説明している周辺機器の取り付け方法は一例です。本書とあわせて周辺機器のマニュアルも必ずご覧ください。
- 純正品をお使いください
  弊社純正の周辺機器については、販売店にお問い合わせになるか、富士通ショッピングサイト「WEBMART（ウェブマート）」（http://www.fujitsu-webmart.com/）をご覧ください。
  他社製品につきましては、本パソコンで正しく動作するかどうか、保証いたしかねます。他社製品をお使いになる場合は、製造元のメーカーにお問い合わせくださいますようお願いいたします。
- ACPI に対応した周辺機器をお使いください
  本パソコンは ACPI モードに設定されています。ACPI モードに対応していない周辺機器をお使いの場合、省電力機能などが正しく動作しない場合があります。
- 周辺機器の電源は、本パソコンの電源を入れる前に入れてください
  電源を入れて使う周辺機器を取り付けた場合は、周辺機器の電源を入れてから本パソコンの電源を入れてください。また、周辺機器の電源を切るときは、本パソコンの電源を切ってから周辺機器の電源を切ってください。

重要

- コネクタに周辺機器を取り付ける場合は、コネクタの向きを確認し、まっすぐ接続してください。
- 複数の周辺機器を取り付ける場合は、1 つずつ取り付けて設定してください。

3 ポインティングデバイスについて

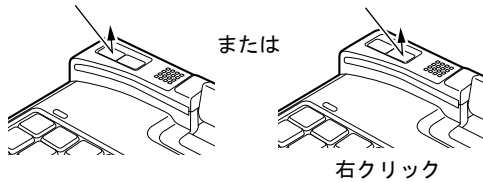
スティックポイントについて

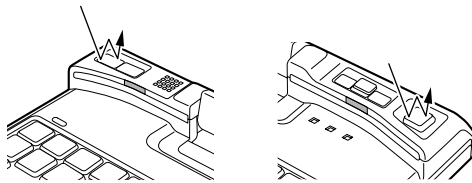
スティックポイントは、指先の操作で画面上の矢印（マウスポインタ）を動かすことのできるポインティングデバイスです。
スティックポイントは、マウスでいえばボールやセンサー部分の機能を持ち、スティックポイントを前後左右に指先で押すことにより画面上のマウスポインタを移動させます。また、軽くたたく（タップ）ことにより、クリックやダブルクリック、ポイント、ドラッグなどの操作を行うこともできます。
クリックボタンは、それぞれマウスの左右のボタンに相当し、その機能はソフトウェアにより異なります。

（イラストは機種や状況により異なります）

POINT

- スティックポイントのキャップは古くなると、表面がすべりやすくなります。キャップが古くなった場合は、添付のスティックポイント用キャップと交換してください。
  スティックポイント用キャップは、富士通サプライ品です。
  　お問い合わせ先
  　富士通コワーコ株式会社　お客様総合センター
  　電話：0120-505-279
  　受付時間：月～金／ 9:00 ～ 17:30（土・日・祝日・年末年始除く）
  　URL：http://jp.fujitsu.com/coworco/
- スティックポイントとマウスの同時使用については、「マウスのプロパティ」ウィンドウで設定できます。詳しくは、「USB マウスをお使いの場合」（→ P.32）をご覧ください。

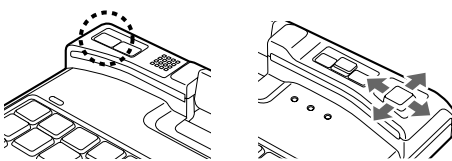
スティックポイントの使い方

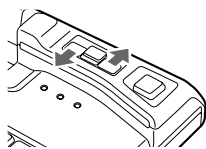
・クリック

スティックポイントを 1 回タップ（軽くたたく）するか、左ボタンをカチッと 1 回押して、すぐ離すことです。
また、右ボタンを 1 回カチッと押すことを「右クリック」といいます。

・ダブルクリック

スティックポイントを 2 回連続してタップするか、左ボタンをカチカチッと 2 回素早く押して、すぐ離すことです。

・ポイント

マウスポインタをメニューなどに合わせることです。マウスポインタを合わせたメニューの下に階層がある場合（メニューの右端に ▶ が表示されています）、そのメニューが表示されます。

・ドラッグ

左ボタンを押しながら、希望の位置までスティックポイントを押します。スティックポイントだけでドラッグする場合は、スティックポイントをタップし、押し込んだままの状態で希望の位置まで上下左右に押します。

・スクロール

戻る：向こうに押す
進む：手前に押す

ウィンドウ内のスクロールする領域をクリックしてからスクロールボタンの左右を押すと、ウィンドウ内の表示がスクロールします。

POINT

・左右のボタンの役割は、「マウスのプロパティ」ウィンドウで変更できます。
　また、「マウスのプロパティ」ウィンドウでは、マウスポインタやダブルクリック、スクロールの速度なども変更できます。
　「マウスのプロパティ」ウィンドウを表示するには、「コントロールパネル」ウィンドウにある「ハードウェアとサウンド」の「マウス」をクリックします。
・スティックポイントをタップする場合は、指先で軽く、素早く行ってください。また、力を入れて行う必要はありません。

USB マウスをお使いの場合

パソコンに USB マウスを接続すると、スティックポイントと USB マウスの両方が有効になります。

1 **「スタート」ボタン→「コントロールパネル」にある「ハードウェアとサウンド」の「マウス」をクリックします。**

「マウスのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 **「マウスのプロパティ」ウインドウでは、マウスポインタやダブルクリック、スクロールの速度も変更できます。**

POINT

- 「マウスのプロパティ」ウィンドウで、USB マウスを接続したときのスティックポイントの動作を設定するには、「Alps Pointing Device Driver」が必要です。本パソコンにはプレインストールされています。
- 「マウスのプロパティ」ウインドウで、「スティック」タブを選択するとポインティングデバイスの動作の確認と変更をすることができます。

タッチパネルについて

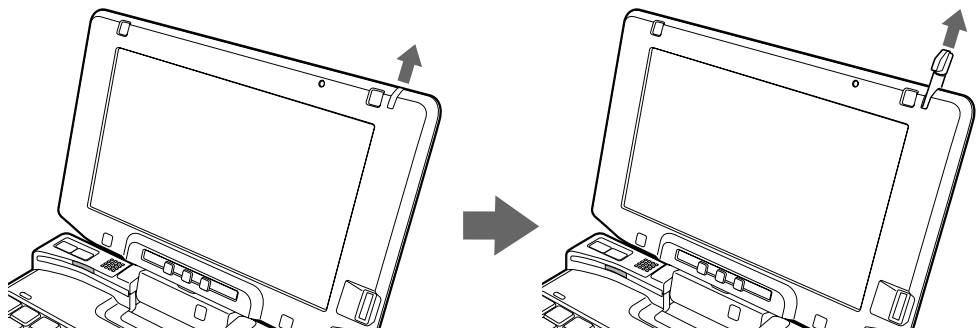
タッチパネルは、画面上で直接マウスポインタを操作できるポインティングデバイスです。本パソコンの液晶ディスプレイに貼り付けられているタッチパネルを、添付のペンで操作します。画面上を直接操作できるので、直感的でスピーディな操作が可能です。

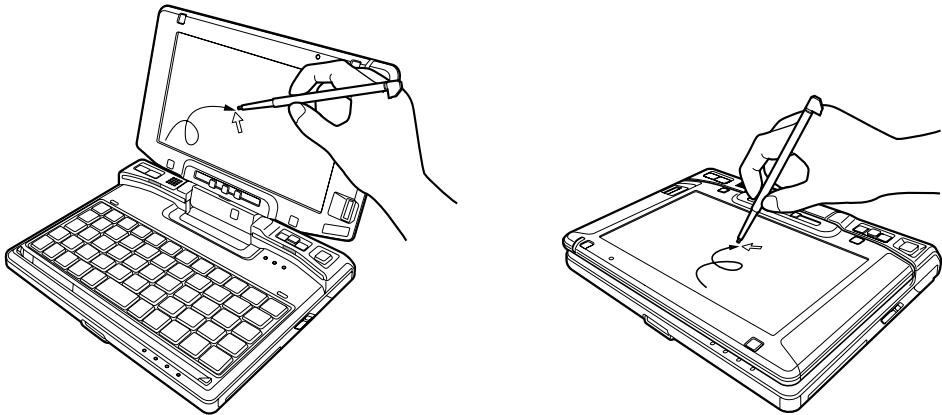
2

重要

「Tablet PC ペン トレーニング」には対応していません

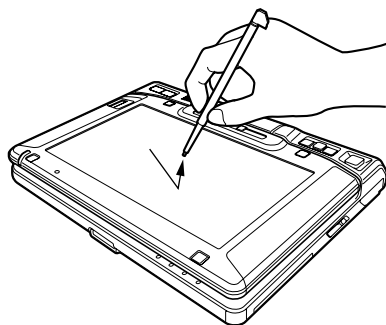
（スタート）→「すべてのプログラム」→「Tablet PC」の順にタップ（クリック）すると表示される「Tablet PC ペン トレーニング」には、このパソコンは対応していません。

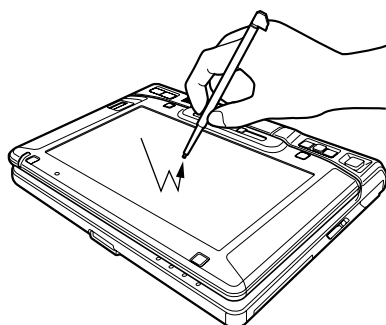
画面上部のスリットから、ペンを垂直に引き出してください。
（ペンを使わないときは、ここに差し込んでおきます）

（これ以降のイラストは機種や状況により異なります）

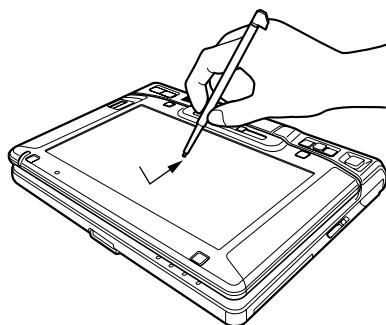
画面上でペンを移動させると、マウスポインタが移動します。

POINT

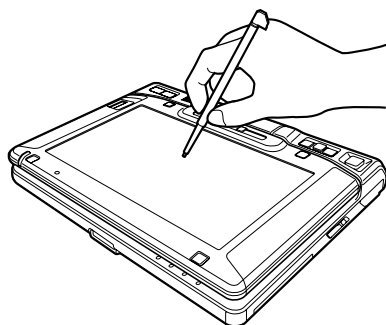
・タッチパネルは、添付のペンで操作してください。指先やボールペンなどで操作すると、パネルが汚れたり、傷がついたりします。
・ペン先が引っ込まない程度の力で操作してください。
過度の力を加えると、タッチパネルやディスプレイが破損するおそれがあります。
・ペンを使ってタッチ操作をするときは、手が触れないように気をつけてください。手で触ってしまうとマウスポインタが動いてしまいます。
・ペンを破損したり紛失したときは予備のペンをご購入ください。富士通サプライ品は、富士通コワーコ株式会社の取り扱い品です。お問い合わせ先については、『取扱説明書』をご覧ください。

タッチパネルの使い方

・タップ

ペンで画面を 1 回押します。
マウスの左クリックと同様の操作です。

・ダブルタップ

ペンで画面を素早く 2 回連続して押します。
マウスのダブルクリックと同様の操作です。

・ドラッグ

画面に軽く押し付けながらなぞります。

・ポイント

ペンで画面に軽く触れます。

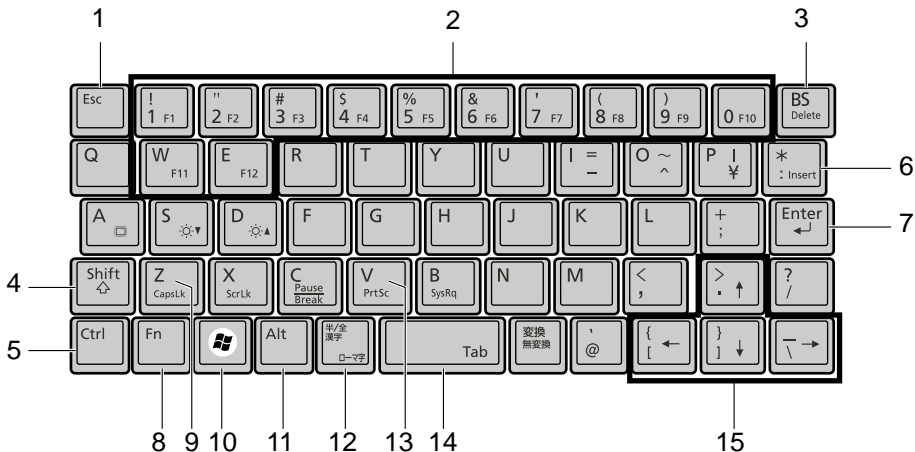
4 キーボードについて

キーボード

キーボードのキーの役割を説明します。

POINT

- お使いになるソフトウェアにより、キーの役割が変わることがあります。
  ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
- キーボードに青字で刻印されているキーは、【Fn】キーと一緒に押すとお使いになれます。

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。

主なキーの名称と働き

1【Esc】キー

ソフトウェアの実行中の操作を取り消します。また、【Ctrl】+【Shift】キーと一緒に押すと、「Windows タスクマネージャ」ウィンドウが表示され、ソフトウェアを強制終了できます。

2【F1】～【F12】キー

ソフトウェアごとにいろいろな機能が割り当てられています。【Fn】キーと一緒に押して使用します。

3【BS】キー／【Delete】キー

【BS】キー	カーソルの左にある文字や選択した範囲の文字を削除します。
【Delete】キー	【Fn】キーと一緒に押すと、カーソルの右にある文字や選択した範囲の文字、または選択したアイコンやファイルなどを削除します。 また、【Fn】+【Ctrl】+【Alt】キーと一緒に押すと、「Windows タスクマネージャ」ウィンドウまたは「Windows のセキュリティ」ウィンドウが表示され、システムを強制終了できます。

4【Shift】キー

他のキーと組み合わせて使います。

5【Ctrl】キー

他のキーと組み合わせて使います。

6【Insert】キー

【Fn】キーと一緒に押すと、文字の入力時に、「挿入モード」と「上書きモード」を切り替えます。

7【Enter】キー

入力した文字を確定したり、文を改行したり、コマンドを実行したりします。
リターンキーまたは改行キーとも呼ばれます。

8【Fn】キー

本パソコン独自のキーです。キーボードに青字で刻印されているキーを使用するときに、一緒に押します。
次のような働きがあります。

【Fn】＋【S】	液晶ディスプレイを暗くします。 「機能」－「液晶ディスプレイの明るさ設定」（→ P.80）
【Fn】＋【D】	液晶ディスプレイを明るくします。 「機能」－「液晶ディスプレイの明るさ設定」（→ P.80）
【Fn】＋【A】	外部ディスプレイ接続時に、液晶ディスプレイのみの表示、外部ディスプレイのみの表示、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示を切り替えます。 「機能」－「表示装置の切り替え」（→ P.88）

9【CapsLk】キー

【Fn】+【Shift】キーと一緒に押して、アルファベットの大文字／小文字の入力モードを切り替えます。
CapsLk を ON にすると大文字、OFF にすると小文字を入力できます。

10【 】（Windows）キー

「スタート」メニューを表示します。

11【Alt】キー

他のキーと組み合わせて使います。

12【半角／全角】キー

文字の入力時に、半角と全角を切り替えます。

13【PrtSc】キー

【Fn】キーと一緒に押すと、画面のコピーをクリップボードに取り込みます。
また、【Fn】+【Alt】キーと一緒に押すと、アクティブになっているウィンドウのコピーをとることができます。

14【Space】キー

空白を入力します（キーボード手前中央にある、横長のキーです）。

15【↑】【↓】【←】【→】キー

【Fn】キーと一緒に押すと、カーソルを移動します。

キー組み合わせ一覧

キーボードに青字で刻印されているキーを使用する場合は、【Fn】キーを押しながら該当するキーを押します。

使用したいキー	キー組み合わせ
【F1】	【Fn】＋【1】
【F2】	【Fn】＋【2】
【F3】	【Fn】＋【3】
【F4】	【Fn】＋【4】
【F5】	【Fn】＋【5】
【F6】	【Fn】＋【6】
【F7】	【Fn】＋【7】
【F8】	【Fn】＋【8】
【F9】	【Fn】＋【9】
【F10】	【Fn】＋【0】
【F11】	【Fn】＋【W】
【F12】	【Fn】＋【E】
【Delete】	【Fn】＋【BS】
【Insert】	【Fn】＋【:】
【-】	【Fn】＋【I】
【=】	【Fn】＋【Shift】＋【I】
【^】	【Fn】＋【O】
【~】	【Fn】＋【Shift】＋【O】
【¥】	【Fn】＋【P】
【|】	【Fn】＋【Shift】＋【P】
【▭】	【Fn】＋【A】
【☼▼】	【Fn】＋【S】
【☼▲】	【Fn】＋【D】
【CapsLk】	【Fn】＋【Z】
【ScrLk】	【Fn】＋【X】
【Pause/Break】	【Fn】＋【C】
【PrtSc】	【Fn】＋【V】
【SysRq】	【Fn】＋【B】
【Tab】	【Fn】＋【Space】
【無変換】	【Fn】＋【変換】
【↑】	【Fn】＋【.】
【←】	【Fn】＋【[】
【↓】	【Fn】＋【]】
【→】	【Fn】＋【\】

テンキーモードについて

パソコン本体のキーボードには【Num Lock】キーを搭載していないため、テンキーモードに切り替えることはできません。

5 バッテリについて

バッテリを充電する

1 AC アダプタを接続します。

AC アダプタを接続すると、充電が始まります。
状態表示 LED のバッテリ充電ランプ（）が点灯し、内蔵バッテリパックの充電状態が表示されます（→ P.38）。

2 バッテリ充電ランプが緑色点灯に変わったら、AC アダプタを取り外します。

POINT

- 充電時間については、『取扱説明書』の「仕様一覧」をご覧ください。
- 本パソコンご購入時、または 1ヶ月以上充電していない場合は、バッテリを充電してからお使いください。
- バッテリの充電は、バッテリ充電ランプが緑色点灯するまで充分に時間をかけて行い、満充電状態にしてください。
- バッテリ残量が 90%以上残っている場合は、AC アダプタを取り付けても充電されません。89%以下で充電されます。
- 電源が切れている場合、充電が完了してしばらくすると状態表示 LED の全表示が消灯します。
- 周囲の温度が高すぎたり低すぎたりすると、バッテリの充電能力は低下します。
- バッテリ運用直後の充電などでは、バッテリの温度が上昇しているため、バッテリの保護機能が働いて充電が行われない場合があります(バッテリ充電ランプがオレンジ点滅します)。しばらくして、バッテリの温度が低下すると充電が開始されます。

バッテリの充電状態（バッテリ充電ランプ）

本パソコンに AC アダプタが接続されている場合、状態表示 LED のバッテリ充電ランプに、内蔵バッテリパックの充電状態を表示します。

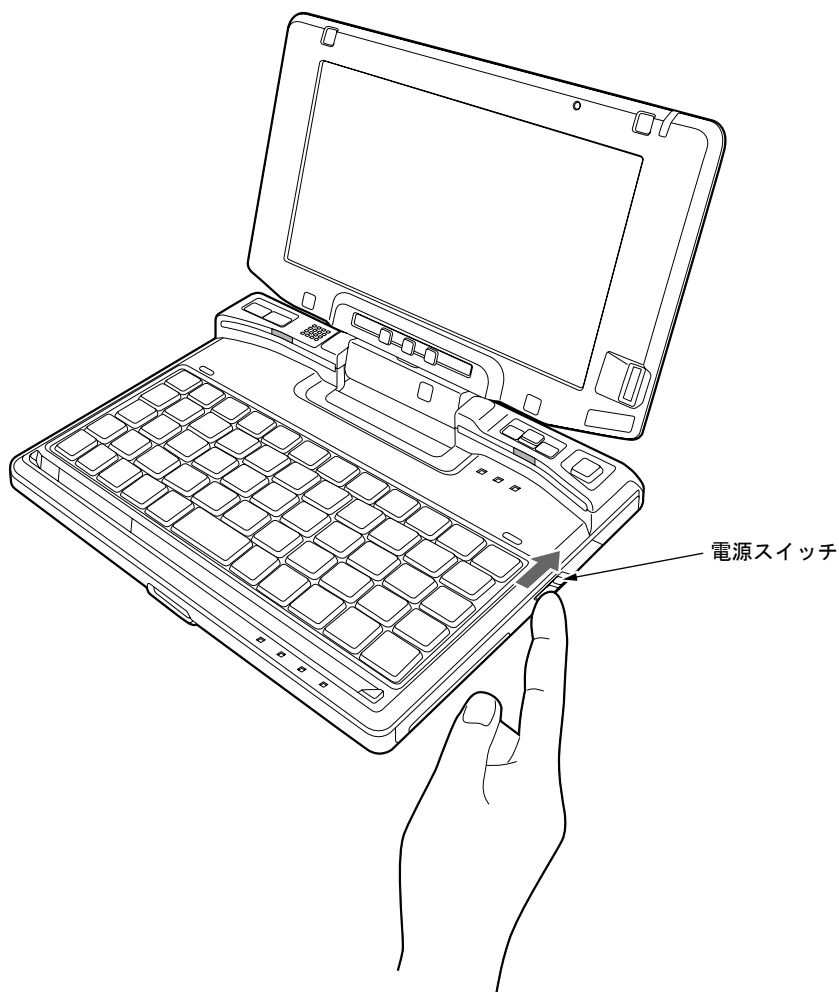
LED 表示	バッテリパックの充電状態
緑色点灯	充電終了
オレンジ点灯	充電中
オレンジ点滅	充電停止中（バッテリ温度アラーム時など注)

注：バッテリ温度アラームとは、内蔵バッテリパックが熱を持って温度が高くなったり、冷やされて温度が低くなった場合に、バッテリの保護機能が働いて充電を停止することです。

POINT

- バッテリ充電ランプが消灯している時は、AC アダプタが接続されていません。
- 内蔵バッテリパックが取り付けられていない場合にも、バッテリ充電ランプが「緑色点灯」表示になります。
- 充電時には AC アダプタの表面が通常の使用時より熱くなる場合があります。

バッテリで運用する

1 **AC アダプタを取り外し、電源スイッチをスライドさせます。**

（イラストは機種や状況により異なります）

POINT

・周囲の温度が低いと、バッテリ稼働時間は短くなります。
・バッテリ稼働時間については、『取扱説明書』の「仕様一覧」をご覧ください。
・バッテリを長期間使用すると充電する能力が低下するため、バッテリ稼働時間が短くなります。稼働時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリに交換してください(→P.43)。

バッテリ残量を確認する

バッテリの残量は、電源が入っているときや充電中に、状態表示 LED のバッテリ残量ランプで確認できます。

バッテリの残量表示（バッテリ残量ランプ）

パソコンが動作状態のときは点灯し、スリープのときは点滅します。

緑色点灯／点滅　　約 100%～約 50%のバッテリレベルを示します。

⇩

オレンジ点灯／点滅　　約 49%～約 13%のバッテリレベルを示します。

⇩

赤色点灯／点滅　　LOW バッテリ状態（約 12%以下のバッテリレベル）を示します。

POINT

- バッテリ残量ランプは、バッテリ（リチウムイオン電池）の特性上、使用環境（温度条件やバッテリの充放電回数など）により、実際のバッテリ残量とは異なる表示をする場合があります。
- バッテリ残量が 90%以上残っている場合は、AC アダプタを取り付けても充電されません。89%以下で充電されます。
- バッテリ残量ランプは、動作状態またはバッテリ充電中に点灯します。スリープ状態で、AC アダプタが接続されていない場合には、点灯ではなく点滅になります。
- 電源 ON 時に早い間隔で赤色点滅する場合は、バッテリが正しく充電できないことを示します。

バッテリ温度アラーム（バッテリ充電ランプ）

バッテリ充電ランプのオレンジ点滅は、内蔵バッテリパックが熱を持って温度が高くなったり、冷やされて温度が低くなったときに、バッテリの保護機能が働いて充電を停止していることを表しています。しばらくして内蔵バッテリパックの温度が平常に戻ると、点灯になり充電を再開します。

バッテリの異常表示（バッテリ残量ランプ）

バッテリ残量ランプが、早い間隔で赤色点滅する場合は、バッテリが正しく充電できないことを示します。

POINT

- バッテリ残量ランプが早い間隔で赤色点滅している場合は、パソコン本体の電源を切ってからバッテリの取り付けをやり直してください。それでも赤色点滅している場合はバッテリが異常です。新しいバッテリと交換してください。
  内蔵バッテリの交換については「内蔵バッテリパックを交換する」（→ P.43）をご覧ください。

LOW バッテリ状態

バッテリが LOW バッテリ状態になると、状態表示 LED のバッテリ残量ランプが赤色点灯／点滅します。すみやかに AC アダプタを接続して、バッテリを充電してください。

POINT

- LOWバッテリ状態のまま使用し続けると、作成中または保存中のデータが失われることがあります。すみやかにACアダプタを接続してください。また、ACアダプタがない場合は、作成中のデータを保存し、動作中のソフトウェアを終了後、本パソコンの電源を切ってください。
- ハードディスクへの読み書きは大量の電力を使います。LOWバッテリ状態で、ハードディスクへデータを保存する場合は、ACアダプタを接続してください。
- LOWバッテリ状態のまま放置すると、自動的にスリープします。ただし、ハードディスクなどへデータの読み書きを行っている場合は、その処理が終了するまでスリープしません。
- 本パソコンではバッテリ残量が約7%になったら、自動的に休止状態になるように設定されています。

取り扱い上の注意

⚠警告

- バッテリの交換などで、バッテリパックの取り付け／取り外しを行うときは、落としたり、強い衝撃を与えないでください。また、落としたり、強い衝撃を与えたバッテリパックは使用しないでください。
  感電や火災、バッテリパックの破裂の原因となります。

- 充電時には AC アダプタの表面が高温となります。布の上に置く等、放熱の妨げとなる場所へは置かないで下さい。

- **分解しないでください**
  バッテリを分解して内部に触れると、感電・火災の原因となります。
- **放電について**
  - バッテリは、充電後にお使いにならなくても、少しずつ自然放電していくので、使う直前に充電することをお勧めします。
  - 長期間（約 1ヶ月以上）本パソコンをお使いにならない場合は、バッテリを取り外して涼しい場所に保管してください。パソコン本体に取り付けたまま長期間放置すると過放電となり、バッテリの寿命が短くなります。
- **寿命について**
  - パソコン本体を長期間使用しない場合でも、バッテリは消耗し劣化します。月に一度はパソコン本体をバッテリで運用し、バッテリの状態を確認してください。
  - 高温環境に放置した場合、バッテリの消耗、劣化が進みます。
  - 短時間に大量の電力を消費したり、バッテリ切れ状態になるまで使用したりすると、バッテリの消耗、劣化が進みます。
    「電源オプションのプロパティ」または「電源の管理のプロパティ」で次のように設定すると、バッテリの寿命が長くなります。
    - 「電源設定」で「バッテリの最大利用」またはそれに準じた設定にする
    - 「アラーム」タブの「バッテリ切れアラーム」のチェックを外さない
  - バッテリは消耗品なので、長期間使用すると充電能力が低下します。その場合は新しいバッテリと交換してください。
  - バッテリの稼働時間が極端に短くなってきたらバッテリの寿命です。

- 寿命になったバッテリは、パソコン本体から取り外してください。取り付けたまま放置すると、感電や火災の原因となります。

・廃棄・リサイクルについて

バッテリを廃棄する場合は、ショート（短絡）防止のために、バッテリパックのコネクタに絶縁テープを貼るなどの処置を行ってください。なお、取り外したバッテリパックは乾電池などの電池と混ぜないようにしてください。
また、バッテリパック（リチウムイオン電池）は、貴重な資源です。廃棄する場合は、リサイクルにご協力をお願いします。
バッテリパックのリサイクルについては、『取扱説明書』をご覧ください。

・バッテリ稼働時間について

- バッテリ稼働時間を長くするには、省電力機能を利用します。詳しくは、「機能」－「省電力」（→ P.118）をご覧ください。
- バッテリ稼働時間は環境温度に影響され、低温時はバッテリ稼働時間が短くなる場合があります。

・次のような場合は AC アダプタを使用してください

- ハードディスクや CD などを頻繁に使用するとき
- LAN を頻繁に使用するとき
- 本パソコンをご購入時の状態に戻すとき

・次のような場合は、バッテリ残量に注意してください

- 無線 LAN などのワイヤレス機器を使用するとき
- BIOS セットアップを操作するとき

内蔵バッテリパックを交換する

内蔵バッテリパックの交換は、プログラムやデータをハードディスクなどに保存してから行います。

⚠警告

・バッテリパックの交換を行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。また、パソコン本体やバッテリパックのコネクタに触れないでください。
感電や故障の原因となります。

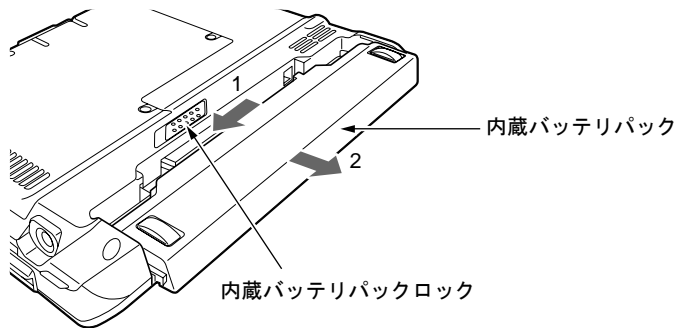
POINT

新しい内蔵バッテリパックは、次の製品をお買い求めください。

・品名：内蔵バッテリパック
型名：FMVNBP161
・品名：内蔵バッテリパック (L)
型名：FMVNBP162
詳しくは、ご購入元にお問い合わせください。

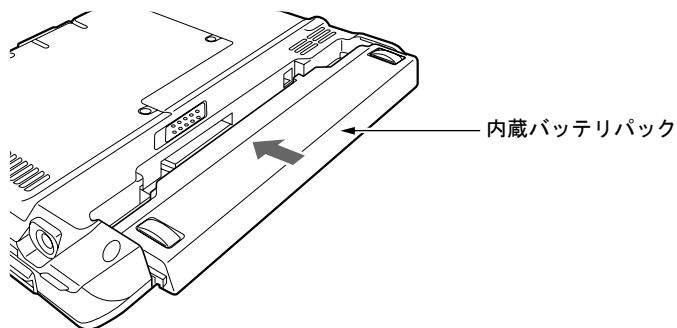
1 **パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します（→『取扱説明書』）。**

2 **液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。**

3 **内蔵バッテリパックロックを矢印の向きにスライドさせながら（1）、内蔵バッテリパックを取り外します（2）。**

（これ以降のイラストは機種や状況により異なります）

4 新しい内蔵バッテリパックを取り付けます。

内蔵バッテリパックをパソコン本体と水平に差し込み、カチッと音がするまで押し込みます。バッテリパックは自動的にロックされます。

重要

・取り外した内蔵バッテリパックは、ショート（短絡）防止のために、内蔵バッテリパックのコネクタに絶縁テープを貼るなどの処置をしてください。なお、取り外した内蔵バッテリパックは乾電池などの電池と混ぜないようにしてください。また、内蔵バッテリパック（リチウムイオン電池）は、貴重な資源です。廃棄する場合は、リサイクルにご協力をお願いします。
リサイクルについては、『取扱説明書』をご覧ください。

ポータブルCD/DVDドライブについて

使用できるディスク

ここでは、富士通 WEB MART でご購入時にポータブル CD/DVD ドライブを選択された方がこのパソコンでお使いになることのできる CD や DVD について説明します。

・このパソコンで使える CD や DVD の種類は次の表のとおりです。

ドライブ[注1]	ポータブルスーパーマルチドライブ			ポータブル CD-RW/DVD-ROM ドライブ		
	読み出し（再生）[注2]	書き込み	書き換え	読み出し（再生）[注2]	書き込み	書き換え
CD-ROM 音楽 CD ビデオ CD フォト CD	○	×	×	○	×	×
CD-R	○	○[注3]	×	○	○[注3]	×
CD-RW	○	○[注3][注4]	○[注4]	○	○[注3][注4]	○[注4]
DVD-Audio	×	×	×	×	×	×
DVD-ROM DVD-VIDEO	○[注5]	×	×	○[注5]	×	×
DVD-R for Authoring（3.95GB・4.7GB）	○	×	×	○	×	×
DVD-R for General（4.7GB）	○	○[注3]	×	○	×	×
DVD-RW	○	○[注3][注4]	○[注4]	○	×	×
DVD-RAM（2.6GB・5.2GB）	○	×	×	○	×	×
DVD-RAM[注6]（4.7GB・9.4GB）	○	○	○	○	×	×
DVD+R（4.7GB）	○	○[注3]	×	○	×	×
DVD+RW（4.7GB）	○	○[注3][注4]	○[注4]	○	×	×
DVD+R DL（8.5GB）	○	○[注3]	×	○	×	×
DVD-RAM2[注7]	×	×	×	×	×	×

注1：選択したドライブをご確認ください。

注2：ディスクによってはご利用になれない場合もあります。また、ディスクの種類によっては、専用の再生ソフトが添付されている場合があります。ディスクに添付の再生ソフトをインストールした場合、「WinDVD」での再生は保証いたしません。また、ディスクに添付されている再生ソフトについても、弊社では保証いたしません。

注 3：データの追記が可能な CD や DVD への追記は「Easy Media Creator」で行います。なお、データの追記を行うためには、「Easy Media Creator」を使って CD や DVD にデータの書き込みを行う際に、CD や DVD を追記可能な状態にしておく必要があります。詳しくは「Easy Media Creator」をご覧ください。

注 4：CD-RW や DVD-RW、DVD+RW に書き込んだデータを削除するには、ディスクに書き込まれているデータをすべて消去する必要があります。

注 5：DVD-VIDEO は、リージョン（地域）コードに［2］が含まれているか、もしくは［ALL］のものを使用できます。

注 6：購入した DVD-RAM を使いはじめるには、DVD-RAM のフォーマットを行う必要があります。DVD-RAM のフォーマットについては、「DVD-RAM への書き込み／書き換えについて」をご覧ください。

注 7：DVD-RAM2 は、5 倍速までの従来規格の DVD-RAM と異なり、6、8、12、16 倍速に対応した DVD-RAM です。

・本製品に使用するディスクは、以下のものを推奨します。

ポータブルスーパーマルチドライブをお使いの場合

ディスク	メーカー
CD-R	太陽誘電（株）、三菱化学メディア（株）、日立マクセル（株）
CD-RW	三菱化学メディア（株）、富士通サプライ品
DVD-R	松下電器産業（株）、太陽誘電（株）、三菱化学メディア（株）
DVD-R DL	三菱化学メディア（株）
DVD-RW	日本ビクター（株）、三菱化学メディア（株）
DVD-RAM	松下電器産業（株）、日立マクセル（株）
DVD+R	（株）リコー、三菱化学メディア（株）
DVD+R DL	三菱化学メディア（株）
DVD+RW	（株）リコー、三菱化学メディア（株）

ポータブル CD-RW/DVD-ROM ドライブをお使いの場合

ディスク	メーカー
CD-R	太陽誘電（株）、（株）リコー、三菱化学メディア（株）、日立マクセル（株）
CD-RW	三菱化学メディア（株）、富士通サプライ品

富士通サプライ用品については、以下にお問い合わせ下さい。

富士通コワーコ株式会社　お客様総合センター

0120-505-279

9:00 〜 17:30 （土曜・日曜・祝日・年末年始除く）

http://jp.fujitsu.com/coworco/

DVD-RAM ディスクについて

・DVD-RAM ディスクは、「記録できる DVD」として、パソコンデータの大容量記録再生を目的に開発されたリムーバブルディスクです。

DVD-RAM ディスクには、以下のタイプがあります。

- TYPE1：カートリッジからのディスクの取り出しはできません。
- TYPE2：片面のディスクで、カートリッジからディスクの取り出しができます。
- TYPE4：両面のディスクで、カートリッジからディスクの取り出しができます。
- カートリッジなし

・本機でご使用いただける DVD-RAM ディスクは、カートリッジなしのタイプです。TYPE2 または TYPE4 の DVD-RAM ディスクは、カートリッジからディスクを取り出してご使用ください。また TYPE1 はご使用できませんのでご注意ください。

本製品では読み出しのみ対応しています。

重要

- 省電力モードには対応しておりません。
- 円形以外（星型やカード型などの変形）のディスクはお使いにならないでください。正常に読み出しや書き込みが行えなかったり、故障の原因となる場合があります。
- ゆがんだディスク、割れたディスク、ヒビの入ったディスクはお使いにならないでください。ドライブ内部で破損したり、故障の原因となることがあります。これらのディスクをお使いになり故障した場合は、保証の対象外になります。
- 市販の CD-ROM クリーニングディスクを使ってクリーニングを行うと、レンズにゴミなどが付着することがあります。CD-ROM クリーニングディスクはお使いにならないでください。
- 規格外の厚さの DVD 媒体はお使いにならないでください。DVD 規格では媒体の厚さを 1.14mm ～ 1.5mm と規定しています。記録面が薄い媒体など、一部でもこの範囲外の厚さになっている媒体をお使いになると故障する場合があります。規格外の DVD 媒体をお使いになり故障した場合は保証の対象外となります。
- コピーコントロール CD については、現状の音楽 CD の規格に準拠していない特殊なディスクのため、本パソコンでの再生および動作保証はできません。コピーコントロール CD のご使用中に不具合が生じた場合は、各コピーコントロール CD の発売元にお問い合わせください。なお、正式な音楽 CD 規格に準拠した CD には、次のようなロゴが表示されています。

POINT

- 不正コピー防止の仕様に準拠していない DVD ディスクや Video CD は、正常に再生できない場合があります。
- DVD-Audio はお使いになれません。
- 本パソコンで作成した CD-R/RW は、お使いになる CD プレーヤーによっては再生できない場合があります。
- 本パソコンで作成した DVD-RAM、DVD-R/RW、DVD-R DL、DVD+R/RW、および DVD+R DL は、お使いになる DVD プレーヤーによっては再生できない場合があります。
  また、再生に対応した DVD プレーヤーをお使いの場合でも、ディスクの記録状態によっては再生できない場合があります。

取り扱い上の注意

ディスクご使用時の注意事項

- ディスクは両面ともラベルを貼ったり、ボールペンや鉛筆などで字を書いたりしないでください。
- データ面をさわったり、傷をつけたりしないでください。
- 曲げたり、重いものを載せたりしないでください。
- 汚れたり、水滴がついたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側に向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。
- パソコン本体のディスクアクセスランプが点灯中は、振動や衝撃を与えないでください。
- CD 自動再生機能（オートラン）が有効に設定されていると、正しく書き込みができないライティングソフトウェアがあります。ソフトウェアの指示に従って CD 自動再生機能を設定してください。

・ディスクに書き込み中は、パソコン本体の電源を切ったり、再起動したり、CD/DVD 取り出しボタンを押したりしないでください。また、タブレットボタンの【CTR】+【ALT】+【DEL】ボタンやキーボードの【Ctrl】＋【Alt】＋【Fn】+【BS】キーをを押す操作もしないでください。
・書き込み中にディスクのディスク面に傷を検出した場合、書き込みを中断することがあります。
・ディスクに書き込み／書き換えをする場合にスリープや休止状態、パソコンのディスプレイの電源が切れる状態にならないように設定を変更してください。
・ディスクへの書き込みには、多くの電力を使用します。パソコン本体に AC アダプタを取り付けてお使いください。
・ディスクへの書き込み中は、他のソフトウェアを起動しないでください。他のソフトウェアを起動している場合は、そのソフトウェアを終了させてください。

DVD-Video ご使用時の注意事項

・次の DVD-Video がお使いになれます。
- DVD-Video に記録されているリージョン（地域）コードに「2」が含まれているか、「ALL」と書かれているディスク。
・ディスクの種類によっては、専用の再生ソフトが添付されている場合があります。ディスクに添付の再生ソフトをインストールした場合、「WinDVD」での再生は保証いたしません。また、ディスクに添付されている再生ソフトについても、弊社では保証いたしません。
・リージョン（地域）コードについて
- リージョン（地域）コードの変更は 4 回までです。
リージョン（地域）コードを 4 回変更すると、最後に設定したリージョン（地域）コードに固定され、その他のリージョン（地域）コードの DVD-Video は再生できなくなります。固定されたリージョン（地域）コードを変更する方法はありませんのでご注意ください。
- 前回再生した DVD-Video と、リージョン（地域）コードが異なる DVD-Video を再生しようとすると、リージョン（地域）コード変更を確認するメッセージ画面が表示されます。このメッセージ画面で「OK」をクリックすると、リージョン（地域）コードの設定が変更されます。
- ご購入時のリージョン（地域）コードは「2」です。
・DVD のディスクの種類によっては、著作権保護のため、コピープロテクトがかかっている場合があります。「WinDVD」では、著作権保護として、デスクランブル機能および相互認証（Authentication）機能が用意されています。著作権保護のされたデータなどをコピーし、再生しても、相互認証エラー（Authentication Error）となり、再生できません（This DVD can't be played in this Region. と表示されます）。

DVD ディスク再生時の注意事項

・再生する DVD-Video によっては、コマ落ちをする場合があります。
・画面の解像度や発色数をご購入時の状態から変更している場合は、DVD-VIDEO を再生するときに、ご購入時の状態に戻してください。他の値に設定すると DVD-VIDEO が正しくご覧になれない場合があります。
- 解像度：1024 × 600
- 発色数：最高（32 ビット）
・「WinDVD」の設定を変更した直後は、DVD-Video の再生が不安定になる場合があります。
・キャプション表示とサブタイトル表示を、同時に表示することはできません。
・MPEG1 のデータによっては再生できないものがあります。

- 市販されているウイルス対策ソフトと「WinDVD」を同時に起動することはできません。自動検索の機能を持つウイルス対策ソフトに関しては、「WinDVD」を起動する前に、一時的に起動しないようにしてください。なお、本パソコンに添付のウイルス対策ソフトは問題ありません。
- DVD-Video の再生中に他のソフトウェアを起動すると、コマ落ち／音飛びする場合があります。コマ落ち／音飛びを防ぐために、起動しているソフトウェアはすべて終了してください。
  なお、定期的に自動起動して、ウイルスチェック、ディスクメンテナンス、データベース更新およびデータ送受信処理などを行うソフトウェアについても、その頻度により音や映像の再生に影響が出ますので、必要に応じて終了してください。
- DVD ディスクおよびビデオ CD によっては、再生される映像データが表示エリア全体に表示されないものがあります。この場合は、表示の一部が黒くなります。
- マウスカーソルのデザインによっては、DVD 再生画面の上に移動したときにマウスカーソルが点滅することがあります。このような時は、「マウスのプロパティ」ウィンドウの「ポインタ」タブで、「デザイン」の設定を「なし」に変更してください。
- 縦横比が 16:9 で録画されている DVD-Video をフルスクリーン表示をさせた場合、ズーム機能が使用できないことがあります。

POINT

- スーパーマルチドライブをお使いの場合は、次の点にご注意ください。
  - 不正コピー防止の仕様に準拠していない DVD ディスクやビデオ CD は、正常に再生できない場合があります。
  - 本パソコンでは DVD-Audio など「使用できるディスク」（→ P.45）に記載されていないディスクの再生および動作保証はできません。
- 「WinDVD」では DVD-Video および DVD-VR/+VR フォーマットのデータのみ再生できます。その他の形式でフォーマットされたデータの再生および動作保証はできません。
- DTS で記録された DVD-VIDEO は、このパソコンでは音声再生ができません。
- DVD はソフト制作者の意図により再生状態が決められていることがあります。
  「WinDVD」では、ソフト制作者が意図したディスク内容に従って再生を行うため、操作したとおりに機能が働かない場合があります。
  再生するディスクのマニュアルも必ずご覧ください。
- 液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示の時には、コピープロテクトされた DVD-VIDEO は再生できません。

DVD-RAM への書き込み／書き換えについて

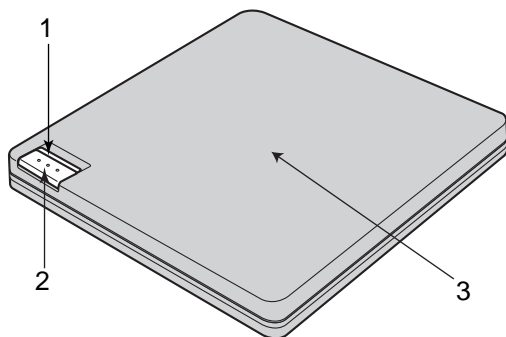
スーパーマルチドライブでDVD-RAMをお使いになる場合には､あらかじめDVD-RAMディスクをフォーマット（初期化）する必要があります。
9.4GB の両面タイプの DVD-RAM ディスクについては、片面ごとにフォーマットしてください。

DVD-RAM ディスクに書き込むときの準備

・DVD-RAM を初めてお使いになる場合は、DVD-RAM をこのパソコンで読み書きできるようにするフォーマット（初期化）を行う必要があります。
9.4GB の両面タイプの DVD-RAM については、片面ごとにフォーマットしてください。

1. 「スタート」ボタン→「コンピュータ」の順にクリックします。
2. DVD-RAM を割り当てているドライブを右クリックし、「フォーマット」をクリックします。
3. 「ファイルシステム」の ▾ をクリックして、一覧から「UDF2.00」をクリックします。
   他の形式は選択しないでください。
4. 「ボリュームラベル」に名前を入力します。
5. 「開始」ボタンをクリックします。
6. 「はい」をクリックすると、フォーマットが始まります。
7. 「フォーマットが終了しました」と表示されたら、「OK」をクリックします。
8. 「閉じる」をクリックします。

各部の名称と働き

表面

1 インジケーター

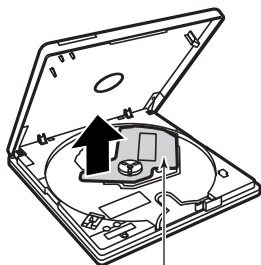
・緑色点灯：本製品の電源が入っている状態です。
・オレンジ色点灯：記録・再生している状態です。
SmoothLink 機能時は一時的に緑色点灯に変化します。

2 オープンボタン

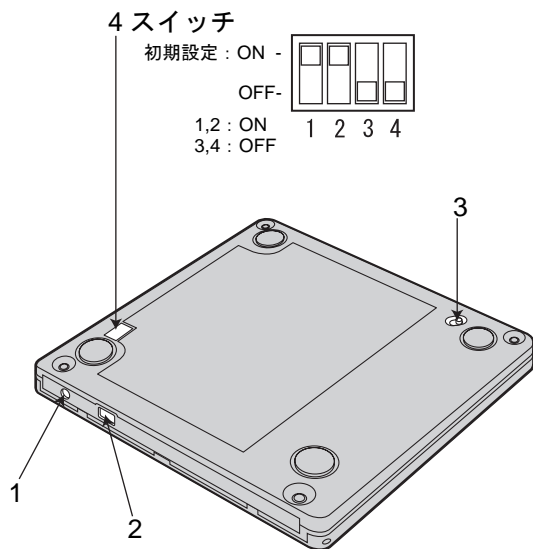
ディスクに記録中はロックされています。

3 ディスクカバー

重要

・ディスクカバーを開くには「ディスクをセットする／取り出す」（→P.55）をご覧ください。
・ご使用になる前に必ずポータブル CD/DVD ドライブのレンズ保護シートを取り外してください。

POINT

・オープンボタンを押したり、記録が終了した場合などに、ディスクカバーのロックが解除されます。続けてご使用になる場合は、ディスクカバーを完全に開いてからディスクカバーを閉じてください。

裏面

1 DC 入力端子

2 USB コネクタ

3 強制オープンレバー（→ P.57）

4 スイッチ

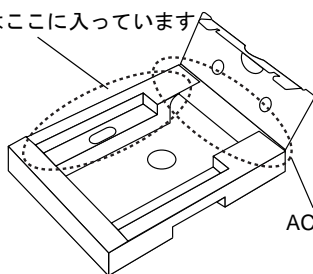
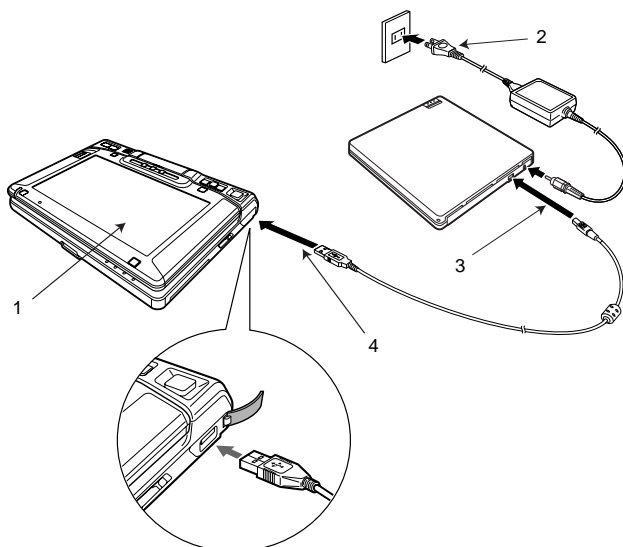
スイッチは初期設定で使用してください。
スイッチの設定を変更した場合、ポータブル CD/DVD ドライブ及びパソコン本体の故障の原因となります。

ポータブル CD/DVD ドライブの取り付け／取り外し

本体とポータブル CD/DVD ドライブの接続

接続は確実に行ってください。

重要

- 添付のUSB ケーブル以外は使用しないでください（ポータブルCD/DVDドライブやパソコン本体を損傷するおそれがあります）。
- ポータブルCD/DVDドライブは、ACアダプタ(ポータブルCD/DVDドライブ用)とACケーブル(ポータブルCD/DVDドライブ用)を接続しないと使うことができません。ポータブルCD/DVDドライブには、ポータブルCD/DVDドライブ用のACアダプタとACケーブルを必ず接続してください。ACアダプタとACケーブルは、ポータブルCD/DVDドライブの箱の次の場所に入っています。

- ポータブルCD/DVDドライブの箱に入っている取扱説明書はお使いになれません（掲載されている情報の一部が本パソコンの仕様と異なっています）。
- ポータブルCD/DVDドライブの箱に入っているCDはお使いになれません。本パソコンにインストール済みのソフトウェアを使用するか、本パソコンに添付されている「アプリケーションディスク2」をお使いください。
- 長時間使用しないときは、節電のためACアダプタを電源コンセントから抜いておいてください。ACアダプタを接続した状態では、再生や書き込みをしなくても、約1Wの電力を消費しています（AC100V時）。
- ACアダプタを電源コンセントに接続する場合は、ポータブルCD/DVDドライブ近くの容易に抜き差しできる電源コンセントをお使いください。
- ポータブルCD/DVDドライブは、パソコン本体またはポートリプリケータのUSBコネクタに直接接続してください。USBハブ経由での接続は動作保証いたしかねます。

（イラストは機種や状況により異なります）

1 パソコン本体を起動します。

2 ポータブル CD/DVD ドライブに AC アダプタを接続します。

3 付属の USB ケーブルのコネクタ（小さい方）を、ポータブル CD/DVD ドライブの USB コネクタに差し込みます。

4 USB ケーブルのもう片方のコネクタ（大きい方）をパソコンの USB コネクタに差し込みます。

ポータブル CD/DVD ドライブの電源が自動的に入り、インジケータが緑色に点灯します。

POINT

・ポータブルCD/DVDドライブの電源は、パソコンの電源に連動して自動的にオン／オフされます。ただし、パソコン本体によっては、パソコン本体の電源を切っても、ポータブルCD/DVDドライブの電源が切れない場合があります。
・USBケーブルを抜き差しすることで、ポータブルCD/DVDドライブの電源は自動的にオン／オフされます。

USB ケーブルの取り外し

重要

・USB ケーブルを取り外す前に、書き込みソフトでの記録やデータ・音楽の再生などの作業を終了し、あらかじめポータブル CD/DVD ドライブからディスクを取り出してください。

1 画面右下の通知領域にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックします。

メッセージが表示されます。

2 表示されたメッセージをクリックします（表示されるメッセージは状況により異なります）。

「USB 大容量記憶装置デバイス - ドライブ (E:) を安全に取り外します」

3 「このデバイスはコンピュータから安全に取り外すことができます。」と表示されるのを確認して、「閉じる」ボタンまたは「OK」をクリックします。

4 USB ケーブルを抜きます。

POINT

・インジケーターがオレンジ色に点灯中は、USB ケーブルや AC アダプタを抜かないでください。また、スリープ／休止状態に移行させないでください。
データ破壊のおそれやパソコンが正常に操作できなくなることがあります。パソコンの操作が正常にできなくなった場合には、Windows を再起動してください。
・ポータブル CD/DVD ドライブにディスクが入っている状態では USB ケーブルを抜かないでください。

ディスクをセットする／取り出す

ポータブル CD/DVD ドライブは電動オープン機構になっているため、電源が入っていないときはオープンボタンを押してもディスクカバーは開きません。

重要

・ディスクはデータの読み出しなどの際、高速で回転するため、使用時に振動や風切音がすることがあります。

POINT

・ディスクカバーは、ディスクのセット／取り出しの場合以外は閉めておいてください。ほこりが入り、故障の原因となります。
・レンズに手を触れないでください。故障の原因となります。

ディスクのセット

1 ポータブル CD/DVD ドライブをパソコンに接続します。

ポータブル CD/DVD ドライブの電源は、パソコン本体の電源に連動して自動的にオン／オフされます。

POINT

・パソコン本体の電源の入れ方については、パソコン本体に添付のマニュアルをご覧ください。

2 オープンボタンを押します。

ディスクカバーが少し開きます。

3 ディスクカバーを持ち上げて開きます。

4 ディスクをセットします。

ディスクの中心付近をディスクが固定されるまで指で押さえてはめ込みます。

重要

・ディスクをセットするときは、トレー中央の突起にディスクの穴を合わせ、パチッと音がするまでしっかりとはめ込んでください。ディスクをきちんとはめ込まないと、ディスクがドライブ内部で外れて、ドライブ内部およびディスクを破損する原因となることがあります。

5 **ディスクカバーを閉じます。**

POINT

・オープンボタンを押したり、記録が終了した場合などに、ディスクカバーのロックが解除されます。そのまま続けてご使用いただく場合は、ディスクカバーを一度完全に開いてからディスクカバーを閉じてください。
・ポータブル CD/DVD ドライブで使用できる DVD-RAM ディスクは、カートリッジなしのタイプです。TYPE2 または TYPE4 の DVD-RAM ディスクは、カートリッジからディスクを取り出してご使用ください。

ディスクの取り出し

重要

・ディスクの取り出し操作をする前に、ポータブルCD/DVDドライブのインジケータがオレンジ色に点灯していないことを確認してください。

POINT

・データ書き込み中（インジケータがオレンジ色に点灯中）は、ディスクカバーがロックされているため、書き込みが終了するまでディスクカバーを開けることはできません。

1 **オープンボタンを押します。**

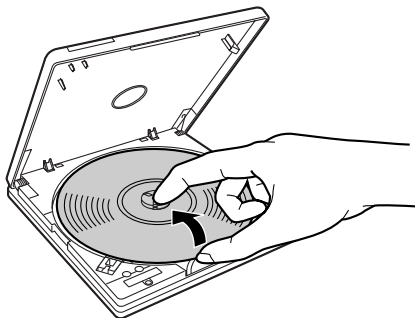
ディスクカバーが少し開きます。

2 **ディスクカバーを持ち上げて開きます。**

3 **ディスクを取り出します。**

中央部分を押さえながら、端の方からつまみあげるようにして、取り出します。

POINT

・ポータブル CD/DVD ドライブにディスクが入っている場合は、使用中のソフトウェアからディスクの「取り出し」を選択してもディスクカバーを開くことができます。

ディスクが取り出せないときは

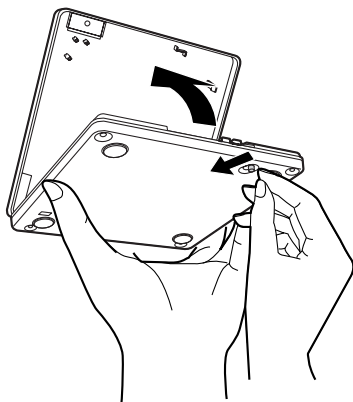
データ書き込み中の故障や停電などでオープンボタンを押してもディスクカバーが開かない場合は、ディスクカバーロックを強制的に解除し、ディスクカバーを開けることができます。

重要

・ディスクの回転が止まらないときは、AC アダプタをコンセントから抜いて、完全に回転を止めてください。
回転中にディスクカバーを開けるとディスクが外れて飛び出し、ディスクやポータブル CD/DVD ドライブを破損したり、けがの原因となる可能性があります。

1 ポータブルCD/DVDドライブ裏側の強制オープンレバーをスライドさせます。

ディスクカバーが少し開きます。

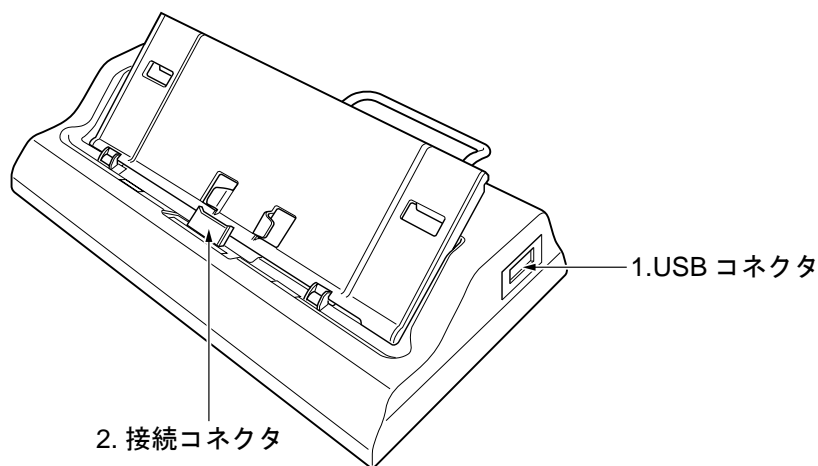
2 ディスクカバーを持ち上げて開きます。

7 ポートリプリケータについて

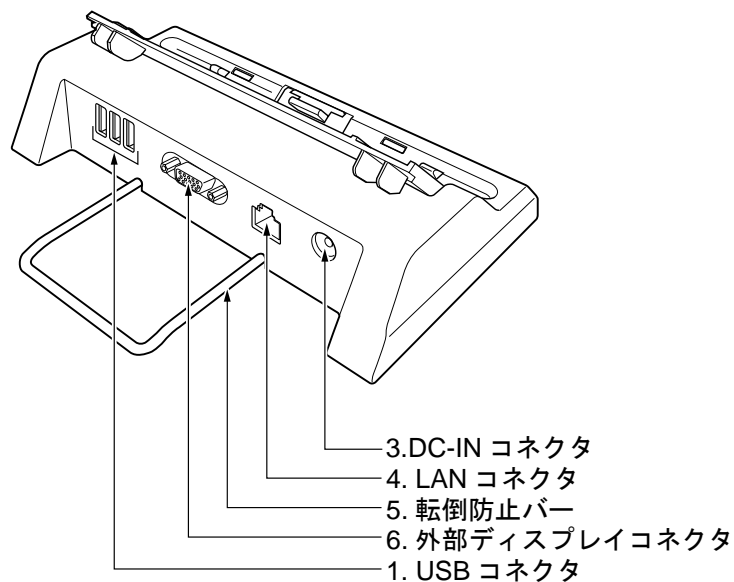
重要

・ポートリプリケータは、富士通 WEB MART でご購入時に選択された方のみお使いになれます。
・ポートリプリケータをお使いになる場合は、必ずポートリプリケータの DC-IN コネクタに AC アダプタを接続してください。
・ポートリプリケータをお使いになる場合は、本パソコンの電源、およびポートリプリケータに接続している周辺機器の電源を切った状態で、取り付け、取り外しを行ってください。

ポートリプリケータ

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。

■前面

■背面

重要

- 各コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。
- ポートリプリケータをお使いになる場合は、パソコン本体の DC-IN コネクタに AC アダプタを接続しないでください。ポートリプリケータの DC-IN コネクタに AC アダプタを接続してください。

2

1 USB コネクタ（）

FDD ユニット（USB）や USB 接続に対応したプリンタなど、USB 規格対応の機器を接続するためのコネクタです。
USB2.0 に準拠しているため、USB1.1 および USB2.0 に対応した機器が接続できます。

- USB2.0 に対応した機器をハブなどを経由して接続した場合、ハブの性能によって接続した機器の性能が低下することがあります。

2 接続コネクタ

ポートリプリケータ接続コネクタ／ LAN/CRT 変換コネクタに接続します。

3 DC-IN コネクタ（⎓）

添付の AC アダプタを接続するためのコネクタです。

4 LAN コネクタ（）

LAN ケーブルを接続するためのコネクタです。
「機能」－「LAN について」（→ P.113）

5 転倒防止バー

パソコンをポートリプリケータに接続したときに、パソコンが転倒するのを防止します。

6 外部ディスプレイコネクタ（）

アナログディスプレイなど、外部ディスプレイを接続するためのコネクタです。
「ハードウェア」－「外部ディスプレイについて」（→ P.71）

ポートリプリケータを取り付ける

⚠注意

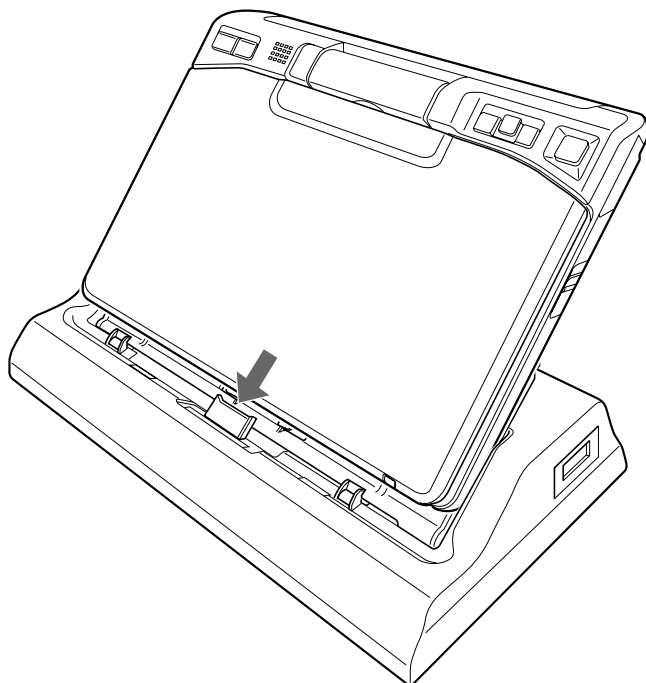
- パソコン本体にポートリプリケータを取り付ける場合は、指をはさまないように注意してください。
  けがの原因となることがあります。

重要

- ポートリプリケータ接続時には、必ずパソコン本体左側面の DC-IN コネクタから AC アダプタを、パソコン本体前面の LAN/CRT 変換コネクタから変換ケーブル（LAN/CRT）を取り外してください。破損するおそれがあります。

1 ポートリプリケータに周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を切ります。

2 ポートリプリケータ接続コネクタをパソコン本体前面のポートリプリケータ接続コネクタ／LAN/CRT 変換コネクタに合わせ取り付けます。

パソコン本体を、ポートリプリケータにしっかりと取り付けます。

（イラストは機種や状況により異なります）

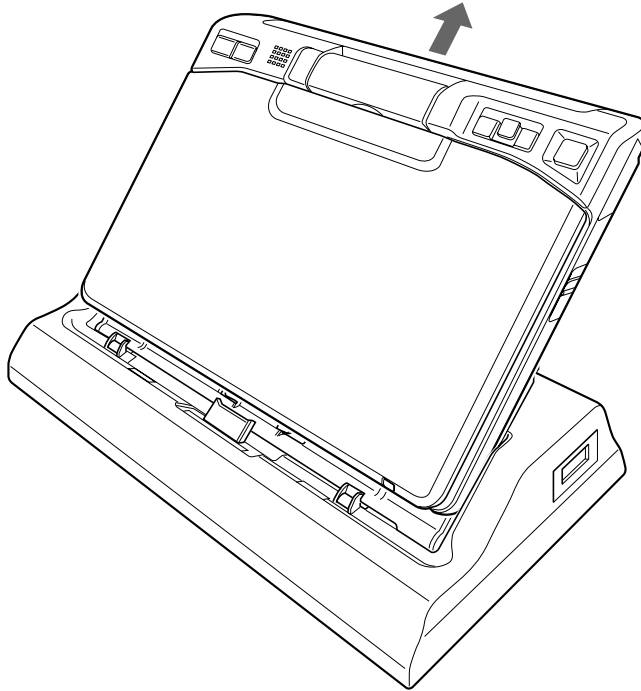
重要

・ポートリプリケータに周辺機器を取り付け／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。
・本パソコンを持ち運ぶ場合は、ポートリプリケータを必ず取り外してください。ポートリプリケータを接続した状態で本パソコンを持ち運ぶと、パソコン本体およびポートリプリケータのコネクタが破損するおそれがあります。

ポートリプリケータを取り外す

1 **本パソコンの電源を切ります。ポートリプリケータに周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を切ります。**

2 **ポートリプリケータを取り外します。**

パソコン本体を持ち上げて、ポートリプリケータを取り外します。

（イラストは機種や状況により異なります）

8 コンパクトフラッシュカードについて

取り扱い上の注意

故障を防ぐため、コンパクトフラッシュカードをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- 温度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。
- 強い衝撃を与えないでください。
- 重い物を載せないでください。
- コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。
- 保管する場合は、必ずケースに入れてください。

POINT

- コンパクトフラッシュカードをデジタルカメラなどで使っている場合、Windows 上でフォーマットしないでください。フォーマットすると、デジタルカメラなどでコンパクトフラッシュカードが使えなくなります。
  フォーマットしてしまった場合は、デジタルカメラなどで再度フォーマットしてからお使いください。
  フォーマットの方法については、お使いの機器のマニュアルをご覧ください。

コンパクトフラッシュカードをセットする

⚠注意

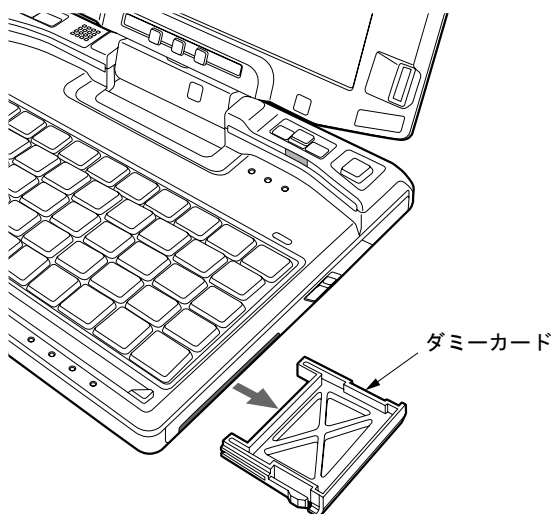
- コンパクトフラッシュカードをセットするときは、CFカードスロットに指を入れないでください。
  けがの原因となることがあります。

重要

- コンパクトフラッシュカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。コンパクトフラッシュカードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

POINT

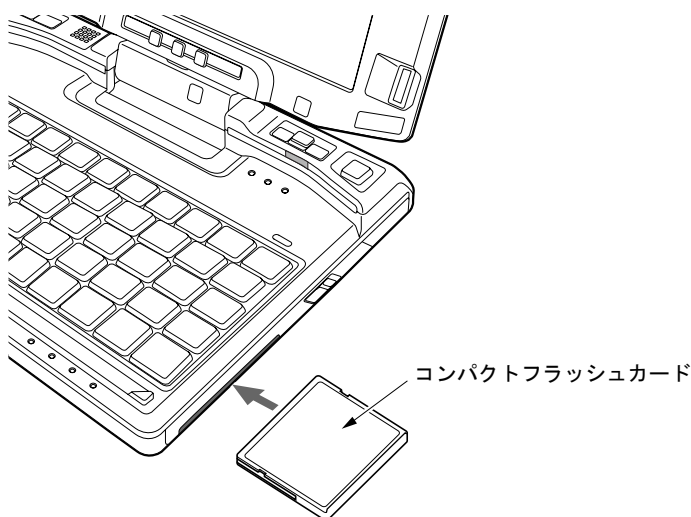
- コンパクトフラッシュカードによっては、セットするときに電源を切る必要のあるものがあります。お使いになるコンパクトフラッシュカードのマニュアルで確認してください。
- コンパクトフラッシュカードによっては、ドライバのインストールが必要なものがあります。お使いになるコンパクトフラッシュカードのマニュアルをご覧になり、必要に応じてドライバをインストールしてください。

1 CF カードスロットにセットされているダミーカードを引っ張り、ダミーカードを取り出します。

（これ以降のイラストは機種や状況により異なります）

POINT

・取り出したダミーカードは、なくさないように保管してください。

2 パソコン本体右側面の CF カードスロットに、コンパクトフラッシュカードをセットします。

コンパクトフラッシュカードの製品名を上にしてCFカードスロットにしっかり差し込みます。

重要

・うまくセットできない場合には一度コンパクトフラッシュカードを取り出し、上下が反対になっていないか、差し込む方向が間違っていないかを再度確認してください。
また、お使いになるコンパクトフラッシュカードのマニュアルもご覧ください。

・コードやケーブルを接続して使うコンパクトフラッシュカードをお使いの場合、コンパクトフラッシュカードとコードやケーブルを接続しているコネクタ部分に物をのせたり、ぶつけたりしないでください。破損の原因となります。
・コンパクトフラッシュカードの種類によっては、CFカードスロットからコンパクトフラッシュカードが飛び出した状態でセットされるものがあります。コンパクトフラッシュカードの飛び出した部分をぶつけたりしないでください。破損の原因となります。

POINT

・コンパクトフラッシュカードによっては、「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンが表示されないものもあります。アイコンが表示されない場合には、お使いになるコンパクトフラッシュカードのマニュアルをご覧ください。

コンパクトフラッシュカードを取り出す

注意

・コンパクトフラッシュカードの使用終了直後は、コンパクトフラッシュカードが高温になっていることがあります。コンパクトフラッシュカードを取り出すときは、手順 3 の後、しばらく待ってから取り出してください。火傷の原因となることがあります。

・コンパクトフラッシュカードを取り出すときは、CF カードスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

重要

・コンパクトフラッシュカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。コンパクトフラッシュカードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

POINT

・コードやケーブルを接続して使うコンパクトフラッシュカードを取り出す場合、コンパクトフラッシュカードのコードやケーブルを引っ張らないでください。破損の原因となります。
・コンパクトフラッシュカードを取り出す場合は、次の手順で行ってください。手順どおり行わないと、故障の原因となります。
・コンパクトフラッシュカードによっては、取り出すときに電源を切る必要のあるものがあります。コンパクトフラッシュカードのマニュアルで確認してください。

1 画面右下の通知領域にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックします。

POINT

・通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをダブルクリックして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウで、「停止」をクリックしてコンパクトフラッシュカードを取り出さないでください。パソコン本体の動作が不安定になる場合があります。
・コンパクトフラッシュカードによっては、「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンが表示されないものもあります。アイコンが表示されない場合には、コンパクトフラッシュカードのマニュアルをご覧ください。

2 「[コンパクトフラッシュカード] を安全に取り外します」をクリックします。

POINT

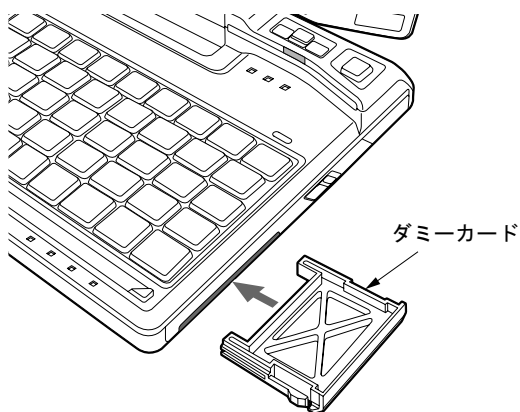
- 「[コンパクトフラッシュカード]」には、お使いのコンパクトフラッシュカードの名称が表示されます。
- 「[コンパクトフラッシュカード] の取り外し中にエラーが発生しました」ウィンドウが表示された場合は、「OK」をクリックし、コンパクトフラッシュカードにアクセスしていないことを確認した後、もう一度手順1からやり直してください。

3 「ハードウェアの取り外し」というメッセージが表示されたことを確認します。

4 コンパクトフラッシュカードを引き出して、取り出します。

（これ以降のイラストは機種や状況により異なります）

5 ダミーカードをセットします。

ダミーカードを CF カードスロットにしっかり差し込みます。

9 SD メモリーカードについて

取り扱い上の注意

故障を防ぐため、SD メモリーカードをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- 温度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。
- 強い衝撃を与えないでください。
- 重い物を載せないでください。
- コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。
- 保管する場合は、必ず専用のケースに入れてください。

POINT

- すべての SD メモリーカードの動作を保証するものではありません。
- miniSDカードやmicroSDカードをお使いの場合は、アダプタが必要になります。
  miniSDカードやmicroSDカードは、必ずアダプタにセットしてからお使いください。そのまま挿入すると、miniSDカードやmicroSDカードが取り出せなくなります。
- 2GB を超える SD メモリーカードには対応していません。2GB を超える場合は、SDHC カードをお使いください。
- SDIO カードには対応しておりません。
- SD メモリーカード、SDHC カード、miniSD カード、または microSD カードは、著作権保護機能 (CPRM) に対応しています。
  このパソコンでは「MOOCS PLAYER」や「SD-Jukebox」というソフトで SD-Audio 形式でファイルの読み書きを行うときに、SD メモリーカード、miniSD カード、または microSD カードの著作権保護機能（CPRM）が有効になります。
  「MOOCS PLAYER」や「SD-Jukebox」については次のページをご覧ください。
  「MOOCS PLAYER」（http://moocs.com/）
  「SD-Jukebox」（http://panasonic.jp/support/software/sdjb/index.html）
- SD メモリーカードや、記録されているデータの取り扱いについては、SD メモリーカードや周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- SD メモリーカードをデジタルカメラなどで使っている場合、Windows 上でフォーマットしないでください。フォーマットすると、デジタルカメラなどで SD メモリーカードが使えなくなります。
  フォーマットしてしまった場合は、デジタルカメラなどで再度フォーマットしてからお使いください。フォーマットの方法については、お使いの機器のマニュアルをご覧ください。

SD メモリーカードをセットする

⚠注意

・SD メモリカードをセットまたは取り出すときは、SD メモリーカードスロットに指を入れないでください。
けがの原因となることがあります。

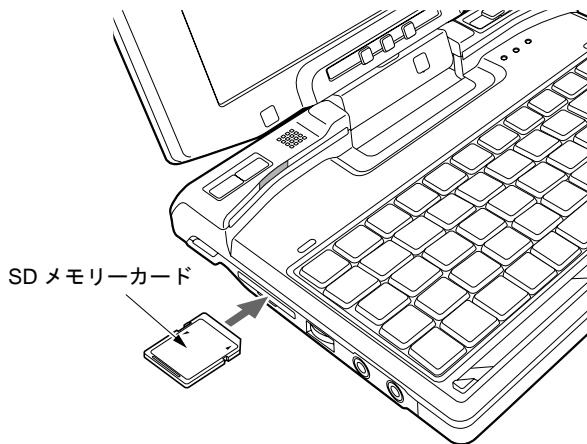
重要

・SDメモリーカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体に留まった静電気により破壊される場合があります。SDメモリーカードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

POINT

・SDメモリーカードによっては、「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンが表示されないものもあります。アイコンが表示されない場合には、SDメモリーカードのマニュアルをご覧ください。

1　パソコン本体左側面の SD メモリーカードスロットに、SD メモリーカードをセットします。

SD メモリーカードの製品名を上にして SD メモリーカードスロットにしっかり差し込みます。

（イラストは機種や状況により異なります）

重要

・書き込み禁止の状態の SD メモリーカードにファイルの書き込みや削除を行った場合、書き込みエラーメッセージ、または削除エラーメッセージの表示に時間がかかったり、SD メモリーカードの内容の一部が正しく表示されない場合があります。その場合は、書き込み禁止の状態を解除し、もう一度セットし直してください。

POINT

・「自動再生」ウィンドウが表示された場合は、ウィンドウを閉じてください。

SDメモリーカードを取り出す

⚠注意

・SDメモリーカードをセットまたは取り出すときは、SDメモリーカードスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

重要

・SDメモリーカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体に留まった静電気により破壊される場合があります。SDメモリーカードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

1 画面右下の通知領域にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックします。

POINT

・通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをダブルクリックして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウで、「停止」をタップしてSDメモリーカードを取り出さないでください。パソコン本体の動作が不安定になる場合があります。
・SDメモリーカードによっては、「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンが表示されないものもあります。アイコンが表示されない場合には、SDメモリーカードのマニュアルをご覧ください。

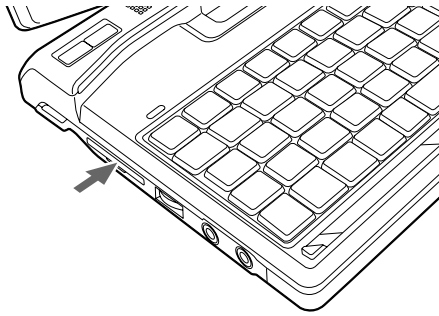
2 「[SDメモリーカード]を安全に取り外します」をクリックします。

POINT

・「[SDメモリーカード]」には、お使いのSDメモリーカードの名称が表示されます。
・「[SDメモリーカード]の取り外し中にエラーが発生しました」ウィンドウが表示された場合は、「OK」をクリックし、SDメモリーカードにアクセスしていないことを確認した後、もう一度手順1からやり直してください。

3 「ハードウェアの取り外し」というメッセージが表示されたことを確認します。

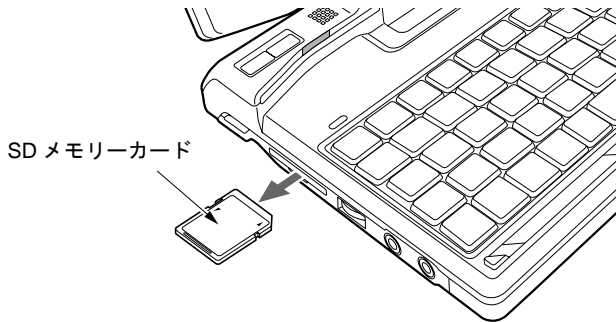
SD メモリーカードを一度押します。

SD メモリーカードを一度押すと、少し飛び出します。

（これ以降のイラストは機種や状況により異なります）

重要

- SDメモリーカードスロットからSDメモリーカードを取り出すときは、SDメモリーカードを強く押さないでください。指を離したときSDメモリーカードが飛び出し、紛失したり、衝撃で破損したりする恐れがあります。
  また、SDメモリーカードを引き抜くときは、SDメモリーカードに無理な力がかからないように、ひねったり斜めに引いたりしないでください。
- アダプタにセットしたメモリーカードをSDメモリーカードスロットから取り出すときは、必ずアダプタごと取り出してください。
- SDメモリーカードを取り出すときは、SDメモリーカードスロットを人に向けたり、顔を近づけたりしないでください。SDメモリーカードが飛び出すと、けがの原因となることがあります。

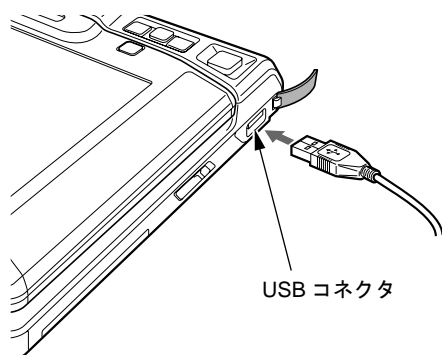
SD メモリーカードを取り出します。

2

10 プリンタについて

重要

- プリンタの接続にはプリンタケーブルが必要です。プリンタケーブルは、プリンタに添付されていないことがあります。
  また、添付されているものも、コネクタの形状により接続できない場合もあります。そのような場合は、接続できるプリンタケーブルを別にお買い求めください。
- プリンタの接続方法は、プリンタによって異なります。プリンタのマニュアルをご覧ください。

接続について

USB コネクタの場合

（イラストは機種や状況により異なります）

1 パソコン本体のUSBコネクタに、ケーブルの片方のコネクタを接続します。

USB コネクタはパソコン本体右側面にあります。
コネクタの向きを確認して差し込んでください。

2 初めて接続するプリンタの場合は、ドライバをインストールします。

POINT

ご購入時ポートリプリケータを選択された方のみ、USB 接続のプリンタはポートリプリケータの USB コネクタに接続することもできます。

11 外部ディスプレイについて

接続について

本パソコンは､プロジェクタやアナログディスプレイなどの外部ディスプレイを接続することができます。
ここでは、変換ケーブル（LAN/CRT）の外部ディスプレイコネクタに、アナログディスプレイを接続する場合について説明します。

⚠警告

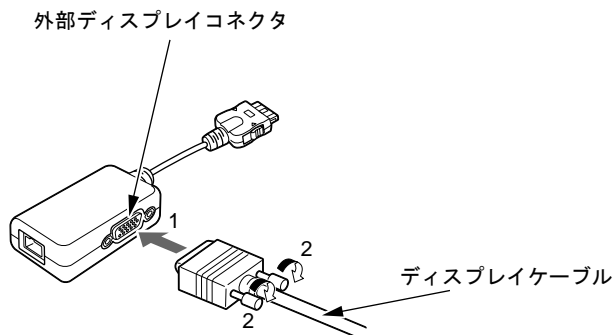
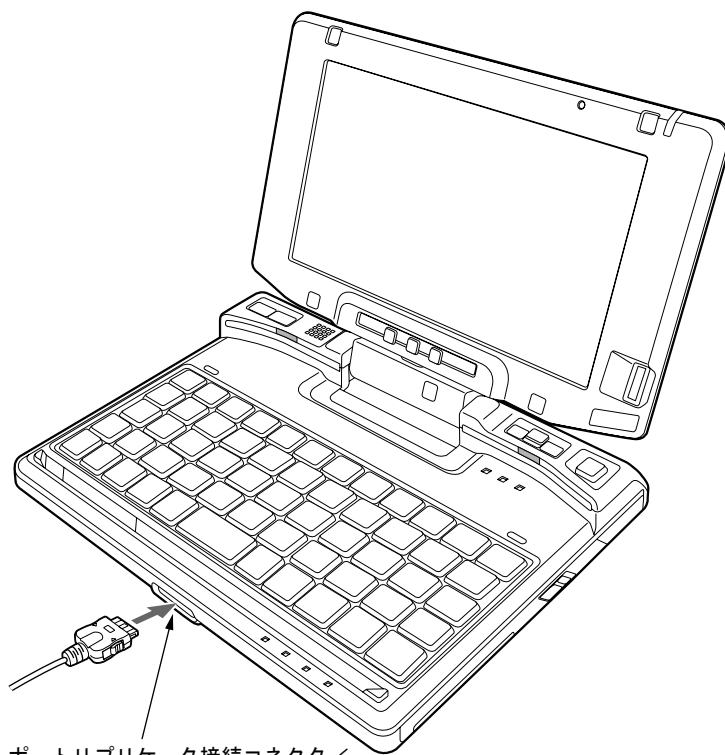
・外部ディスプレイの接続／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。
感電の原因となります。

⚠注意

・ケーブルは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、パソコン本体および外部ディスプレイが故障する原因となります。

1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します（→『取扱説明書』）。

2 変換ケーブル（LAN/CRT）の外部ディスプレイコネクタに、ディスプレイケーブルを接続します。

コネクタは正面から見ると台形になっています。
コネクタの形を互いに合わせてしっかり差し込み（1）、ディスプレイケーブルの左右のネジで固定します（2）。

3 パソコン本体前面のポートリプリケータ接続コネクタ／LAN/CRT 変換コネクタに変換ケーブル（LAN/CRT）を接続します。

（イラストは機種や状況により異なります）

POINT

・ポートリプリケータをお使いのときは、外部ディスプレイは、ポートリプリケータの外部ディスプレイコネクタに接続してください。

4 アナログディスプレイにディスプレイケーブルを接続します。

接続方法は、アナログディスプレイのマニュアルをご覧ください。

5 アナログディスプレイの電源ケーブルを接続して、電源を入れます。

6 パソコン本体に AC アダプタを取り付け、電源を入れます。

POINT

・外部ディスプレイを接続後パソコン本体の電源を入れると、次のようになることがあります。
　・パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイで同時に表示される
　・「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示される
　　この場合は、画面の指示に従って外部ディスプレイのドライバをインストールしてください。
・外部ディスプレイなど磁界を発生する機器と FDD ユニットは離して使用してください。

7 画面の表示を切り替えます。

Windows の「画面の設定」ウィンドウで切り替えることができます。また、【Fn】+【A】キーを押すと、液晶ディスプレイ→外部ディスプレイ→同時表示→液晶ディスプレイ…の順で表示を切り替えることもできます。詳しくは、「機能」－「表示装置の切り替え」（→P.88）をご覧ください。

2

12 液晶ディスプレイの回転について

ここでは、液晶ディスプレイの回転の仕方について説明します。
本パソコンは、ノートパソコンモード、またはタブレットモードの両方の状態でお使いになれます。

次の手順でモードの切り替えが行えます。

重要

・液晶ディスプレイを回転させるときは、パソコン本体を机などの安定した平らな場所に置いてください。

POINT

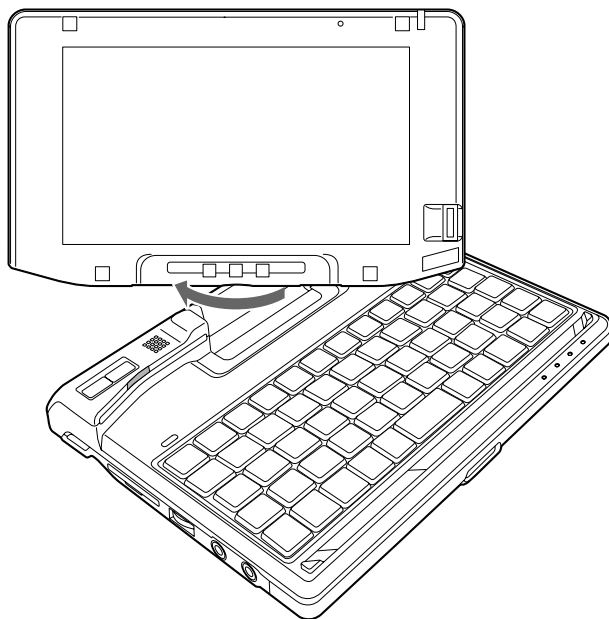
・本パソコンは、通常のノート型パソコンとしてキーボードとスティックポイントで操作するほかに、液晶ディスプレイを 180°回転させてキーボード側に折りたたみ、付属のペンで操作することができます。通常の状態をノートパソコンモード、ディスプレイを回転して、たたんだ状態をタブレットモードと呼びます。

1 液晶ディスプレイを開きます。

液晶ディスプレイ上部の中央に手を添えて持ち上げます。

重要

・液晶ディスプレイは 90°の角度に開いてください。それ以外の角度では、液晶ディスプレイを回転させることができません。無理に回転させようとすると液晶ディスプレイが破損するおそれがあります。

2 液晶ディスプレイの両端を持ち、矢印の方向に 180°回転させます。

（これ以降のイラストは機種や状況により異なります）

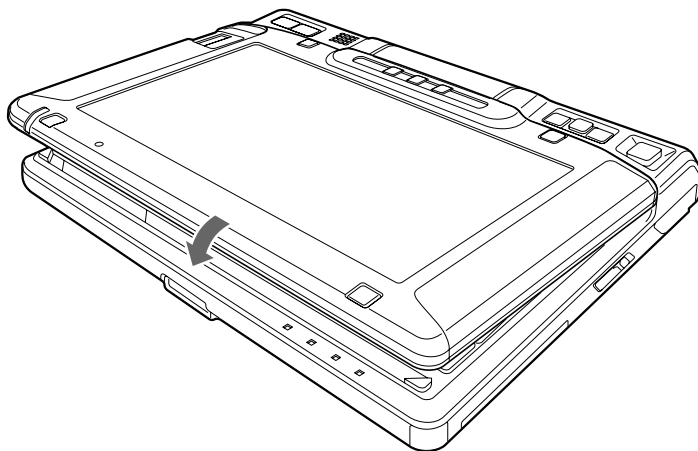
重要

・液晶ディスプレイを 180°以上、または逆方向に回転させることはできません。180°以上、または逆方向に回転させようと無理な力を加えないでください。液晶ディスプレイが破損するおそれがあります。

POINT

・画面を回転させるときは、AC アダプタケーブル、LAN ケーブル、ディスプレイケーブルが絡まないようにして回転させてください。
・タブレットモードからノートパソコンモードへ戻すには手順 2 で逆方向に回転させてください。

2

3 液晶ディスプレイを閉じます。

重要

タブレットモードで使用する場合、次の点にご注意ください。

・手に持って使用する場合、AC アダプタを取り外してください。
・手に持って使用する場合、吸気孔や排気孔をふさがないようにしてください。パソコン内部に熱がこもり、故障の原因となります。
・液晶ディスプレイがしっかり閉じた状態でお使いください。

13 ハードウェアのお手入れ

パソコン本体のお手入れ

⚠警告

・感電やけがの原因となるので、お手入れの前に、次の事項を必ず行ってください。
　・パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。
　・プリンタなど、周辺機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。

パソコン本体の汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。
汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りの際は、パソコン本体に水が入らないよう充分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

液晶ディスプレイのお手入れ

液晶ディスプレイの汚れは、乾いた柔らかい布かメガネ拭きで軽く拭き取ってください。

重要

・液晶ディスプレイの表面を固いものでこすったり、強く押しつけたりしないでください。液晶ディスプレイが破損するおそれがあります。
・液晶部分を拭くときは、必ずから拭きしてください。
　水や中性洗剤を使うと、液晶部分を傷めるおそれがあります。
・化学ぞうきんや市販のクリーナーを使うと、成分によっては、画面の表面のコーティングを傷めるおそれがあります。次のものは、使わないでください。
　・アルカリ性成分を含んだもの
　・界面活性剤を含んだもの
　・アルコール成分を含んだもの
　・シンナーやベンジンなどの揮発性の強いもの
　・研磨剤を含むもの

キーボードのお手入れ

キーボードの汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。
汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りの際は、キーボード内部に水が入らないよう充分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。
キーボードのキーとキーの間のホコリなどを取る場合は、柔らかいブラシなどを使って軽くホコリを取り除いてください。その際、毛先が抜けやすいブラシは使用しないでください。キーボード内部にブラシの毛などの異物が入り、故障の原因となる場合があります。圧縮空気などは使わないでください。キーボード内部にゴミが入り、故障の原因となる場合があります。また、掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。

2

第 3 章

機能

本パソコンでお使いになれる機能について説明しています。

1 ディスプレイ関連

液晶ディスプレイの明るさ設定

液晶ディスプレイの明るさは、8 段階に調節できます。暗くすると、消費電力が小さくなります。

重要

・外部ディスプレイの明るさについては、外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

POINT

・「Windows モビリティセンター」を使ってディスプレイの明るさを変更できます。
1. 「スタート」ボタン → 「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます
2. 「モバイルコンピュータ」の「共通で使うモビリティ設定の調整」をクリックします。
「Windows モビリティセンター」ウィンドウが表示されます。
3. 「明るさ」のつまみを左右にドラッグして、明るさを調節します。
・「Windows モビリティセンター」では、パソコンをいつもとは違う場所で使用するときなどに、お使いになる状況に合わせた各種設定を 1 つの画面ですべて変更することができます。
・「Windows モビリティセンター」やキーボードで明るさを変更しても、パソコンを再起動したり、スリープや休止状態から復帰したり、AC アダプタの取り付けや取り外しを行った直後は、変更前の明るさに戻ります。そのような時にも変更を有効にしておきたい場合は、「電源オプション」ウィンドウで設定してください。

明るさを設定する

本パソコンは、ACアダプタを使っているときと、バッテリで使っているときの液晶ディスプレイの明るさをそれぞれ設定できます。
ご購入時には、ACアダプタで使っているときに明るくなり、バッテリで使っているときには暗くなるように設定されています。液晶ディスプレイの明るさは、キーボードを使って変更できます。また、OS、ドライバや「IndicatorUtility」（→P.149）によって、それぞれの電源の状態で保存されます。お使いの環境に合わせて、明るさを変更してください。

明るさを変更する

キーボードを使用して、液晶ディスプレイの明るさを調節することができます。
【Fn】+【S】キーを押すと暗く、【Fn】+【D】キーを押すと明るくなります。
調節中は、画面下部に明るさを示すインジケータが表示されます。

POINT

・次のような場合は、キーボードで明るさを変えられないことがあります。しばらくしてから変更してください。
・本パソコンを再起動した直後
・スリープまたは休止状態からレジュームした直後
・AC アダプタを取り付け、取り外した直後

インテル® ディスプレイ省電テクノロジ

本パソコンには、インテル® ディスプレイ省電テクノロジが搭載されています。インテル® ディスプレイ省電テクノロジを有効にすると、バッテリ運用時、液晶ディスプレイの消費電力を節約することができます。
しかし、画面の明暗の変化に合わせて、液晶ディスプレイの明るさやコントラストを変更させるため、画面がちらついて見えたり、画質が変化しているように見えたりする場合があります。
このような場合は、次の手順で設定を無効にしたり、変更したりすることで、これらの現象を抑えることができます。

POINT

- インテル® ディスプレイ省電テクノロジは、本パソコンをバッテリで使うときに液晶ディスプレイにのみ働く機能です。
  AC アダプタで使うときや、外部ディスプレイに表示しているときは働きません。このようなときも、液晶ディスプレイの画面がちらついて見えたりする場合には、本機能以外の原因が考えられます。
- インテル® ディスプレイ省電テクノロジが働いている状態で、液晶ディスプレイの明るさを変更しても、明るさの変化が少なくなる場合があります。

1 **デスクトップで右クリックし、「個人設定」をクリックします。**

2 **「画面の設定」をクリックし、「詳細設定」をクリックします。**

3 **「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」タブをクリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。**
「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」が表示されます。

4 **左の一覧から「ディスプレイデバイス」をクリックします。**

5 **「シングルディスプレイ」の「ノートブック」をクリックして、チェックを付けます。**

6 **左の一覧から「ディスプレイ設定」をクリックします。**

7 **「電源設定」をクリックします。**
「電源設定」ウィンドウが表示されます。

8 **「インテル (R) ディスプレイ省電テクノロジ」の設定を変更します。**

■有効にする場合

「インテル (R) ディスプレイ省電テクノロジ」にチェックを付け、その下のつまみを左右にドラッグして、消費電力を調整します。

「画質最高」側にすると画面表示のクオリティが優先され、「バッテリー寿命最長」側にすると消費電力の節約が優先されます

■無効にする場合

「インテル (R) ディスプレイ省電テクノロジ」のチェックを外します。

9 **設定が完了したら、「適用」をクリックします。**

10 **「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。**

全画面表示と通常表示の切り替え

液晶ディスプレイを標準または規定の解像度よりも低い解像度に設定したときに、画面がディスプレイ中央に小さく表示または全画面表示されるようにするには、次の手順で設定を変更してください。

「画面の設定」ウィンドウを使用する場合

1 **デスクトップで右クリックし、「個人設定」をクリックします。**

2 **「画面の設定」をクリックし、「詳細設定」をクリックします。**

3 **「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」タブをクリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。**

「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」が表示されます。

4 **左の一覧から「ディスプレイデバイス」をクリックします。**

5 **次の操作を行います。**

■液晶ディスプレイ表示の場合

「シングルディスプレイ」の「ノートブック」をクリックして、チェックを付けます。

■外部ディスプレイ表示の場合

「シングルディスプレイ」の「PC モニタ」をクリックして、チェックを付けます。

■同時表示の場合

「マルチディスプレイ」の「Intel(R) デュアル・ディスプレイ・クローン」をクリックして、チェックを付けます。

■マルチモニタ表示の場合

「マルチディスプレイ」の「拡張デスクトップ」をクリックして、チェックを付けます。

POINT

・同時表示、またはマルチモニタ表示の場合、プライマリとセカンダリの設定は次のようにしてください。
  ・プライマリ：ノートブック
  ・セカンダリ：PC モニタ

6 左の一覧から「ディスプレイ設定」をクリックします。

液晶ディスプレイ表示、外部ディスプレイ表示の場合は、手順 8 に進んでください。

7 「ノートブック」または「PC モニタ」から全画面表示と通常表示を切り替えるディスプレイをクリックします。

8 「アスペクト比のオプション」で、お使いになる設定を選択します。

■アスペクト比を保持
デスクトップがアスペクト比（縦横比）を維持したまま最大拡張されます。

■全画面表示（枠なし）
デスクトップが画面全体に拡張されます。

■デスクトップの中央
デスクトップが通常表示になります。

POINT

・「デスクトップの中央」は、液晶ディスプレイの場合のみ選択できます。

9 「適用」をクリックします。

POINT

・「デスクトップの変更を確認」ウィンドウが表示されたら、「OK」をクリックします。

10 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

POINT

・デスクトップの解像度をご購入時の解像度よりも小さい値に設定した場合、2 種類の画面拡張設定が選択できます。
  ・画面全体に拡張
    画面全体が縦長に表示されます。
  ・アスペクト比を維持したまま拡張
    縦長にはなりませんが、画面の上下に黒いスペースができます。

ローテーション機能

「ローテーション機能」を使うとデスクトップの画面の向きを 90 度単位で変更できます。

注意事項

- ローテーション機能をお使いになる前に、使用中のソフトウェア（スクリーンセーバーなどを含む）を終了してください。
- ローテーション機能を使用中に、ハードウェア アクセラレータの設定を変更しないでください。
- ローテーション機能を使用中は、ソフトウェア（スクリーンセーバーなどを含む）によっては正常に動作しなかったり、表示速度が遅くなる場合があります。
- Windows の起動中、終了中はローテーション機能が無効になります。
- 画面のプロパティにおいて、解像度をパソコンのパネル解像度よりも低い解像度に設定してローテーション機能をお使いになると、解像度と色数の設定は正しく表示されません。
- ローテーション機能をお使いの場合、USB マウスの動作は画面の回転に追従しません。
- ローテーション機能を使用中は、画面の解像度および色数を変更しないでください。解像度および色数を変更する場合は、画面を元の状態（標準（0 度））に戻してから変更してください。
- ローテーション機能を使用中にマウスポインタが消えてしまう場合があります。その場合、「コントロールパネル」ウィンドウの「マウス」アイコンをダブルクリックして、「ポインタ」タブで「配色」を「(なし)」に設定してください。また、「動作」タブで「ボタンの軌跡」の「表示する」のチェックも外してください。
- ローテーション機能を使用中に省電力機能を使用すると、壁紙が正しく表示されない場合があります。その場合は、「最新の情報に更新」を行いデスクトップ画面を再表示してください。
- ローテーション機能を使用中に Direct3D や OpenGL を使用したスクリーンセーバーをお使いになると、省電力機能が正常に動作しません。

「画面の設定」で画面の向きを変更する

1 **デスクトップで右クリックし、「個人設定」をクリックします。**

「個人設定」ウィンドウが表示されます。

2 **「画面の設定」をクリックし、「詳細設定」をクリックします。**

3 **「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for mobile」タブをクリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。**

「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for mobile 」が表示されます。

4 **左の一覧から「ディスプレイ設定」をクリックします。**

5 「回転」の「回転を有効にする」がチェックされていることを確認します。

6 表示方法にあわせて、チェックを付けます。

・0：0 度
・90：左 90 度回転
・180：180 度反転
・270：右 90 度回転

7 「適用」をクリックします。

POINT

・「デスクトップの変更を確認」ウィンドウが表示された場合は、「OK」をクリックしてください。
・画面の角度を「90」または「270」に変更できない場合は、ディスプレイドライバのウィンドウから「モニタ」タブをクリックし、「このモニタでは表示できないモードを隠す」のチェックを外してください。

8 「OK」をクリックして、すべてのウィンドウを閉じます。

ホットキーを使用して画面の向きを変更する

標準（0 度）:【Ctrl】＋【Alt】＋【Fn】＋【↑】キー
左 90 度回転 :【Ctrl】＋【Alt】＋【Fn】＋【←】キー
180 度反転 :【Ctrl】＋【Alt】＋【Fn】＋【↓】キー
右 90 度回転 :【Ctrl】＋【Alt】＋【Fn】＋【→】キー

POINT

・上記は出荷時の設定です。ホットキーの割り当ては、「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」で、変更することができます。

「ローテーション」ボタンで画面の向きを変更する

「ローテーション」ボタンを設定すると、デスクトップの画面の向きを簡単に変更することができます。

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「ハードウェアとサウンド」の順にクリックします。

「ハードウェアとサウンド」ウィンドウが表示されます。

2 「Tablet PC 設定」→「画面」タブの順にクリックし、「画面の向き」の「順序」－「変更」をクリックします。

「向きの順序の設定」ウィンドウが表示されます。

3 1 ～ 4 を設定し、「OK」をクリックします。

POINT

- ご購入時の設定は次のとおりです。「ローテーション」ボタンを 1 回押すごとに、縦画面表示と横画面表示を繰り返します。
  1. 「横（プライマリ）」（横画面で 0 度）
  2. 「縦（プライマリ）」（縦画面で 270 度回転した状態）
  3. 「（なし）」、または「何もしない」
  4. 「（なし）」、または「何もしない」

  設定例）1 ～ 4 を次のように設定すると、「ローテーション」ボタンを 1 回押すごとに、90 度ずつ回転して表示されます。
  1. 「横（プライマリ）」（横画面で 0 度）
  2. 「縦（プライマリ）」（縦画面で 270 度回転した状態）
  3. 「横（セカンダリ）」（横画面で 180 度回転した状態）
  4. 「縦（セカンダリ）」（縦画面で 90 度回転した状態）

4 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

解像度と色数について

本パソコンでは、Windows の「画面の設定」ウィンドウで次の解像度、色数を選択／変更できます。色数は「中」が 6 万 5 千色、「最高」が 1677 万色です。

POINT

- 外部ディスプレイの接続方法については、「ハードウェア」－「外部ディスプレイについて」（→ P.71）をご覧ください。
- 「画面の設定」ウィンドウで解像度、色数を選択／変更しても、再起動時や、スリープまたは休止状態からの復帰時などには、自動的にプロファイルで設定されている解像度、色数に変更されます。
  「画面の設定」ウィンドウの変更をプロファイルに保存するには、次の手順で富士通タブレットコントロールの設定を変更します。
  1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
  2. 「ハードウェアとサウンド」をクリックします。
  3. 「富士通タブレットコントロール」をクリックします。
     「富士通タブレットコントロール」ウィンドウが表示されます。
  4. 必要に応じて「富士通タブレットコントロール」ウィンドウの設定を変更します。
     設定方法については、「富士通タブレットコントロール」のヘルプをご覧ください。

■画面の向きが横の場合

<table>
<tr><th rowspan="2">解像度
（ピクセル）</th><th colspan="3">色数</th></tr>
<tr><th>液晶ディスプレイ</th><th>液晶ディスプレイ
+
外部ディスプレイ[注1][注2]</th><th>外部ディスプレイ[注1][注2]</th></tr>
<tr><td>800 × 600</td><td rowspan="2">中（16 ビット）
最高（32 ビット）[注3]</td><td colspan="2">中（16 ビット）／最高（32 ビット）[注3]</td></tr>
<tr><td>1024×600</td><td colspan="2">—</td></tr>
<tr><td>1024×768</td><td rowspan="3">—</td><td rowspan="3">—</td><td rowspan="3">中（16 ビット）
最高（32 ビット）[注3]</td></tr>
<tr><td>1280×768</td></tr>
<tr><td>1280×1024</td></tr>
</table>

注 1：各ディスプレイの最大解像度は、各ディスプレイがサポートしている最大解像度になります。各ディスプレイがサポートしている最大解像度よりも大きい解像度を使用することはできません。

注 2：各解像度はお使いの外部ディスプレイがサポートしている場合にご使用になれます。ディスプレイがサポートしていない解像度は使用することができません。

注 3：液晶ディスプレイは擬似的に色を表示するディザリング機能を利用しています。

■画面の向きが縦の場合

<table>
<tr><th rowspan="2">解像度
（ピクセル）</th><th colspan="3">色数</th></tr>
<tr><th>液晶ディスプレイ</th><th>液晶ディスプレイ
+
外部ディスプレイ[注1][注2]</th><th>外部ディスプレイ[注1][注2]</th></tr>
<tr><td>600× 1024</td><td>中（16 ビット）
最高（32 ビット）[注3]</td><td colspan="2">—</td></tr>
</table>

注 1：各ディスプレイの最大解像度は、各ディスプレイがサポートしている最大解像度になります。各ディスプレイがサポートしている最大解像度よりも大きい解像度を使用することはできません。

注 2：各解像度はお使いの外部ディスプレイがサポートしている場合にご使用になれます。ディスプレイがサポートしていない解像度は使用することができません。

注 3：液晶ディスプレイは擬似的に色を表示するディザリング機能を利用しています。

注意事項

- 通常は 640 × 480 の解像度は選択できませんが、一部のゲームやソフトウェアでは使用されることもあります。
- 解像度を 800 × 600 に設定した場合、Windows の画面の通常表示と全画面表示を切り替えることができます。
- 外部ディスプレイとして CRT ディスプレイを接続した場合は、「画面の設定」ウィンドウでリフレッシュレートを 85Hz 以上に設定できるように見えますが、実際の CRT ディスプレイの走査周波数は各機種の「外部ディスプレイの走査周波数について」（→ P.93）の表以外の周波数を使用することはできません。
- 解像度を切り替えるときに、一時的に表示画面が乱れることがありますが、故障ではありません。
- 画面の解像度や色数、リフレッシュレートを変更する場合は、起動中のソフトウェアや常駐しているプログラムを終了させてから設定してください。また、変更後は必ず Windows を再起動してください。

表示装置の切り替え

表示装置の切り替え方法は次のとおりです。なお、表示装置をあらかじめ取り付けてから切り替えてください。表示装置の取り付け方は、「ハードウェア」－「外部ディスプレイについて」（→ P.71）をご覧ください。

注意事項

- 表示装置の切り替えの設定は次のようになります。
  - Windows が起動するまでの間は、BIOS セットアップの設定が有効です。
  - Windows 起動中は「画面の設定」ウィンドウの設定が有効（Windows を再起動後も有効）です。
  - Windows が起動すると、表示されるディスプレイは、前回 Windows で使用していた状態に戻ります。ただし、外部ディスプレイが接続されていない場合は、液晶ディスプレイに表示されます。
  - 外部ディスプレイを接続して、初めて電源を入れたときは、同時表示の状態に切り替わる場合があります。
- 解像度の切り替え時などに、一時的に表示画面が乱れることがありますが、故障ではありません。
- 外部ディスプレイまたは液晶プロジェクタによっては、液晶ディスプレイ ＋ 外部ディスプレイの同時表示時に、画面が正しく表示されないことがあります。
- 外部ディスプレイで液晶ディスプレイ以上の高解像度を利用するには、それらの解像度を表示可能な外部ディスプレイが必要です。
- 液晶プロジェクタを本パソコンの液晶ディスプレイと同時表示で使用する場合、VESA で標準化された DDC の規格を満たしていて、かつ本パソコンの液晶ディスプレイと同じ解像度を表示可能な液晶プロジェクタが必要です。本規格を正しく満たしているかどうかに関しては、それぞれの液晶プロジェクタのメーカーにご確認ください。これはプラグアンドプレイを実現するために外部ディスプレイの情報をパソコン本体に伝送できるようにするための規格であり、これを満たしていない液晶プロジェクタには表示することはできません。
- BIOS セットアップの画面は、液晶ディスプレイのみに表示されることがあります。外部ディスプレイにも BIOS セットアップの画面を表示させる場合には、BIOS セットアップの「詳細」－「ディスプレイ設定」を「外部ディスプレイ」に設定してください（設定方法は、「BIOS」－「メニュー詳細」（→ P.168）をご覧ください）。
- 液晶ディスプレイ ＋ 外部ディスプレイの同時表示を選択した場合、外部ディスプレイ画面は液晶ディスプレイ画面と同一の解像度になります。
- ビデオ CD や DVD-VIDEO などの動画再生中に、表示するディスプレイを切り替えないでください。いったん動画を再生しているソフトウェアを終了してから、表示するディスプレイを切り替えてください。
- 画面の解像度や発色数、リフレッシュレートを変更する場合は、起動中のソフトウェアや常駐しているプログラムを終了させてから設定してください。また、変更後は必ず Windows を再起動してください。
- 動画の再生中は、表示装置を変更することができません。一度、動画を再生しているソフトウェアを終了させてから、表示装置を変更してください。

「画面の設定」ウィンドウを使用する場合

1 **デスクトップで右クリックし、「個人設定」をクリックします。**

2 **「画面の設定」をクリックし、「詳細設定」をクリックします。**

3 **「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」タブをクリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。**

「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」が表示されます。

4 **左の一覧から「ディスプレイデバイス」をクリックします。**

5 **次の操作を行います。**

■1 台のディスプレイに表示する場合

「シングルディスプレイ」の一覧から、表示するディスプレイをクリックして、チェックを付けます。

■同時表示の場合

「マルチディスプレイ」の「Intel(R) デュアル・ディスプレイ・クローン」をクリックして、チェックを付けます。

POINT

同時表示の場合、プライマリとセカンダリの設定は次のようにしてください。

・プライマリ：ノートブック
・セカンダリ：PC モニタ

「プライマリデバイス」、「セカンダリデバイス」の解像度やリフレッシュレートなどの詳細な設定は、左の一覧の「ディスプレイ設定」をクリックして表示される設定項目から変更することができます。

6 **「適用」をクリックします。**

ディスプレイが切り替わります。

7 **「OK」をクリック し、すべてのウィンドウを閉じます。**

POINT

・外部ディスプレイによって対応している解像度や走査周波数が異なるため、外部ディスプレイ表示に切り替えたときに何も表示されない、または正常に表示されないことがあります。その場合は次の操作を行うようにしてください。
  ・何も表示されない場合
  何も操作しないでお待ちください。15 秒ぐらい待つと、表示先が液晶ディスプレイに戻ります。表示先が液晶ディスプレイに戻らないときは、【Fn】キーを押しながら【A】キーを押して、表示先を切り替えてください。
  ・正常に表示されない場合
  外部ディスプレイのマニュアルで外部ディスプレイが対応しているリフレッシュレートを確認し、次の方法で設定を変更してください。
    1. デスクトップで右クリックし、「個人設定」をクリックします。
    2. 「画面の設定」をクリックし、「詳細設定」をクリックします。
    3. 「モニタ」タブをクリックします。

3

4. 「モニタの設定」のリフレッシュレートを外部ディスプレイでサポートする走査周波数に設定します。
5. 「OK」をクリックします。

・別の外部ディスプレイに変更する場合は､変更前と変更後の両方の外部ディスプレイがサポートする解像度、リフレッシュレートにあらかじめ変更し、パソコンの電源を切った後、別の外部ディスプレイを接続してください。外部ディスプレイのサポートする解像度、リフレッシュレートが異なる場合は、外部ディスプレイを変更したときに、画面が表示できなくなる場合があります。

キーボードを使用する場合

表示装置を切り替えるには、【Fn】+【A】キーを押します。表示装置は次の順に切り替わります。このとき【A】キーを、間隔を空けて押してください。

液晶ディスプレイ → 外部ディスプレイ → 液晶ディスプレイ + 外部ディスプレイ（同時表示）→ 液晶ディスプレイ…

POINT

・キーを押しても表示装置が切り替わらない場合は、「画面のプロパティ」ウィンドウで切り替えてください。

マルチモニタ機能

本パソコンには、2 台のディスプレイで 1 つのデスクトップを表示できる「マルチモニタ機能」があります。パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイで、1 つのデスクトップを表示できます。ここではプライマリアダプタ（メイン画面）として液晶ディスプレイを、セカンダリアダプタ（サブ画面）として外部ディスプレイを使用する場合の手順を説明します。

重要

・マルチモニタ機能をお使いになる前に、必ず外部ディスプレイを接続してください。
・マルチモニタ機能をお使いになる前に、使用中のソフトウェアを終了してください。
・マルチモニタ機能をお使いになるときは液晶ディスプレイを「プライマリ」、外部ディスプレイを「セカンダリ」に設定してください。
・マルチモニタ機能の注意
  ・2 台のディスプレイにまたがるウィンドウがある場合は、プライマリアダプタとセカンダリアダプタの設定を変更しないでください。
  ・セカンダリアダプタのみに表示されているソフトウェアを起動中に、セカンダリアダプタの使用を終了しないでください。ソフトウェアおよび Windows の動作が不安定になり、データが保存されないことがあります。
  ・次の事項はプライマリアダプタのみで表示されます。
    ・液晶ディスプレイの全画面表示
    ・一部のスクリーンセーバー
    ・動画再生画面のフルスクリーン表示
    ・アクセラレータ機能を使用しての動画再生画面
・色数についての注意
  ・プライマリアダプタとセカンダリアダプタで、別々の色数を設定しないでください。
  ・「中」または「最高」に設定してください。

POINT

・マルチモニタ使用時は、キーボードによるディスプレイの切り替えは無効となります。
・マルチモニタ使用時に外部ディスプレイでペンはお使いになれません。あらかじめマウスを接続して操作してください。

マルチモニタの設定

1 **デスクトップで右クリックし、「個人設定」をクリックします。**

2 **「画面の設定」をクリックし、「詳細設定」をクリックします。**

3 **「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」タブをクリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。**

「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」が表示されます。

4 **左の一覧から「ディスプレイデバイス」をクリックします。**

5 **「マルチディスプレイ」の「拡張デスクトップ」をクリックして、チェックを付けます。**

6 **「プライマリデバイス」が「ノートブック」、「セカンダリデバイス」が「PCモニタ」であることを確認します。**

POINT

・「プライマリデバイス」、「セカンダリデバイス」の解像度やリフレッシュレートなどの詳細な設定は、左の一覧の「ディスプレイ設定」をクリックして表示される設定項目から変更することができます。

7 **「適用」をクリックします。**

POINT

・「デスクトップの変更を確認」ウィンドウが表示されたら、「OK」をクリックします。

8 **「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。**

アダプタの表示位置を変更する

ここでは使用する 2 つのアダプタの表示位置を変更する場合の手順について説明します。

1 **デスクトップで右クリックし、「個人設定」をクリックします。**

「個人設定」ウィンドウが表示されます。

2 **「画面の設定」をクリックします。**

3 **モニタアイコンを、表示する位置にドラッグします。**

4 **「OK」をクリックします。**

表示できる色数と解像度

次の表の解像度以外を選択した場合、画面が正しく表示されないことがあります。

色数	画面の向き	プライマリの解像度	セカンダリの解像度注1 注2			
			800×600	1024×768	1280×768	1280×1024
中（16ビット） 最高（32ビット）注3	横	800×600	○	○	○	○
		1024×600	○	○	○	○
	縦	600×1024	○	○	○	○

注 1： 各ディスプレイの最大解像度は、各ディスプレイがサポートしている最大解像度になります。各ディスプレイがサポートしている最大解像度よりも大きい解像度を使用することはできません。
注 2： 各解像度はお使いの外部ディスプレイがサポートしている場合にご使用になれます。ディスプレイがサポートしていない解像度は使用することができません。
注 3： 液晶ディスプレイは擬似的に色を表示するディザリング機能を利用しています。

注意事項

■共通の注意事項

- プラグアンドプレイ対応の表示装置を使用の場合、最大解像度は液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイのどちらかの最大解像度に設定されます。
- プラグアンドプレイ非対応の表示装置を使用の場合、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの最大解像度は外部ディスプレイの最大解像度になります。
- マルチモニタ機能使用時には、DVD-VIDEO を再生しないでください。
- マルチモニタ機能使用時に Windows を再起動した場合、使用している外部ディスプレイによっては、画面が正常に表示されないことがあります。このような場合には、リフレッシュレートを 85Hz 以下に設定してください。
- マルチモニタ機能使用時には、【Fn】+【A】キーを使用して、表示装置を切り替えることはできません。

外部ディスプレイの走査周波数について

ディスプレイドライバにより次の走査周波数を選択することができます。
選択できる走査周波数は、外部ディスプレイ表示のみの場合も同時表示の場合も同じです。
ただし、外部ディスプレイによっては、選択しても表示できない走査周波数があります。そのときは、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示に切り替えて、選択し直してください。

解像度	水平走査周波数（kHz）	垂直走査周波数（Hz）
800 × 600	37.9	60
	48.1	72
	46.9	75
	53.7	85
1024 × 768	48.4	60
	56.5	70
	60	75
	68.7	85
1280 × 768	47.8	60
	60.3	75
	68.6	85
1280 × 1024	64	60
	80	75
	91.1	85

POINT

- お使いになる外部ディスプレイによっては、外部ディスプレイ表示に切り替えた場合、画面が正常に表示されないことがあります。その場合は、外部ディスプレイのマニュアルでサポートする走査周波数を確認し、「リフレッシュレート」の設定値を変更してから外部ディスプレイ表示に切り替えてください。
「リフレッシュレート」とは、1 秒間に画面を書き換える回数を周波数（単位は Hz）で表したものです。垂直同期周波数ともいいます。リフレッシュレートの値が高いほど、画面のちらつきが感じられなくなります（お使いの外部ディスプレイによって値の上限は決まっています）。
- リフレッシュレートの変更は、次のように設定してください。
  1. デスクトップで右クリックし、「個人設定」をクリックします。
「個人設定」ウィンドウが表示されます。
  2. 「画面の設定」をクリックし、ディスプレイイラストからリフレッシュレートを変更するモニタアイコンを選択します。
（プライマリに設定したモニタのリフレッシュレートを変更したい場合は「1」を、セカンダリに設定したモニタのリフレッシュレートを変更したい場合は「2」を選択します。）
  3. 「詳細設定」をクリックします。
お使いのディスプレイドライバのウィンドウが表示されます。
  4. 「モニタ」タブをクリックします。
  5. 「画面のリフレッシュレート」から、設定したいリフレッシュレートを選択します。
  6. 「適用」をクリックします。
  7. 「OK」をクリックし、すべてのウインドウを閉じます。

2 音量の設定

スピーカーやヘッドホンの音量は、音量ボリューム、または画面の音量つまみで調節します。

重要

・スピーカーが故障する原因となる場合がありますので、音量はスピーカーから聞こえる音がひずまない範囲に設定や調整をしてください。

POINT

・「Windows モビリティセンター」を使って音量を変更できます。
1. 「スタート」ボタン → 「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます
2. 「モバイルコンピュータ」の「共通で使うモビリティ設定の調整」をクリックします。
「Windows モビリティセンター」ウィンドウが表示されます。
3. 「音量」のつまみを左右にドラッグして、音量を調節します。
・「Windows モビリティセンター」では、パソコンをいつもとは違う場所で使用するときなどに、お使いになる状況に合わせた各種設定を 1 つの画面ですべて変更することができます。

音量ボリュームで調節する

音量ボリュームで調節する

本体側面の音量ボリュームで音量を調節できます。手前側にたおすと小さく、奥側にたおすと大きくなります。また、音量ボリュームを押すとミュート（消音）になります。

POINT

・音量ボリュームで音を大きくしても音が聞こえない場合は、スピーカーの状態を確認してください。
スピーカーが ON でも音が聞こえない場合は、音量を調節する画面でミュート（消音）に設定していないか確認してください（→ P.94）。

画面上の音量つまみで設定する

スピーカーの音量を調節する

1 画面右下の通知領域にある「音量」アイコンをクリックします。

音量を調節する画面が表示されます。

POINT

・通知領域に「音量」アイコンが表示されない場合は、次の手順を実行してください。
1. 「スタート」ボタンを右クリックし、表示されるメニューから、「プロパティ」をクリックします。

「タスクバーと [スタート] メニューのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
2. 「通知領域」タブをクリックします。
3. 「システムアイコン」の「ボリューム」のチェックを付けます。
4. 「OK」をクリックし、ウィンドウを閉じます。

2 音量つまみを上下にドラッグして、適当な音量に調節します。

「ミュート」アイコンをクリックすると音が消え、画面右下の通知領域の表示も変わります。

POINT

・音量つまみを表示しているとき、キーボードで音量を調節すると、音量つまみも動きます。

3 デスクトップの何もないところをクリックします。

音量を調節する画面が消えます。
消えなかった場合は、いったん音量つまみをクリックしてから、デスクトップの何もないところをクリックしてください。

ソフトウェアごとに音量を調節する

音が出るソフトウェアごとに音量を調節することができます。

1 音量を調節したいソフトウェアを起動します。

2 画面右下の通知領域にある「音量」アイコンを右クリックし、表示されるメニューから、「音量ミキサを開く」をクリックします。

「音量ミキサ」ウィンドウが表示されます。
「デバイス」に設定されている音量が、「画面上の音量つまみで設定する」で設定した音量です。

3 「アプリケーション」の一覧で、音量の設定を変更したいソフトウェアの音量つまみを上下にドラッグして、適切な音量に調節します。

・デバイス
　本パソコンのスピーカーから出る音量です。「画面の音量つまみ」で選択した音量と同じです。
・アプリケーション
　起動しているソフトウェアごとに音量を調節できます。「デバイス」で設定した音量が最大値になります。

4 ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックします。

「音量ミキサ」ウィンドウが閉じます。

3

再生や録音をする機器ごとに音量を調節する

本パソコンで再生や録音をする機器（スピーカーやマイクなど）ごとに、音量を調節することができます。
「サウンド」ウィンドウの「録音」タブに何も表示されない場合は、パソコン本体のマイク・ラインイン兼用端子に外部機器を接続してください。

1 **画面右下の通知領域にある「音量」アイコンを右クリックし、表示されるメニューから、「再生デバイス」または「録音デバイス」をクリックします。**

「サウンド」ウィンドウが表示されます。

2 **音量を調節したい機器を右クリックし、表示されるメニューから「プロパティ」をクリックします。**

音量を調節したい機器のプロパティが表示されます。

POINT

- 音量デバイスが複数表示されている場合、表示されているアイコンの下にチェックのついている音量デバイスが有効になっています。音量を調節したい機器が有効になっていないときは、音量を設定したい機器をクリックし、「既定値に設定」をクリックしてください。

3 **「レベル」タブをクリックします。**

4 **音量を調節したい項目で、音量つまみを左右にドラッグして、適切な音量に調節します。**

・「ミュート」アイコン：音を出力したり、消したりできます。
・「バランス」：左右の音量のバランスを調節できます。

5 **「OK」をクリックします。**

手順 2 で選択した機器のプロパティが閉じます。

6 **「OK」をクリックします。**

「サウンド」ウィンドウが閉じます。

ご購入時に音量を調節できる項目について

再生や録音する機器ごとに調節できる項目について説明します。

再生するときに調節できる項目

再生するときの音量を調節する場合は、「サウンド」ウィンドウの「再生」タブで設定を変更します。音声を出力したい機器を選択し、「プロパティ」をクリックして表示される設定画面の「レベル」タブで設定することができます。本パソコンご購入時に調節できる項目は、次のとおりです。

・スピーカー
- Realtek HD Audio output
  スピーカーから出力される音量を調節できます。
- PC Beep
  BEEP 音の音量を調節できます。
- マイク
  マイク・ラインイン兼用端子から入力される音の再生音量を調節できます（マイク入力設定時）。
- ライン入力
  マイク・ラインイン兼用端子から入力される音の再生音量を調節できます（ライン入力設定時）。
- Line Out
  ヘッドホン・ラインアウト兼用端子から出力される音の再生音量を調節できます（ライン出力設定時）。

録音するときに調節できる項目

録音するときの音量を調節する場合は、「サウンド」ウィンドウの「録音」タブで設定を変更します。録音したい機器を選択し、「プロパティ」をクリックして表示される設定画面の「レベル」タブで設定することができます。本パソコンご購入時に調節できる項目は、次のとおりです。

・マイク
- マイク
  マイク・ラインイン兼用端子から入力される音の録音音量を調節することができます（マイク入力設定時）。

・マイクボリューム
- マイクボリューム
  内蔵マイクの録音音量を変更することができます。
- マイクブースト
  マイクブーストのレベルを調節することができます。

3

ヘッドホン・ラインアウト兼用端子／マイク・ラインイン兼用端子の機能を切り替える

ここでは「ヘッドホン・ラインアウト／アンテナ入力端子」を「ヘッドホン・ラインアウト兼用端子」として説明しています。
ヘッドホン・ラインアウト兼用端子、マイク・ラインイン兼用端子は、ご購入時に「ヘッドフォン」、「マイク入力」に設定されています。設定を変更することで「ライン出力」、および「ライン入力」として使用することができます。次の手順に従って、設定を変更してください。
ワンセグチューナー搭載機種でワンセグ放送を視聴する場合は、手順 4 の「重要」をご覧になり、音声出力の自動切替の設定を有効にしてください。

重要

- ヘッドホン・ラインアウト兼用端子、マイク・ラインイン兼用端子に外部機器を接続していないときは、切り替えができません。
- マイク・ラインイン兼用端子に外部機器を接続するときは、外部機器の音量を小さくするか、出力を停止してください。

1 機能を切り替えたい端子に機器を接続します。

端子については、「各部名称」－「各部の名称と働き」（→ P.10）をご覧ください。

2 画面右下の通知領域にある「Realtek HD オーディオマネージャ」アイコンをダブルクリックします。

「Realtek HD オーディオマネージャ」ウィンドウが表示されます。

3 切り替えたい端子のアイコンをダブルクリックします。

デバイスを選択するウィンドウが表示されます。

4 使用するデバイスにチェックを付けます。

■ヘッドホン・ラインアウト兼用端子の場合

ヘッドフォン：ヘッドホン出力として動作します。内蔵スピーカーがミュートされます。音量は画面右下の通知領域にある「音量」アイコンで調整します。
ライン出力：ライン出力として動作します。内蔵スピーカーはミュートされません。音量は「Line Out」で調整します。

重要

- ワンセグチューナー搭載機種でワンセグ放送を視聴する場合は、自動切替の設定を有効にすることをお勧めします
  ワンセグ放送を視聴する場合は、「ヘッドフォン」「ライン出力」を自動で切り替える機能を有効にすることをお勧めします。次の手順を行うことで、アンテナ変換ケーブルを接続した時に、音声出力先が内蔵スピーカーまたはヘッドホンに自動的に切り替わります。
  1. 「アナログ」の右側にある をクリックします。
     「コネクタ設定」ウィンドウが開きます。
  2. 「本体ヘッドフォン端子に接続したデバイスの種別を自動判別する」を にし、「OK」をクリックします。

3.「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。
・自動切替の設定有効時にヘッドホンをお使いになる上でのご注意
「ヘッドフォン」「ライン出力」を自動で切り替える機能を有効にした場合、アンテナ変換ケーブルにヘッドホンを接続する時には、ヘッドホンをアンテナ変換ケーブルに接続してから、ヘッドホン・ラインアウト兼用端子に接続してください。
また、接続する機器によっては、音声の出力先が正しく切り替わらない場合があります。このような場合は手動で機能を選択してください。

■マイク・ラインイン兼用端子の場合
マイク入力：マイク入力として動作します。
ライン入力：ライン入力として動作します。

5 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

3

POINT

・次の手順で「デバイスを挿したときのポップアップダイアログを有効にします。」にすると、ヘッドホン・ラインアウト兼用端子／マイク・ラインイン兼用端子に機器を接続するだけで、デバイスを選択するウィンドウが自動で開きます。
1.「Realtek HD オーディオマネージャ」ウィンドウで、「アナログ」の右側にある「コネクタ設定」ボタンをクリックします。
「コネクタ設定」ウィンドウが開きます。
2.「デバイスを挿したときのポップアップダイアログを有効にします。」にチェックを付け、「OK」をクリックします。

3 ワンセグ関連

・ワンセグチューナーはご購入時に選択された方のみお使いになれます。
・ここでは、ワンセグ放送についての概要やアンテナの接続方法、ワンセグ放送を見るためのソフト「Corel Mobile TV 2.0」の起動方法や操作方法を説明しています。

ワンセグ放送について

ワンセグ放送とは、携帯端末向け地上デジタル放送サービスの一つで、携帯電話やノートパソコンなどの移動端末向けのサービスです。デジタルハイビジョン放送などのワンセグ以外の地上デジタル放送と比べると、画質は鮮明ではありませんが、携帯電話やノートパソコンなどでも乱れの少ない映像が受信できます。ワンセグ放送は、ワンセグ放送が開始されている地域で受信することができます。ワンセグ放送が受信可能な地域については、社団法人デジタル放送推進協会のホームページ（http://www.dpa.or.jp/）などでご確認ください。

従来のアナログ放送と比べて

ワンセグ放送は、従来のアナログ放送と比べて主に次の特長があります。

・ゴーストがなくなります。
　ワンセグ放送はデジタル放送なので、地形や建造物の反射波の影響で画像が２重、３重に映ったり、揺れたりする現象（ゴースト）がありません。
・テレビで電子番組リストが見られます。
　各放送局から番組と共に送信される電子番組リストが利用できます。電子番組リストは素早く更新されるので、急な番組変更の場合も安心です。

このパソコンでできること

このパソコンに内蔵されているワンセグチューナーを使用して、次のことができます。

・日本国内で放送している携帯端末向け地上デジタルテレビ放送の「ワンセグ」放送を視聴することができます。
・ワンセグ放送の電子番組リストを見ることができます。
・視聴中の番組を録画することができます。
・ワンセグ放送の電子番組リストから、録画したい番組を選択するだけで、録画を予約することができます。

重要

音声出力を自動切替に設定してください

ご購入時の状態では、ワンセグ放送の音声はヘッドホンでのみ聞くことができます。パソコン本体からワンセグ放送の音声を出力するために、ヘッドホン・ラインアウト／アンテナ入力端子の自動判別の機能を有効にしてください。この機能を有効にすることで、接続された機器によって音声の出力先が内蔵スピーカーまたはヘッドホンに切り替わる自動切替に設定されます。
設定の変更方法については「機能」－「音量の設定」－「ヘッドホン・ラインアウト兼用端子／マイク・ラインイン兼用端子の機能を切り替える」（→ P.98）をご覧ください。

ワンセグ放送を視聴するときのご注意

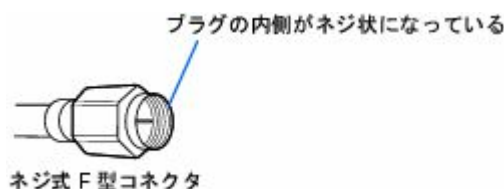
- 電波の弱い場所や、トンネル・地下・建物の中など電波の届かない場所では、アンテナを接続してもワンセグ放送を受信できないことがあります。
- ワンセグ放送は複数の放送局（中継局を含む）によってサービスされているため、電車や車等で移動しながらワンセグ放送を受信している場合は、異なるエリアに入ると、受信チャンネルが変わることがあります。
- このパソコンでできるワンセグ放送の連続録画時間は 6 時間までです。
- このパソコンで録画したワンセグ放送のデータはこのパソコンの「Corel Mobile TV 2.0」でのみ再生することができます。
- ワンセグ放送の視聴中にキーボードの【Fn】キーを押しながら【V】キーを押しても、放送中の画面を画像データ（ビットマップファイル）にすることはできません。
- 画面表示を拡大すると画質が不鮮明になりますが、これはワンセグ放送の性質上やむを得ないものです。
- ご購入時の状態では、このパソコンをバッテリで使用しているときには録画を行うことができません。バッテリで使っているときに録画を行うには、設定を変更する必要があります。設定の変更方法については「録画を行うためのパソコンの設定」（→ P.111）をご覧ください。
- ワンセグ放送の視聴や録画を行う場合は、他のすべてのソフトウェアを終了してください。
- ワンセグ放送の視聴中に、ディスプレイやその他のパソコンの設定を変更したり、Windows のロックを行ったりしないでください。
- ワンセグ放送を視聴したり、録画したりするときに、Windows のセキュリティ機能である「ユーザーアカウント制御」の機能を無効にすると、より安定した状態でワンセグ放送を楽しむことができます。ただし「ユーザーアカウント制御」を無効にすると、パソコンのセキュリティレベルが低下する危険性がありますので、ワンセグ放送の視聴や録画をしないときは「ユーザーアカウント制御」を有効にしておくことをお勧めします。
  「ユーザーアカウント制御」を無効／有効にする方法は「不正使用からのセキュリティ」→「管理者権限とユーザーアカウント」（→ P.135）をご覧ください。
- スリープや休止状態から復帰するときにパスワードが要求される設定にしていると、スリープや休止状態から自動起動して予約録画を行うことができなくなります。

必要なものを用意する（屋内でワンセグ放送を見る場合のみ）

地上デジタル放送に対応したアンテナがある場合には、屋内でワンセグ放送を見ることができます。市販のアンテナケーブルと添付のアンテナ変換ケーブルを経由し、壁のアンテナコネクタに接続します。

必ず用意してください

・アンテナ変換ケーブル
・アンテナケーブル（別売）

アンテナケーブルは F 型コネクタプラグ付アンテナケーブルをご購入ください。アンテナケーブルとパソコンの接続には、ノイズの影響を受けにくいネジ式の F 型コネクタプラグ付アンテナケーブルの使用をお勧します。なお、ケーブルは適切な長さのものを用意してください。

重要

ネジ式でない F 型コネクタプラグ付アンテナケーブルをお使いになる場合は、次の点にご注意ください

ネジ式でない F 型コネクタプラグ付アンテナケーブルは、ネジ式に比べノイズの影響を受けやすいため、映像がとぎれたり、乱れたりすることがあります。

必要に応じて用意してください

アンテナの設置されている環境によっては、次のものが必要になる場合があります。用途に合った製品をご購入ください。

・ブースター
　受信電波が弱い場合に電波を増幅させるための機器です。
・アッテネーター
　受信電波が強すぎる場合に、電波を減衰して受信できるようにするものです。
・分波器
　複数の種類の電波が 1 本のアンテナ線で配信されている場合に、それぞれの電波を分離するものです。ワンセグ放送が ＢＳ デジタル・１１０度 ＣＳ デジタル放送と同じアンテナ線で配信されている場合は、分波器を使用してワンセグ放送を分離し、接続することをお勧めします。
・地上デジタル放送専用のアンテナ
　お住まいの地域によっては、地上デジタル放送専用のアンテナを設置する必要があります。
・ヘッドホン（ワンセグ放送の音声をヘッドホンで聞く場合）

アンテナを接続する

ここでは、屋内でワンセグ放送を見るために、アンテナケーブルを接続する方法について説明します。
アンテナケーブルの接続はお使いの状況によって異なります。いずれかの方法でアンテナを接続してください。
ワンセグ放送を受信するには、地上デジタル放送に対応したアンテナが必要です。アンテナが地上デジタル放送に対応していない場合は、「ワンセグ受信アンテナを使う」（→ P.105）をご覧になり、ワンセグ受信アンテナをお使いください。

⚠警告

・ヘッドホンをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。
・電源を入れたり切ったりする前には音量を最小にしておいてください。

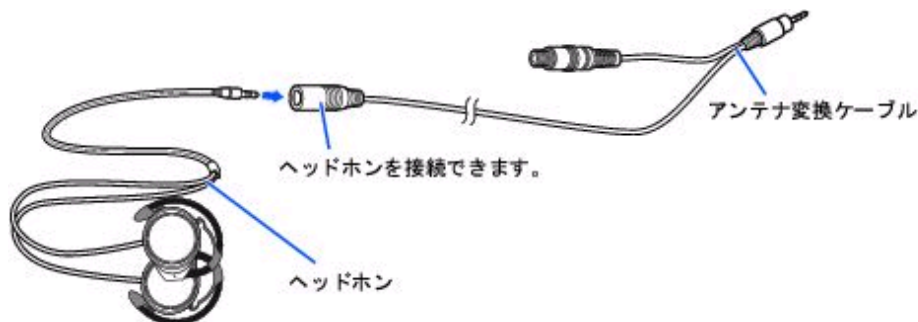
・自転車やバイク、自動車などの運転中は、ワンセグ放送や音楽を視聴しないでください。
周囲の音が聞こえにくく、映像や音声に気をとられ交通事故の原因になります。また、歩行中でも周囲の交通に充分に注意してください。特に踏切や横断歩道ではご注意ください。

市販のアンテナケーブルと添付のアンテナ変換ケーブルを経由し、壁のアンテナコネクタに接続します。安定した画像・音声でワンセグ放送を視聴できますが、アンテナコネクタのある場所でしか視聴できません。

⚠警告

・雷が鳴り出したときは、落雷の可能性がなくなるまでパソコン本体やケーブル類に触れないでください。ケーブル類の接続作業は、落雷の可能性がなくなるまで行わないでください。
落雷の可能性がある場合は、あらかじめパソコン本体の電源を切り、その後電源コードをコンセントから抜き、ケーブル類を取り外しておいてください。落雷による感電、火災の原因となります。

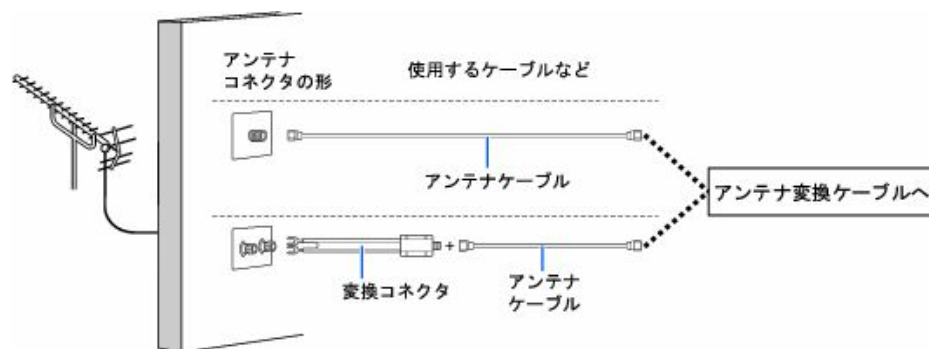
1 **パソコンの電源が入っている場合は、電源を切ります。**

2 **ヘッドホンを使用する場合は、ヘッドホンをアンテナ変換ケーブルのヘッドホン接続部分に接続します。**

3 アンテナ 変換ケーブルを、パソコン本体のヘッドホン・ラインアウト／アンテナ入力端子に接続します。

4 アンテナケーブルをアンテナ変換ケーブルに接続します。

接続のしかたは、壁のアンテナコネクタの形や、お使いになるケーブルによって異なります。次の図から最も近いものを選択し、必要なケーブル類を接続してください。
（地上デジタル放送に対応した UHF アンテナが必要です。）

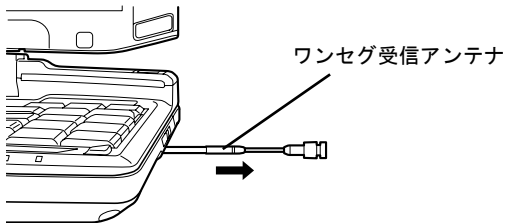
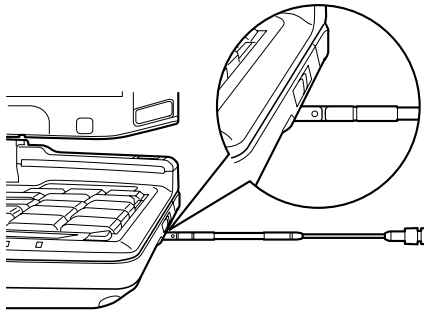
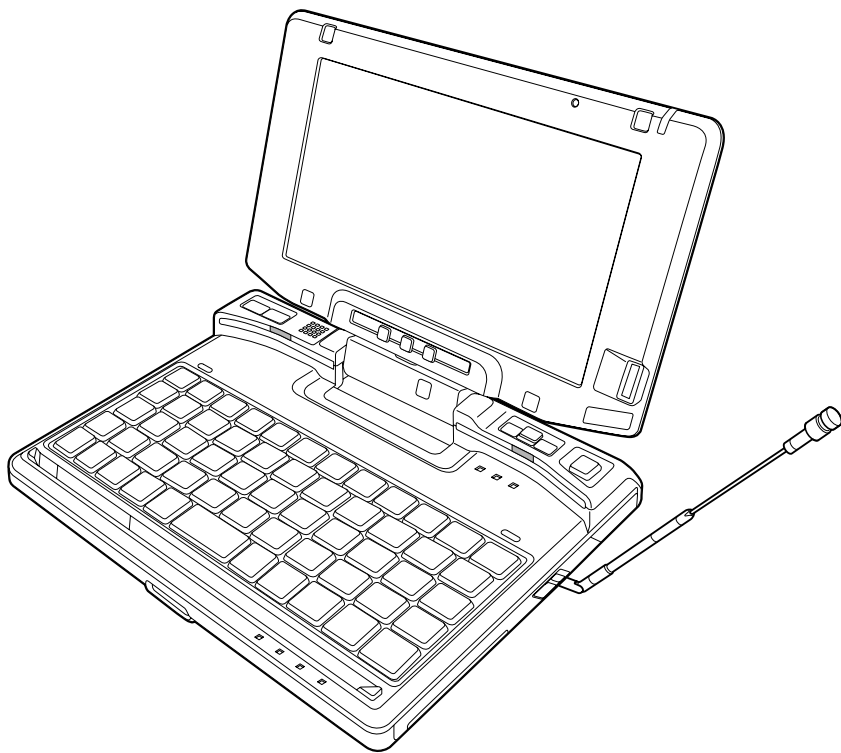
・ケーブルテレビをご利用中の場合
ケーブルテレビを利用している場合は、伝送方式によって、このパソコンに添付のアンテナ変換ケーブルを使用したワンセグ放送の受信をすることができないことがあります。伝送方式については、ご利用のケーブルテレビ会社にあらかじめご確認ください。なお、本製品は同一周波数パススルー方式（放送電波と同じチャンネルで UHF が送信される方式）にのみ対応しています。ご利用のケーブルテレビがこの方式の場合のみ、ケーブルテレビの端子にこのパソコンに添付のアンテナ変換ケーブルを接続してワンセグ放送を受信することができます。

・共聴施設・集合住宅におけるワンセグ放送の受信について
難視聴対策のなされている施設や、電波障害対策の共聴施設、および集合住宅における共同受信施設において、このパソコンに添付のアンテナ変換ケーブルを使用してワンセグ放送を受信するためには、アンテナやブースターなどの機器の再調整や、その他の機器の追加、および取り替えなどが必要になる場合があります。

ワンセグ受信アンテナを使う

このパソコンはワンセグ受信アンテナが搭載されています。壁にアンテナコネクタのない屋内や、屋外において、パソコン本体だけでワンセグ放送を手軽に視聴することができます。

重要

・ワンセグ受信アンテナをお使いになるときは、次の点にご注意ください。
　・本パソコンを持ち運ぶときは、アンテナは収納してください。
　・アンテナの向きを変えるときは、無理に力を加えないでください。
　・アンテナを引き出すときは、静かに行ってください。
　・アンテナをしまうときは、アンテナの先端を持って引っ込めないでください。
　・アンテナの先端などで目をついたりしないよう、ご注意ください。
・次のような電波の受信状況が悪い場所では映像や音声が止まったり、映像を見ることができない場合があります。
　・放送局から遠い地域または極端に近い地域
　・山間部やビルの陰
　・移動中
　・高圧線、ネオン、無線局の近くなど
　・線路や交通量の多い道路の近くなど
　・地下街、トンネルの中など
　・その他妨害電波が多かったり、電波が遮断されたりする場所など

1 **本体右側面にあるワンセグ受信アンテナを水平に引き出します。**

2 **可動部分が出てくるまで引き出すとワンセグ受信アンテナが固定されます。**

3 ワンセグ放送の映りが良くなるように、ワンセグ受信アンテナの根元近くを持って、ワンセグ受信アンテナの向きを調節してください。

POINT

・屋外でワンセグ放送を視聴するときは、バッテリの残量が充分にあることを確認してください。
・ワンセグ放送を視聴するときは、ワンセグ受信アンテナを伸ばしてください。ワンセグ放送の電波を充分に受信できない場合があります。
・ワンセグ放送の映りが悪い場合には次の方法を試してください。
  ・見通しの良い場所に移動してみる
  ・ワンセグ受信アンテナやパソコンの向きを変えてみる

視聴するエリアを選択する

「Corel Mobile TV 2.0」を初めて起動したときや、普段使用している場所から離れた場所（旅行先など）でワンセグ放送を視聴する場合には、視聴するエリアの選択を設定する必要があります。ここでは、視聴するエリアを一覧から選択する方法と、お使いになるエリアに最適な受信状態を設定する「カスタム設定」について説明しています。ワンセグ放送を視聴するエリアが一覧に無い場合や、一覧から選択しても受信状態が良くならない場合は、カスタム設定を行ってください。

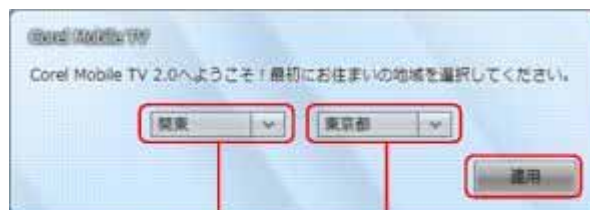
一覧からエリアを選択する

1 **（スタート）→「すべてのプログラム」→「Corel Mobile TV」→「Corel Mobile TV 2」の順にクリックします。**

「Corel Mobile TV 2.0」が起動します。

POINT

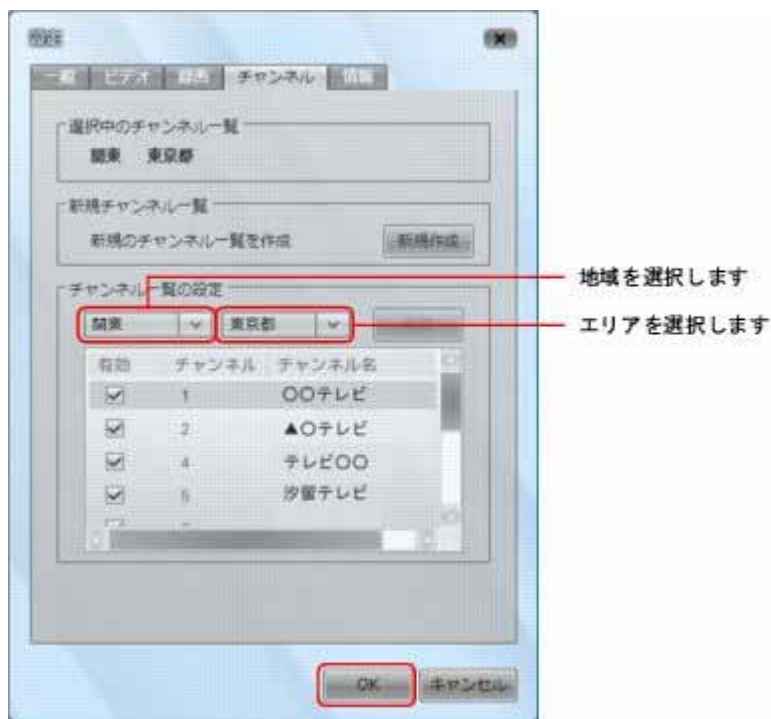
「最初にお住まいの地域を選択してください。」と表示されたら

初めて「Corel Mobile TV 2.0」を起動したときは「最初にお住まいの地域を選択してください。」という画面が表示されます。地域とエリアを選択してから「適用」ボタンをクリックして、ワンセグ放送を視聴するエリアを設定してください。

（以降の画面は機種や状況により異なります）

2 **「設定」ボタンをクリックします。**

3 **「チャンネル」タブをクリックします。**

4 地域とエリアを選択し、「OK」をクリックします。

選択したエリアで受信可能なすべてのチャンネルがスキャンされ、ワンセグ放送が受信できるようになります。
受信するエリアが一覧に無い場合は、地域を変更してからエリアを選択してください。

受信チャンネルをカスタム設定する

1 （スタート）→「すべてのプログラム」→「Corel Mobile TV」→「Corel Mobile TV 2」の順にクリックします。

「Corel Mobile TV 2.0」が起動します。

2 「設定」ボタンをクリックします。

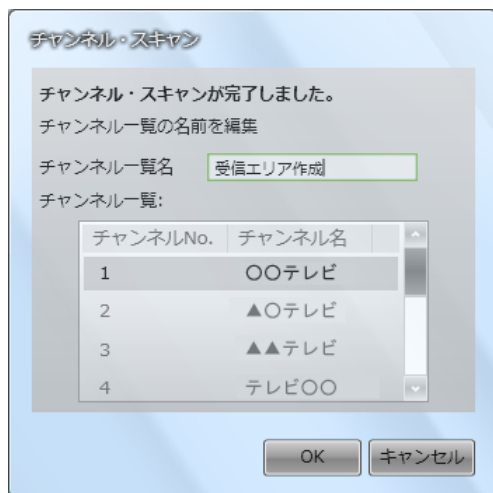
3 「チャンネル」タブをクリックします。

4 「新規作成」をクリックします。

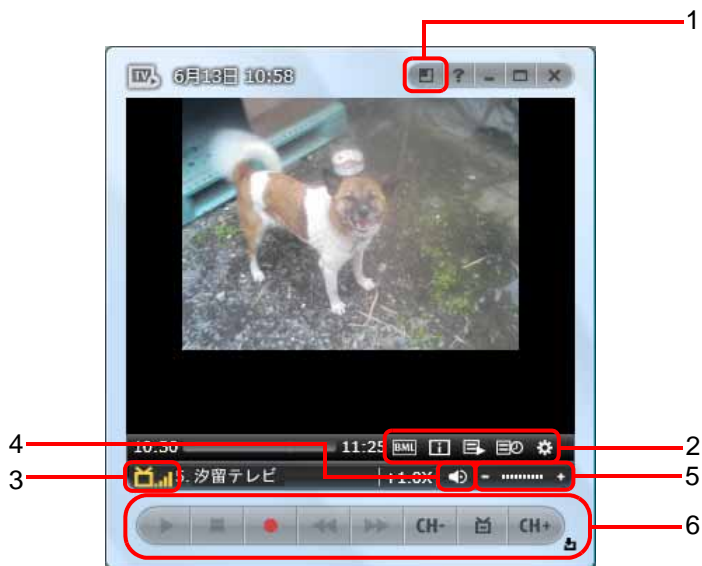
5 「OK」をクリックします。

「OK」をクリックすると、現在地で受信可能なチャンネルのスキャンが始まります。

6 スキャンが完了したら、名前を設定して「OK」をクリックします。

名前は自由に設定できます。ここでは例として「受信エリア作成」とします。

7 「OK」をクリックします。

「Corel Mobile TV 2.0」の基本操作

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。

1 「ズーム」ボタン

画面サイズを 200%（ズーム）に拡大します。画面表示が 200%のときにクリックすると、元の表示（100%）に戻ります。

2 機能バー

番組情報や、録画予約一覧などを見るときに使います。

3 アンテナレベルインジケータ
受信中の放送信号の強さを表示します。表示されるアンテナの本数が多いほど、ワンセグ放送の受信状態が良好になります。

4 ミュートボタン
ワンセグ放送の音声を消音（ミュート）します。

5 ボリュームボタン
ワンセグ放送の音量を調節します。

6 コントロールパネル
テレビ番組の録画や再生、チャンネルの切替えができます。

POINT

・ご購入時の状態では、このパソコンをバッテリで使用しているときには録画を行うことができません。バッテリで使用しているときにも録画を行えるようにするには、「ワンセグ放送を見るためには」→「録画を行うためのパソコンの設定」（→ P.111）をご覧になり、設定を変更してください。

録画を予約する

「Corel Mobile TV 2.0」では、番組を予約して録画することができます。
ここでは、録画を予約する方法と、予約した番組を確認する手順について説明します。

重要

パソコンの日付や時刻を確認してください
番組の録画を予約するときは、パソコンの日付や時刻を確認してください。パソコンの日付や時刻が合っていないと、録画を開始したり、終了したりする時間がずれてしまい、うまく録画ができない場合があります。

番組情報について
各チャンネルの放送波には番組情報が含まれていない場合があります。その時は番組名に何も表示されません。

録画を予約する

1 機能バーにある「番組情報」ボタンをクリックします。

2 「更新」をクリックします。
お使いの状況で受信できる放送局の一覧の更新が始まります。
更新を行う前でも、前回視聴したときに受信した放送局が表示されている場合がありますが、前回視聴した時から放送予定が変更されている場合があります。予約録画を確実に行うために必ず更新を行ってください。

3 をクリックして録画したい番組が放送される、放送局を選択します。
録画予約が可能な番組の一覧が表示されます。表示される放送局名はワンセグ放送のデータであり、チャンネル一覧で表示される放送局名とは異なる場合があります。

4 録画を予約したい番組をクリックして「予約」をクリックします。

5　「OK」ボタンをクリックします。

選択した番組の録画予約が確定します。

6　［×］をクリックします。

以上で、番組の録画予約が完了しました。予約した番組が録画されます。

予約した番組を確認する

録画の予約をした番組は、次の手順で確認することができます。

1　機能バーにある「録画予約一覧」ボタンをクリックします。

録画を予約した番組の一覧が表示されます。

- ［×］をクリックすると、元の画面に戻ります。
- 録画を解除する場合は、解除したい番組をクリックして、「削除」をクリックします。「削除」をクリックすると「選択された予約を削除しますか？」というウィンドウが表示されるので、「はい」をクリックしてください。

録画した番組を再生する

「Corel Mobile TV 2.0」では、視聴中の番組をリアルタイムに録画したり、特定の番組を予約録画することができます。
ここでは、録画した番組を再生する方法について説明します。

1　機能バーにある「録画済み番組一覧」ボタンをクリックします。

録画済みの番組の一覧が表示されます。

2　再生したい番組を選択し、「再生」ボタンをクリックします。

録画した番組の再生が始まります。

録画を行うためのパソコンの設定

ご購入時の状態では、このパソコンをバッテリで使用しているときに録画や予約録画を行うことができません。ここでは、バッテリで使用しているときに録画や予約録画を行うための、設定の変更方法について説明しています。

1　機能バーにある「設定」ボタンをクリックします。

「Corel Mobile TV 2.0」の設定画面が表示されます。

2　「録画」タブが選択されていることを確認してください。

3

3 「バッテリモードで録画を実行する」の左にある□をクリックして、☑にします。

4 「OK」をクリックします。

「Corel Mobile TV 2.0」のヘルプの表示方法

「Corel Mobile TV 2.0」について、詳しくは「Corel Mobile TV 2.0」のヘルプをご覧ください。
「Corel Mobile TV 2.0」のヘルプは次の手順で表示します。

1 「ヘルプ」ボタンをクリックします。

「Corel Mobile TV 2.0」のヘルプが表示されます。

4 通信

重要

・通信機能をお使いになる場合は、ウイルスや不正アクセスからパソコンを守るため、セキュリティ対策を実行してください（→ P.127）。

LAN について

LAN（有線 LAN）をお使いになる場合に必要なものなどを説明します。
ここでは、ブロードバンドインターネットにパソコンを接続する例を説明します。

必要なものを用意する

このパソコンの他に、次のものが必要です。

・ブロードバンドモデム
ADSL モデム、ケーブルモデムなど、インターネットの回線や、プロバイダにより異なります。

・ルーター
異なるネットワーク間の中継点に設置して、ネットワークの中を流れるデータをきちんと目的の場所（パソコンやプリンタなど）に届けるための機器。一般的には、LAN と外部のネットワーク（インターネット）を結ぶために使われます。複数台のパソコンを接続する場合は必要です。ブロードバンドモデムに内蔵されている場合もあります。

・ハブ
ネットワーク上でケーブルを中継するための機器。複数台のパソコンを接続する場合に必要です。ルーターに内蔵されている場合もあります。

・LAN ケーブル（ストレートタイプ）
お使いになるネットワークのスピードに合ったものが必要です。接続するネットワーク機器のマニュアルをご覧になり、必要なものをご用意ください。

LAN を使うための設定

LAN をお使いになるためには、必要な機器を LAN ケーブルで接続し、ネットワークの設定を行います。インターネットに接続する場合は、プロバイダより提供されるマニュアルに従って、機器の設定をしてください。

LAN を接続する

本パソコンには、下記に対応した LAN が内蔵されています。

・10BASE-T （IEEE 802.3 準拠 ）
・100BASE-TX（IEEE 802.3u 準拠 ）

警告

- 雷が鳴り出したら、パソコン本体やケーブル類、およびそれらにつながる機器に触れないでください。また、雷が鳴り出しそうなときは、AC アダプタやケーブル類を取り外し、雷が止むまで取り付けないでください。
  感電・火災の原因となります。またパソコンが故障するおそれがあります。

注意

- LAN コネクタに指などを入れないでください。
  感電の原因となることがあります。

- LAN ケーブルを接続する場合は、必ず LAN コネクタに接続してください。
  接続するコネクタを間違うと故障の原因となることがあります。

1 パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します（→『取扱説明書』）。

2 変換ケーブル（LAN/CRT）をパソコン本体のポートリプリケータ接続コネクタ／LAN/CRT変換コネクタに接続します。

コネクタの形を互いに合わせ、まっすぐに差し込んでください。パソコン本体のポートリプリケータ接続コネクタ／ LAN/CRT 変換コネクタについては、「各部名称」－「各部の名称と働き」（→ P.10）をご覧ください。

3 LAN ケーブルを変換ケーブル（LAN/CRT）の LAN コネクタに接続します。

変換ケーブル（LAN/CRT）については「各部名称」－「変換ケーブル（LAN/CRT）」（→ P.20）をご覧ください。

4 LAN ケーブルをネットワーク機器に接続します。

手順 3 で接続したケーブルのもう一方を、お使いになるネットワーク機器のコネクタに接続し、ネットワーク機器の電源を入れます。

5 パソコン本体に AC アダプタを取り付け、電源を入れます。

LAN を使用する場合は、消費電力が大きいので、AC アダプタのご使用をお勧めします。

重要

- ネットワークをお使いになるときは、省電力機能が働かないように設定を変更することをお勧めします（→ P.118）。
  省電力機能が働いてしまうと、他の装置からアクセスできなくなることがあります。また、お使いになるソフトウェアによっては、不具合が発生する場合があります。
- ネットワークに接続する場合は、AC アダプタを接続した上でのご使用をお勧めします。

POINT

- LAN コネクタから LAN ケーブルのプラグを取り外すときは、ツメを押さえながら引き抜いてください。ツメを押さえずに無理に引き抜くと破損の原因となります。

無線 LAN（IEEE 802.11a、IEEE 802.11g 準拠）について

無線 LAN を使うと、LAN ケーブルを使わずにネットワークに接続することができます。本パソコンに内蔵されている無線 LAN は、IEEE 802.11a（J52/W52/W53/W56）、IEEE 802.11b および IEEE 802.11g に準拠しており、IEEE 802.11a（J52/W52/W53/W56）、IEEE 802.11b および IEEE 802.11g に準拠した無線 LAN 機器と接続することができます。
無線 LAN については、『内蔵無線 LAN をお使いになる方へ』をご覧ください。設定する場合は、ネットワーク管理者に確認のうえ、実行してください。

通信を行うための注意

本パソコンの無線 LAN を使って通信するときの注意事項について説明します。

- 本パソコンに内蔵されている IEEE 802.11a 準拠（J52/W52/W53/W56）の無線 LAN は、電波法の定めにより W56 のチャンネルは屋外でご利用になれますが、J52/W52/W53 のチャンネルは屋外でご利用になれません。本パソコンを屋外でご使用になる場合は、5GHz 帯の電波を停止してください。
- 最大で 54Mbps 無線 LAN に対応しています。
  表示の数値は、無線 LAN 規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。
- パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、IEEE 802.11a準拠（J52/W52/W53/W56）（5GHz帯）では見通し半径15m以内、IEEE 802.11b準拠、IEEE 802.11g準拠（2.4GHz帯）では見通し半径25m以内となります。ただし、無線LANの特性上、ご利用になる建物の構造や材質、障害物、ソフトウェア、設置状況、または電波状況等の使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もあります。
- 本パソコンの使用中､特に無線 LAN で通信中はアンテナ部分に極力触れないでください。
  内蔵無線 LAN アンテナについては、「各部名称」－「各部の名称と働き」（→ P.10）をご覧ください。
  また、本パソコンを設置する場合には、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所を避けてください。通信性能が低下することがあります。
- 本パソコンに内蔵されている無線 LAN は、無線 LAN 製品の相互接続性を検証する「Wi-Fi Alliance®」が定義する、無線 LAN 標準の「Wi-Fi®」に準拠しています。
- 本パソコンに内蔵されている IEEE 802.11b、IEEE 802.11g 準拠の無線 LAN は、Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器と同じ周波数帯（2.4GHz 帯）を使用するため、パソコン本体の近辺で Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を使用すると電波干渉が発生し、通信速度の低下や接続不能になる場合があります。

  ■ Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器との電波干渉を防ぐには
  次の対策を行うと、電波の干渉を防ぐことができる場合があります。
  - Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器とパソコン本体との間は 10m 以上離して使用する。
  - 無線 LAN または Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器の一方の電源を切る。
    （Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を内蔵している場合や、単独で電源を切れないものを除く）
  - 無線 LAN または Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のいずれかの電波を、ユーティリティを使って停止する。
  - 無線 LAN の IEEE 802.11a（5GHz 帯）を利用する（ただし利用できるのは屋内のみ）。

- LAN 機能を使ってネットワークに接続中は、スリープや休止状態にしないことをお勧めします。お使いの環境によっては、ネットワークへの接続が正常に行われない場合があります。
  なお、本パソコンを使用していない場合は、電源を切ってください。
- 有線 LAN と無線 LAN で、TCP/IP の設定などが競合しないように注意してください。
- 本パソコンをバッテリで運用中に無線 LAN を使用する場合は、バッテリ残量に注意してください。
- IEEE 802.11a 準拠の W53（52 〜 64ch）、W56（100 〜 140ch）では、無線 LAN アクセスポイントの DFS 機能が作動した場合、W53/W56 の通信はいったん切断されます。DFS 機能により、その無線 LAN アクセスポイントが再起動した場合は、W53/W56 以外のすべての通信もいったん切断されます。

5 ドライブ関連

ドライブ構成

ハードディスクは Windows RE 領域に約 1GB の領域が占有されています。そのため、「コンピュータ」のハードディスクの総容量は、「仕様一覧」の記載よりも約 1GB 少なく表示されます。
Windows RE 領域は、リカバリ時にハードディスクの領域設定を変更しても削除できません。

ドライブ	容量	備考
C	約 26GB	NTFS
D	約 10GB	NTFS
E	接続したドライブ	ドライブ接続時

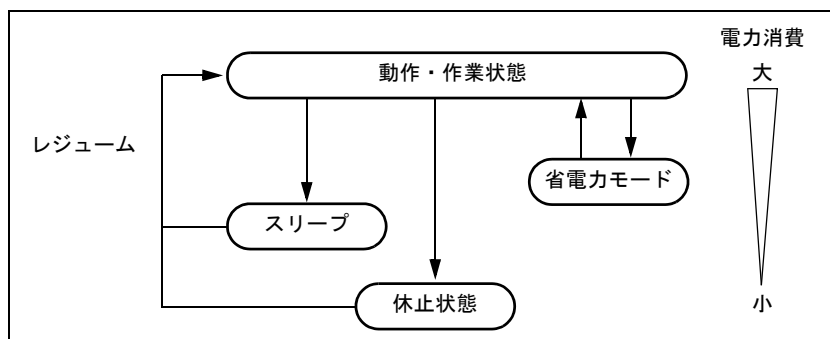
POINT

・ファイルシステムを NTFS から FAT32 に変換することはできません。

6 省電力

ご購入時には、一定時間パソコン本体を操作しないと自動的にディスプレイの表示を消したり、スリープ状態になるよう設定されています。

スリープ／休止状態／省電力モード

スリープ、休止状態または省電力モードを使用すると、Windows を終了しないで節電できます。

- **スリープ**
  パソコンの電源を切らずに、作業中のデータなどをメモリに保存して、パソコンを待機状態にすることです。スリープ中は、メモリに保存したデータなどを保持するために少しずつ電力を消費しています。ご購入時の設定では、スリープしてから一定時間経過するか、バッテリの残量が少なくなると、データなどの保存先をメモリからハードディスクに切り替えて、パソコンの電源を切るようになっています。
- **休止状態**
  メモリ内のプログラムやデータを、ハードディスクに書き込んで保存し、パソコン本体の電源を切ります。そのため、スリープよりも中断／レジュームにかかる時間が長くなります。
- **省電力モード**
  Windows が起動しているときに、「省電力ユーティリティ」を使った省電力モードにすることができます。省電力モードは、スリープや休止状態とは異なり、パソコン本体の動作を中断させません。そのため、パソコンの消費電力はスリープや休止状態ほどは節約できません。

注意事項

共通の注意事項

- ネットワークをお使いになるときは、省電力機能が働かないように設定を変更することをお勧めします（→ P.120）。省電力機能が働いてしまうと、他の装置からアクセスできなくなることがあります。
- パソコンをお使いの状況によっては、スリープや休止状態、レジュームに時間がかかる場合があります。

- スリープまたは休止状態にした後、すぐにレジュームしないでください。必ず、10 秒以上たってからレジュームするようにしてください。
- 接続している周辺機器のドライバが正しくインストールされていない場合、スリープや休止状態にならないことがあります。
- レジューム時に、画面に一瞬ノイズが発生する場合があります。
- 次の場合は、スリープや休止状態にしないでください。
  - Windows の起動処理中または終了処理中
  - パソコンが何か処理をしている最中（プリンタ出力中など）、および処理完了直後
  - ハードディスク、またはフロッピーディスクにアクセス中
  - オートラン CD-ROM（セットすると自動で始まる CD-ROM）を使用中
  - ビデオ CD や DVD-VIDEO などを再生中
  - 音楽 CD やゲームソフトなどのサウンドを再生中
  - CD や DVD に書き込みまたは書き換え中
  - ドライバのインストールが必要な周辺機器を接続しているが、対象のドライバのインストールが終了していないとき
  - ネットワークで通信中
  - ネットワーク環境で TCP/IP プロトコル以外のプロトコルを使用している場合
- 周辺機器の取り付け／取り外しをする前に、パソコン本体の電源を切ってください。省電力に移行した状態では行わないでください。また、周辺機器によっては、パソコン本体の電源を切らなくても接続できるものもあります。
  「ハードウェア」（→ P.27）、または周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。
- 別売のLANカードをお使いになる場合は、ACアダプタを接続し、「電源オプション」ウィンドウで、選択している電源プランの「プラン設定の変更」をクリックし、「プラン設定の編集」ウィンドウの各項目を「なし」に設定してください。
- CD や DVD を読み込み中にスリープや休止状態に移行すると、レジューム時にエラーメッセージが表示される場合があります。この場合は、【Enter】キーを押してください。
- ネットワーク環境で LAN 着信によるレジューム（Wakeup on LAN）を設定すると、ホストコンピュータまたは他のコンピュータからのアクセスにより、スリープまたは休止状態のコンピュータがレジュームする可能性があります。次の手順でタイマ値を設定することをお勧めします。
  1. 「電源オプション」ウィンドウを表示します（→ P.120）。
  2. 変更したい電源プランの「プラン設定の変更」をクリックします。
     「プラン設定の編集」ウィンドウが開きます。
  3. 「コンピュータをスリープ状態にする」を 20 分以上に設定します。
  4. 「変更の保存」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

POINT

- 設定値が 20 分より短いと、本パソコンがレジュームしてしまうことがあります。20 分以上の値に設定してください。

休止状態の注意事項

- コンパクトフラッシュカードやプリンタなどの周辺機器を接続した状態で休止状態にすると、レジューム時に周辺機器の情報が初期化されるため、中断する前の作業状態に戻らないことがあります。
- ハードディスクに必要な空き容量がない場合、休止状態は使用できません。

省電力モードの注意事項

・省電力モードにすると次の機能が使用できなくなります。
省電力モードにする前にそれぞれの機能の使用を中止してください。
- CF（コンパクトフラッシュ）カードスロット
- SD メモリーカードスロット
- 有線 LAN

・省電力モードにするとコンパクトフラッシュカードが無効になる設定にしている場合は、省電力モードから通常モードに切り替えるときに、必ず CF（コンパクトフラッシュ）カードスロットからコンパクトフラッシュカードを抜いてください。
コンパクトフラッシュカードを使う場合、省電力モードから通常モードに戻してから再度セットしてください。

省電力の設定

設定を変更する

ご購入時には、一定時間パソコンを操作しないと自動的に「スリープ」になるように設定されています。
省電力機能が働くまでの時間などの設定を変更するには、「コントロールパネル」の「電源オプション」ウィンドウで行います。
CD や DVD にデータを書き込むときや、LAN を使用するときなど、必要に応じて設定を変更してください。

1 **「スタート」ボタン →「コントロールパネル」の順にクリックします。**
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 **「システムとメンテナンス」→「電源オプション」の順にクリックします。**
「電源オプション」ウィンドウが表示されます。

続けて「「電源オプション」ウィンドウについて」(→ P.120)をご覧になり、設定してください。

「電源オプション」ウィンドウについて

「電源オプション」ウィンドウでは、電源プランを変更したり、スリープになるまでの時間を設定したりすることができます。
また、パソコン本体の電源スイッチをスライドさせたときや、液晶ディスプレイを閉じたときに働く省電力機能を変更することもできます。

■電源プランを変更する

ご購入時は「バランス」、「省電力」、「高パフォーマンス」が用意されています。お使いになる状況に適した電源プランをチェックしてください。
なお、各電源プランにある「プラン設定の変更」をクリックすると、各プランの設定を変更することができます。

POINT

・「Windows モビリティセンター」を使って電源プランを変更できます。
1. 「スタート」ボタン →「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます
2. 「モバイルコンピュータ」の「共通で使うモビリティ設定の調整」をクリックします。
「Windows モビリティセンター」ウィンドウが表示されます。
3. 「バッテリの状態」で電源プランを選択します。
・「Windows モビリティセンター」では、パソコンをいつもとは違う場所で使用するときなどに、お使いになる状況に合わせた各種設定を 1 つの画面ですべて変更することができます。
・変更した設定は次の手順で元に戻すことができます。
1. 「電源オプション」ウィンドウ左の「コンピュータがスリープ状態になる時間を変更」をクリックします。
2. 「このプランの既定の設定を復元する」をクリックします。
3. 「はい」をクリックします。
4. [×] をクリックします。

■スリープになるまでの時間を変更する

スリープになるまでの時間は、次の手順で変更することができます。

1 「電源オプション」ウィンドウ左の「コンピュータがスリープ状態になる時間を変更」をクリックします。

「プラン設定の編集」ウィンドウが表示されます。

2 「コンピュータをスリープ状態にする」の設定を変更します。

3 「変更の保存」をクリックします。

■電源スイッチをスライドさせたときと、液晶ディスプレイを閉じたときの省電力機能の設定を変更する

パソコン本体の電源スイッチをスライドさせたときや、液晶ディスプレイを閉じたときに働く省電力機能は、次の手順で変更することができます。

1 「電源オプション」ウィンドウ左の「電源ボタンの動作の選択」または「カバーを閉じたときの動作の選択」をクリックします。

2 電源ボタンとカバーの設定の項目を変更します。

POINT

・パソコンがスリープから復帰するときに、あらかじめ Windows に設定してあるパスワードの入力を必須とする設定にすることで、本パソコンのセキュリティを高めることができます。
1. 「現在利用可能ではない設定を変更します」をクリックします。
2. 「ユーザーアカウント制御」ウィンドウで「続行」をクリックします。
標準ユーザーで Windows にログオンしている場合は、管理者アカウントのパスワードを入力し、「OK」をクリックします。
3. 「パスワードを必要とする（推奨）」をチェックします。

3 「変更の保存」をクリックします。

スリープまたは休止状態にする

ご購入時には、各項目の動作は「スリープ」に設定されています。電源スイッチをスライドさせたり、液晶ディスプレイを閉じて「休止状態」を使用する場合には、省電力機能の設定を変更してください。詳しくは、「省電力の設定」（→ P.120）をご覧ください。スリープ／休止状態にするには、次の方法があります。

スタートボタンを使う

1 状態表示 LED のディスクアクセスランプが点灯していないことを確認します。

2 「スタート」ボタン → ▶ の ▶ →「スリープ」または「休止状態」の順にクリックします。

しばらくするとスリープまたは休止状態になります。

POINT

・画面上の「電源」ボタンをクリックしてもスリープや休止状態にすることができます。ご購入時には、画面上の「電源」ボタンは「スリープ」に設定されています。

電源スイッチを使う

ご購入時には本体の電源スイッチの省電力機能は「スリープ」に設定されています。設定を変更する場合は、「電源スイッチをスライドさせたときと、液晶ディスプレイを閉じたときの省電力機能の設定を変更する」（→ P.121）をご覧ください。

1 状態表示 LED のディスクアクセスランプが点灯していないことを確認し、電源スイッチをスライドさせます。

しばらくするとスリープまたは休止状態になります。

POINT

・電源スイッチを 4 秒以上スライドさせないでください。電源スイッチを 4 秒以上スライドさせると、本パソコンの電源が切れ、作成中のデータが失われることがあります。

液晶ディスプレイを閉じる

ご購入時には液晶ディスプレイを閉じたときの省電力機能は「スリープ」に設定されています。設定を変更する場合は、「電源スイッチをスライドさせたときと、液晶ディスプレイを閉じたときの省電力機能の設定を変更する」（→ P.121）をご覧ください。

重要

・液晶ディスプレイは静かに閉じてください。
　閉じるときに液晶ディスプレイに強い力が加わると、液晶ディスプレイが故障する原因となることがあります。

1 **状態表示 LED のディスクアクセスランプが点灯していないことを確認し、液晶ディスプレイを閉じます。**

しばらくするとスリープまたは休止状態になります。

POINT

- 「電源スイッチをスライドさせたときと、液晶ディスプレイを閉じたときの省電力機能の設定を変更する」（→ P.121）で、「カバーを閉じたときの動作」を「何もしない」に設定すると、液晶ディスプレイを閉じたときにスリープや休止状態にしないように設定できます。ただし、「何もしない」に設定した場合は、液晶ディスプレイを閉じないでください。放熱が妨げられ、故障の原因となります。
- ハードディスクの音が止まったことを確認してください。スリープや休止状態にならないまま液晶ディスプレイを閉じると、放熱が妨げられ、故障の原因になります。
- 液晶ディスプレイを閉じてもスリープや休止状態にならない場合、液晶ディスプレイを開いて電源スイッチをスライドさせて、スリープや休止状態になったことを確認してから液晶ディスプレイを閉じてください。
- ソフトウェアの動作中には、液晶ディスプレイを閉じてもスリープや休止状態にならない場合があります。ソフトウェアの動作が止まった後で、液晶ディスプレイを閉じてください。

スリープまたは休止状態からのレジューム

レジューム後、しばらくすると、中断する前の画面が表示されます。レジュームには、次の方法があります。

電源スイッチをスライドさせる

液晶ディスプレイが開いているときに使用します。
スリープからレジュームする場合は電源ランプが点滅していることを確認してください。

液晶ディスプレイを開く

液晶ディスプレイが閉じているときに使用します。

POINT

- 電源スイッチを 4 秒以上スライドさせないでください。電源スイッチを 4 秒以上スライドさせると、本パソコンの電源が切れ、作成中のデータが失われることがあります。
- 画面がデスクトップ画面に戻るまでスティックポイントやマウスの操作はしないで下さい。

LAN 着信によるレジューム（Wakeup on LAN）

他のコンピュータから本パソコンにコンピュータ検索が行われた場合などに、自動的にレジュームさせることができます。無線LANをお使いの場合、Wakeup on LAN機能はお使いになれません。
なお、「LAN着信によるレジューム」の設定をしているときは、スリープまたは休止状態中に液晶ディスプレイを閉じないでください。レジューム後に放熱が妨げられ、故障の原因となります。
ネットワーク環境下でWakeup on LAN機能を使用する場合は、次のように設定してください。

1 **管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。**

2 **「スタート」ボタン →「コントロールパネル」の順にクリックします。**

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます

3 **「ハードウェアとサウンド」→「デバイスマネージャ」の順にクリックします。**

「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されます。

4 **「続行」をクリックします。**

「続行」が表示されず「管理者アカウント」が表示されている場合は、そのアカウントのパスワードを入力してから「OK」をクリックします。
「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。

5 **「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。**

6 **「Realtek RTL8139/810x Family Fast Ethernet NIC」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。**

7 **「電源の管理」タブをクリックします。**

8 **次の 2 つの項目をチェックします。**

・電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする
・このデバイスで、コンピュータのスリープ状態を解除できるようにする

9 **「OK」をクリックして、すべての画面を閉じます。**

省電力モードの設定

概要

Windows が起動しているときに「省電力ユーティリティ」を起動すると、省電力モードになり消費電力を節約することができます。
省電力モードでは、次の機能により消費電力が節約されます。

- CF（コンパクトフラッシュ）カードスロットおよび SD メモリーカードスロットを使用できなくする
- 有線 LAN を使用できなくする
- 画面の明るさを暗くする

省電力モードの設定

Fn ボタンを押した後にアプリケーションボタン 1 を押すと、「省電力モード」←→「通常モード」へと順に切り替わります。

POINT

・画面右下の通知領域にある「省電力ユーティリティ」アイコンを右クリックし、表示されるメニューからも切り替えることができます。
  1. 画面右下の通知領域にある「省電力ユーティリティ」アイコンを右クリックし、表示されるメニューから「モードの切り替え」をクリックします。
     モードの切り替えを示すウィンドウが表示されます。
  2. 「OK」をクリックします。
     「省電力モード」←→「通常モード」が切り替わります。

3

省電力モードの設定を変更する

省電力モードの設定を変更することができます。お使いの状況に合わせて、設定を変更し、「OK」をクリックしてください。

POINT

・設定内容については、「省電力ユーティリティ」のヘルプをご覧ください。「省電力ユーティリティ」のヘルプは、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「省電力ユーティリティ」→「ヘルプ」の順にクリックして表示します。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「省電力ユーティリティ」→「設定画面 - 省電力ユーティリティ」の順にクリックします。

「省電力ユーティリティ設定画面 - 省電力ユーティリティ」ウィンドウが表示されます。

第 4 章

セキュリティ

本パソコンで使用できるセキュリティ機能について紹介します。他人による不正使用や情報の漏えいなどを防ぐために、日ごろからセキュリティ対策を心がけてください。

1 セキュリティについて

パソコンの使用増加に伴って、コンピュータウイルスによるシステム破壊、情報の漏えい、不正使用、盗難などの危険も増えてきています。これらの危険から大切な情報を守るために、本パソコンではさまざまなセキュリティ機能が用意されています。
ここでは、どんな危険があるか、またトラブルに備えてやっておくことについて、説明しています。

重要

- 弊社ではセキュリティ機能を使用されたこと、または使用できなかったことによって生じるいかなる損害に関しても、一切の責任を負いかねます。
  セキュリティ対策は、本パソコンを使用している方が責任をもって行うようにしてください。
- セキュリティは一度行えば安心できるものではありません。パソコンを使用している方が日ごろから関心をもって、最善のセキュリティ環境にしておくことが必要です。

コンピュータウイルス

パソコンにトラブルを引き起こすことを目的として作られたプログラムです。インターネットや電子メールなどを通じてパソコンに感染することにより、パソコンのシステムやデータの破壊、情報の漏えいといった被害を与えます。

情報の漏えい

ネットワークなどを通してパソコンに不正に侵入され、重要なデータを流出されたり破壊されたりすることがあります。また、特殊なソフトウェアを使用することにより、廃棄したパソコンから不正に情報が抜き出されることもあります。

POINT

- 記録メディアを廃棄する場合も、セキュリティに気を付けてください。CD、DVD などはディスクの読み取り部に傷をつけたり、USB メモリなどはデータを完全に消去したりすることをお勧めします。

不正使用

使用する権限のないパソコンを使用することです。パスワードを設定するなどの対策で防ぐこともできますが、容易に想像できるパスワードを使用したりすると、不正に使用される危険性が高くなります。

盗難

パソコンが持ち出され、保存しているデータが不正に使用されることがあります。

2 ネットワーク接続時のセキュリティ

インターネットや電子メールなどの普及に伴い、コンピュータウイルスへの感染やパソコン内の情報が漏えいする危険性が高まっています。
ここでは、ネットワークに接続しているパソコンを守るためのセキュリティ機能について紹介します。

コンピュータウイルス対策

重要

- コンピュータウイルスに感染したことにより本パソコンの修理が必要になった場合、保証期間内であっても有償修理になることがあります。ウイルスの感染を防ぐために、セキュリティ対策ソフトを使用したり、「Windows Update」を実行したり対策を取ってください。

コンピュータウイルスは、インターネットや電子メールなどを通じてパソコンに感染し、データを破壊したりパソコンを起動できなくしたりします。また、ウイルスに感染したパソコンを使用することにより、メールソフトに登録されているアドレスや保持しているデータに記録されているアドレス宛てに勝手にウイルスが配信され、ウイルスを広めてしまうこともあります。
また、インターネットに接続しない場合も、データによる感染を防ぐため、セキュリティ対策ソフトの初期設定をすることをお勧めします。
本パソコンには、様々な機能を備えた総合的なセキュリティ対策ソフトが用意されています。
次の２つのソフトウェアのうち、どちらか１つを選んで初期設定をしてください。
インストールできるソフトウェアは１つだけです。インストール後は、ソフトウェアの変更はできません。

- 「Norton Internet Security」
- 「ウイルスバスター」

セキュリティ対策ソフトを選択する

1 **デスクトップにある「セキュリティ対策ソフト選択」をクリックします。**

「セキュリティ対策ソフト選択」ウィンドウが表示されます。

2 **お使いになりたいセキュリティ対策ソフトのボタンをクリックします。**

・「Norton Internet Security」を選んだ方は
　「「Norton Internet Security」を使う」に進んでください。(→ P.130)
・「ウイルスバスター」を選んだ方は
　「「ウイルスバスター」を使う」に進んでください。(→ P.131)

「Norton Internet Security」を使う

1 **画面の内容をよく確認し、インストールを開始するには、「同意する」をクリックします。**

「同意する」をクリックした後は、セキュリティ対策ソフトを変更することはできませんので、ご注意ください。

2 **「Norton Internet Security」の画面が表示されるまで、そのまましばらくお待ちください。**

3 **「Norton Internet Security」の画面が表示されたら、初期設定を行います。**

この後は、「次へ」「続行」「完了」「同意します」などをクリックして操作を進めてください。

■定義ファイルのアップデート期限

初期設定が完了してから90日間は、定義ファイルのアップデートが利用できます。90日に近づいたり、90日を過ぎたりすると、更新サービスの申し込みをお勧めする画面が表示されます。その後も使い続けるには、更新サービス(有料)の申し込みが必要です。

■お問い合わせ先

「Norton Internet Security」については、株式会社シマンテックにお問い合わせください。

「ウイルスバスター」を使う

1 **画面の内容をよく確認し、インストールを開始するには、「同意する」をクリックします。**

「同意する」をクリックした後は、セキュリティ対策ソフトを変更することはできませんので、ご注意ください。

2 **この後は、画面の指示に従ってインストールします。**

「次へ」「はい」「同意する」「OK」「インストール」「完了」などをクリックして、操作を進めてください。

■「ウイルスバスター」の設定

「ウイルスバスター」のパーソナルファイアウォール機能を使うときは、インターネットの接続形態に合わせた設定が必要です。
次の手順に従って、設定してください。

1 **（スタート）→「すべてのプログラム」→「ウイルスバスター 2007」→「ウイルスバスターを起動」の順にクリックします。**

概要説明の「動画マニュアル」を開始するか確認する画面が表示された場合は「キャンセル」をクリックします。

2 **「ウイルスバスター」のトップ画面の「不正侵入対策／ネットワーク管理」をクリックします。**

3 **「パーソナルファイアウォール」の「設定」をクリックします。**

4 **「プロファイルの設定」で、インターネットの接続形態に合わせたプロファイルを選択します。**

例えば、ADSL や光ファイバーなどを利用している場合は、「家庭内ネットワーク 2」をクリックして選択し、「このプロファイルを有効にする」をクリックして、「OK」をクリックします。

■アップデート機能を有効にする

アップデート機能を有効にするには、「オンラインユーザ登録」をしてください。
ユーザー登録にはメールアドレスが必要です。
詳しい使い方については「ウイルスバスター」の「ヘルプとサポート」をご覧ください。

■パターンファイルのアップデート期限

ユーザー登録が完了してから 90 日間は、パターンファイルのアップデートが利用できます。
その後も使い続けるには、更新手続き（有料）が必要です。

■お問い合わせ先

「ウイルスバスター」についてはトレンドマイクロ株式会社にお問い合わせください。

4

コンピュータウイルスの被害届け

コンピュータウイルスを発見した場合は、被害届けを提出してください。
コンピュータウイルスの届け出制度は、「コンピュータウイルス対策基準」（平成 12 年 12 月 28 日付通商産業省告示第 952 号）の規定に基づいています。コンピュータウイルスを発見した場合、コンピュータウイルス被害の拡大と再発を防ぐために必要な情報を、独立行政法人情報処理推進機構（IPA）セキュリティセンターに届け出ることとされています（http://www.ipa.go.jp/security/）。

Windows やソフトウェアのアップデート

お使いの Windows やソフトウェアに脆弱性（セキュリティホール）と呼ばれる弱点が発見されることがあります。これらの脆弱性が悪用されると、コンピュータウイルスなどの悪意あるプログラムが作られる可能性があります。脆弱性をそのまま放置しておくと、お使いのパソコンに悪意あるプログラムが侵入する危険性があります。
その対策として、システムやソフトウェアを提供している各社が修正プログラムを無料で配布しています。新しい修正プログラムが発表されたときには、内容を確認の上、お使いのパソコンに適用してください。
Windows では、「Windows Update」で Windows やソフトウェアなどを最新の状態に更新できます。最新の状態にすることにより、ウイルスが侵入したり、不正アクセスされたりするセキュリティホールをなくすための対策もされます。
Office 製品についても、マイクロソフト社のホームページから、「Office のアップデート」を実行することにより、最新の状態に更新できます。

Windows Update

POINT

- 「Windows Update」を実行するためには、インターネットに接続できる環境が必要になります。あらかじめ必要な設定をしてから、実行してください。
- インターネットに接続する前に、セキュリティ対策ソフトを設定することをお勧めします。
  本パソコンには、「Norton Internet Security」（→ P.130）と「ウイルスバスター」（→ P.131）が用意されています。
- 「Windows Update」は、マイクロソフト社が提供するサポート機能です。「Windows Update」で提供されるプログラムについては、弊社がその内容や動作、および実施後のパソコンの動作を保証するものではありませんのでご了承ください。
- 「Windows Update」のバージョンがアップされている場合は、「Windows Update」のホームページの案内に従って、実行してください。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Windows Update」の順にクリックします。

「Windows Update」の画面が表示されます。

・Windows や Office 製品などのマイクロソフト社が提供するソフトウェアの更新プログラムを 1 度に入手できる「Microsoft Update」を利用することもできます。「Microsoft Update」を利用するには、マイクロソフト社のホームページから専用のソフトウェアをインストールする必要があります。詳しくは、「Windows Update」のホームページにあるリンクをクリックし、「Microsoft Update」のホームページをご覧ください。

2 **「更新プログラムの確認」をクリックします。**
パソコンの状態を診断し、更新情報を取得します。

この後は、表示される画面に従って操作してください。

アップデートナビ

このパソコンの出荷後、お客様にご購入いただくまでの間にも、弊社では改善に努めています。パソコンをよりお勧めの状態に整える「アップデートナビ」というサポート機能をご利用ください。「アップデートナビ」では、インターネットを経由して、弊社が推奨する最新情報を確認し、お使いのパソコンを、より安定して動作するお勧めの状態にします。

4

1 **画面右下の通知領域にある（アップデートナビ）を右クリックします。**

2 **「富士通へ最新情報を確認」をクリックします。**

3 **「ご利用になる上でのご注意」の画面が表示されたら、内容をよくお読みになり、「承諾する」をクリックします。**
「承諾しない」をクリックした場合、「アップデートナビ」はご利用いただけません。

4 **更新項目を確認します。必要に応じて、概要、詳細をご覧ください。**
更新したくない項目がある場合は、その項目の左にあるチェックを外します。通常は、すべての項目を更新することをお勧めします。

5 **「更新開始」をクリックします。**
更新情報が自動的にダウンロードされ、インストールされます。

通信データの暗号化

ネットワーク経由でデータをやり取りしている場合、ネットワーク上で情報の漏えいを招くことがあります。重要なデータはあらかじめ暗号化するなどして保護することが大切です。
Windows Vista Home Premium には、データを暗号化するための機能が標準で搭載されています。暗号化機能の 1 つとして、「IPSec（Internet Protocol Security）」があります。
TCP/IP プロトコルで通信を行っている場合に「IPSec」を有効にすると、ソフトウェアに依存せずにデータを暗号化できます。
詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。

無線 LAN 使用時の通信データの暗号化

無線 LAN を選択した方のみ

無線 LAN を使ってネットワークに接続すると、無線が届く範囲内にある他の無線 LAN 搭載機器から通信内容を他人に読み取られてしまう危険性があるので、データを暗号化することが必要です。
本パソコンには、無線 LAN のデータを暗号化するための機能が搭載されています。
詳しくは、『内蔵無線 LAN をお使いになる方へ』をご覧ください。
なお、無線 LAN アクセスポイント経由でネットワークに接続している場合は、無線 LAN アクセスポイントのマニュアルもご覧ください。

不正使用からのセキュリティ

パソコンを使用する権限のない人が不正にパソコンを使用して、データを破壊したり漏えいしたりする危険からパソコンを守ることが必要になってきています。
ここでは、本パソコンで設定できるパスワードや機能などについて説明します。なお、複数のパスワードや機能を組み合わせることによって、よりパソコンの安全性を高めることができます。

重要

- パソコンの修理が必要な場合は、必ずパスワードなどを解除してください。セキュリティがかかった状態では、保証期間にかかわらず修理は有償となります。
- パスワードを何かに書き留めるときは、第三者に知られないように安全な場所に保管してください。
  また、数字だけでなく英数字や記号を入れたり、定期的に変更したりするなど、第三者に推測されないように工夫をしてください。

Windows のパスワード

Windows の起動時やレジューム時、スクリーンセーバーからの復帰時のパスワードを設定できます。複数のユーザーで 1 台のパソコンを使用する場合、使用するユーザーによってパスワードを変更できます。
パスワードの設定方法については、Windows のヘルプをご覧ください。

管理者権限とユーザーアカウント

Windowsでは、管理者権限を持ったユーザーアカウントを作成できます。管理者は、他のユーザーアカウントのセットアップや管理などを行うことができます。管理者がパソコンを使用するユーザーを管理することで、パソコンの安全性も高まります。
詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

Windows Vista の「ユーザーアカウント制御（UAC）」について

「ユーザーアカウント制御（UAC）」とは、許可なくパソコンが変更されるのを防ぐ Windows のセキュリティ機能です。
「ユーザーアカウント制御」が有効になっていると、パソコンの動作に影響する操作や、他のユーザーに影響する設定変更などが実行される前に、許可やパスワードを求めるメッセージを表示します。この機能により、悪意のあるソフトウェアやスパイウェアなどがインストールされたり、複数のユーザーアカウントが設定されているときに管理者の許可なくパソコンが変更されたりするのを防止して、パソコンを守ります。
ご購入時は、「ユーザーアカウント制御」が有効になっています。

POINT

・パソコンの操作をしているときに「ユーザーアカウント制御 (UAC)」のメッセージを表示させないようにするには、次の手順で設定を変更してください。
「ユーザーアカウント制御」を無効にすると、セキュリティのレベルが低下する危険性がありますので、「ユーザーアカウント制御」は有効にしておくことをお勧めします。
1.「スタート」ボタン →「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
2.「ユーザーアカウント」をクリックします。
3.「ユーザーアカウント」をクリックします。
4.「ユーザーアカウント制御の有効化または無効化」をクリックします。
「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されます。
5.「続行」をクリックします。
「続行」が表示されず「管理者アカウント」が表示されている場合は、そのアカウントのパスワードを入力してから「OK」をクリックします。
「ユーザーアカウント制御の有効化または無効化」ウィンドウが表示されます。
6.「ユーザーアカウント制御（UAC）を使ってコンピュータの保護に役立たせる」のチェックを外します。
7.「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

アクセス権と暗号化

Windowsでは、ファイルシステムとしてNTFSを使用しています。NTFSでは、次のようなことができます。

・フォルダやファイルへのアクセス権の設定
ユーザーまたはグループごとに権限を設定できるため、権限のないユーザーからのアクセスに対してファイルを保護することができます。
・フォルダやファイルの暗号化
不慮の事故や盗難などでハードディスクを紛失しても、簡単にファイルの内容を判別できないように保護することができます。

アクセス権を設定したり暗号化することにより、権限のないユーザーから大切なデータを守ることができます。
詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。

BIOS のパスワード

パソコンの起動時やレジューム時のパスワードを設定できます。BIOS のパスワードには、管理者用のパスワードとユーザー用のパスワードがあります。ユーザー用パスワードで作業を行う場合、パソコンの設定が変更できなくなるなどの制限がつきます。
また、パソコンのハードディスク自体にパスワードを設定できます。ハードディスクにパスワードを設定しておくと、パスワードを知っている人以外はハードディスクに入っている情報が読み出せなくなります。
詳しくは、「BIOS」－「BIOS のパスワード機能を使う」（→ P.175）をご覧ください。

指紋センサー

重要

- 指紋センサーをひっかいたり、先のとがったもので押したり、濡らしたりしないでください。指紋センサーに傷がつき、故障の原因となることがあります。
- パソコン本体の使用中、指紋センサー表面が温かくなることがありますが、故障ではありません。
- 指紋センサーが汚れた場合は、大きな金属質のものに手を触れるなどして静電気を取り除いてから、乾いた柔らかい布でセンサー表面の汚れを軽く拭き取ってください。

Windowsのログオンやパスワードの必要なホームページへのログオン時に指紋認証によるセキュリティを設定できます。従来のパスワード認証だけでなく、指紋による個人認証が行えます。パスワードを覚える必要がなく、個々の指紋を記憶できるので、簡単に安全に使用できます。
詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

4 パソコン本体廃棄時のセキュリティ

パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

最近、パソコンは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのパソコンに入っているハードディスクという記憶装置には、お客様の重要なデータが記録されています。したがって、パソコンを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。
ところが、このハードディスク内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。「データを消去する」という場合、一般に

- データを「ゴミ箱」に捨てる
-「削除」操作を行う
-「ゴミ箱を空にする」を使って消す
- ソフトウェアで初期化（フォーマット）する
- ハードディスクをご購入時の状態に戻す

などの作業をすると思いますが、これらのことをしても、ハードディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際にはデータが見えなくなっているだけという状態です。
つまり、一見消去されたように見えますが、Windows などの OS からデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているのです。したがって、データ回復のための特殊なソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読み取ることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、ハードディスク内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。
パソコンの廃棄・譲渡等を行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、お客様の責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、専用ソフトウェアを利用することをお勧めします。また、廃棄する場合は、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁気的に破壊することをお勧めします。
なお、ハードディスク上のソフトウェア（Windows、ソフトウェアなど）を削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があるため、充分な確認を行う必要があります。

本パソコンには、パソコンの廃棄・譲渡時のデータ流出というトラブルを回避する安全策の一つとして、専用ソフトウェア「ハードディスクデータ消去」が添付されています。「ハードディスクデータ消去」は、Windows などの OS によるファイル削除や初期化と違い、ハードディスクの全領域について、元あったデータに固定パターンを上書きするため、データが復元されにくくなります。
ただし、「ハードディスクデータ消去」で消去した場合でも、特殊な設備や特殊なソフトウェアの使用によりデータを復元される可能性はゼロではありませんので、あらかじめご了承ください。
「ハードディスクデータ消去」の使い方については、「ソフトウェア」－「ソフトウェア一覧」（→ P.142）をご覧ください。

ハードディスクのデータ消去サービスについて

弊社では、法人・企業のお客様向けに、専門スタッフがお客様のもとへお伺いし、短時間でデータを消去する、「データ消去サービス」をご用意しております。
消去方法は、専用ソフトウェアによる「ソフト消去」と、消磁装置による「ハード消去」があります。

ソフト消去	専用ソフトウェアを使って、ハードディスクに対して 2 回上書き（ランダムデータ＋0 データ）する事により残存するデータを完全に消去します。DoD や NSA など海外の各種消去規格にも対応可能です。
ハード消去	消磁装置を使用してハードディスクを磁気的に破壊します。（最大磁力：13000 ガウス）

消去証明として富士通が消去証明書を発行し、消去済ナンバリングシールを対象ディスクに貼付して、納品物とします。

詳しくは、「データ消去サービス」（http://segroup.fujitsu.com/fs/services/h_elimination/）をご覧ください。
お問い合わせ／お申し込み先メールアドレス：fbprj@support.fujitsu.com

4

第 5 章

ソフトウェア

ソフトウェアについて説明しています。

1 ソフトウェア一覧

・一部のソフトウェアの使用方法については、ヘルプまたは「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。
・添付されているソフトウェアは「アプリケーションディスク 1」、「アプリケーションディスク 2」に格納されています。

◎：プレインストールされています。
△：添付の「アプリケーションディスク 1」からインストールしてください。
▲：専用のディスクが添付されています。
■：ハードディスクにあらかじめ導入されており、デスクトップの「セキュリティソフト選択」からの初回起動時に自動的にセットアップします。
□：ハードディスクにあらかじめ導入されており、「スタート」メニューからの初回起動時に自動的にセットアップします。
▽：ハードディスクにあらかじめ導入されており、「トラブル解決ナビ」から起動します。

名称		搭載状況
セキュリティ対策ソフト選択	…→ P.144	◎
Norton Internet Security	…→ P.145	■
ウイルスバスター	…→ P.146	■
@nifty でブロードバンド	…→ P.146	◎
Adobe Reader	…→ P.147	◎
AzbyClub ガジェット	…→ P.147	◎
FMV ユーザー登録	…→ P.148	◎
FM かんたんインストール	…→ P.148	△
FM かんたんバックアップ	…→ P.148	◎
Fujitsu Display Manager	…→ P.149	◎
IndicatorUtility	…→ P.149	◎
i- フィルター	…→ P.149	□
OmniPass	…→ P.150	◎
PC 乗換ガイド	…→ P.150	◎
PowerUtility- スケジュール機能	…→ P.150	◎
PowerUtility- リモート管理機能	…→ P.151	◎
アップデートナビ	…→ P.153	◎
インターネット移行アシスタント	…→ P.154	◎
省電力ユーティリティ	…→ P.154	◎
スーパー総合辞書／学研総合百科事典	…→ P.154	◎
乗換案内 VER.5	…→ P.154	△
ハードディスクデータ消去	…→ P.155	▽
マイリカバリ	…→ P.157	◎
メールソフト切り替えツール	…→ P.157	◎
ゆったり設定２	…→ P.157	◎
Office Personal 2007[注]	…→ P.158	◎（▲）

[注] Office Personal 2007 を選択した場合に搭載されます。

・ソフトウェアによって、縦画面使用時は、ウィンドウの移動が必要になります。

ポータブル CD/DVD ドライブを選択した場合

次のソフトウェアをお使いになるときは、最初に「アプリケーションディスク 2」からインストールしてください。

名称		搭載状況
Roxio EasyMedia Creator	••• → P.152	▲[注]
WinDVD	••• → P.153	▲

[注] 液晶ディスプレイは、横向きでお使いください。

5

各ソフトウェアの紹介

POINT

- インストールには CD/DVD ドライブが必要です。
- 「Windows が実行する動作を選んでください」と表示されたら、「キャンセル」をクリックしてください。

セキュリティ対策ソフト選択

■概要

次の 2 つのソフトウェアのうち、どちらか 1 つをインストールします。
インストールできるソフトウェアは 1 つだけです。インストール後は、ソフトウェアの変更はできません。

- 「Norton Internet Security」
- 「ウイルスバスター」

■使い方

デスクトップにある「セキュリティ対策ソフト選択」をクリックします。
「セキュリティ対策ソフト選択」ウィンドウが表示されます。
お使いになりたいセキュリティ対策ソフトのボタンをクリックするとインストールを開始します。

Norton Internet Security

■概要

パソコンをコンピュータウイルスから守るためのソフトウェアです。
「セキュリティソフト選択」で「ウイルスバスター」を選択された場合は、お使いになれません。

■使い方

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Norton Internet Security」→「Norton Internet Security」の順にクリックして起動します。
「Norton Internet Security」の画面で、「ヘルプとサポート」→「Norton Internet Security ヘルプ」の順にクリックします。
Norton Internet Security の初期設定方法については、「セキュリティ」－「ネットワーク接続時のセキュリティ」－「コンピュータウイルス対策」－「「Norton Internet Security」を使う」（→ P.130）をご覧ください。

5

ウイルスバスター

■概要

パソコンをコンピュータウイルスから守るためのソフトウェアです。
「セキュリティソフト選択」で「Norton Internet Security」を選択された場合は、お使いになれません。

■使い方

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ウイルスバスター 2007」→「ウイルスバスターを起動」の順にクリックして起動します。
使い方は、「ウイルスバスター」の画面で、「ヘルプとサポート」→「ヘルプ」の順にクリックします。
ウイルスバスターのパーソナルファイアウォール機能の設定方法については、「セキュリティ」－「ネットワーク接続時のセキュリティ」－「コンピュータウイルス対策」－「「ウイルスバスター」を使う」（→ P.131）をご覧ください。

@nifty でブロードバンド

■概要

インターネットプロバイダの @nifty（アット・ニフティ）への入会手続きや、ADSL や光接続などブロードバンドに対応した常時接続サービスの申し込み、およびインターネットへの接続やメールソフトの設定などを簡単に行うためのソフトウェアです。

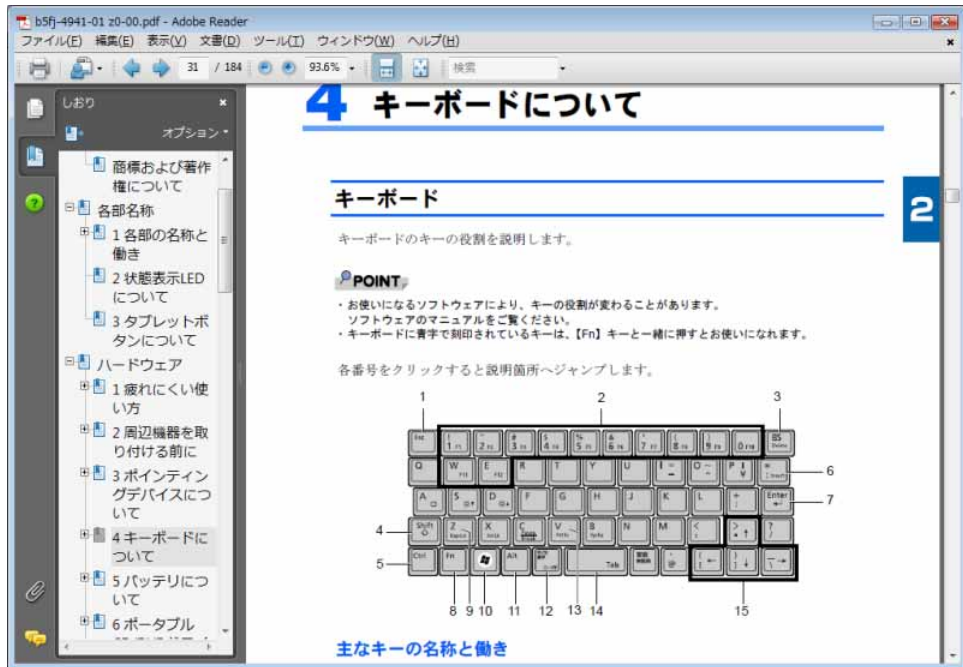
■使い方

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「@nifty でブロードバンド」→「@nifty でブロードバンド」の順にクリックして起動します。
使い方は、「@nifty でブロードバンド」のメインウィンドウで、「設定」→「ヘルプ」の順にクリックします。

Adobe Reader

■概要

PDF（Portable Document Format）ファイルを表示、閲覧、印刷できます。

■使い方

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Adobe Reader 8」の順にクリックして起動します。

「Adobe Reader」の画面で、「ヘルプ」メニュー→「Adobe Reader 8 ヘルプ」の順にクリックします。

AzbyClub ガジェット

■概要

インターネットに接続すると、「時事ニュース」「AzbyClub 新着情報」「新着 Q & A」などが表示されるガジェットです。

■使い方

「サイドバー」をデスクトップに表示させると「AzbyClub ガジェット」が表示されます。

FMV ユーザー登録

■概要

FMV シリーズのパソコンのユーザー登録を行うソフトウェアです。

■使い方

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「FMV ユーザー登録」→「FMV ユーザー登録」の順にクリックして起動します。
ユーザー登録については、添付の冊子『サポート & サービスのご案内』をご覧ください。

FM かんたんインストール

■概要

添付の「アプリケーションディスク 1」または「アプリケーションディスク 2」に収録されているソフトウェアをパソコンにインストールしたり、パソコンから削除（アンインストール）したりできます。
必要なソフトウェアをクリックするだけで、簡単にインストールできます。

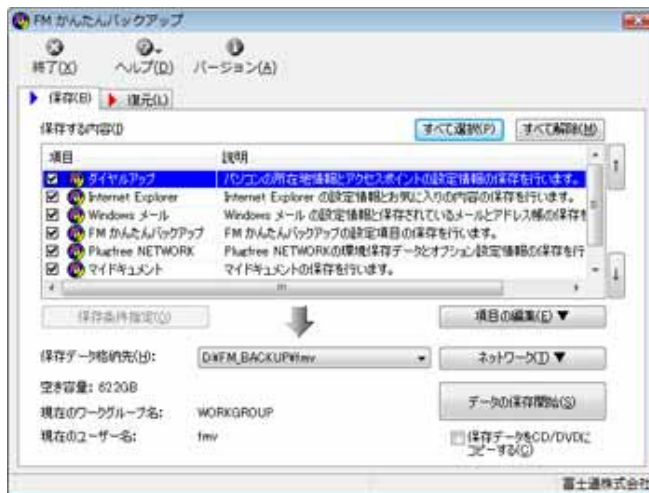
■使い方

ディスクをセットして起動します。
「FM かんたんインストール」の画面で、「ヘルプ」をクリックします。

FM かんたんバックアップ

■概要

いざというときに備えて、大切なデータやインターネットに関する設定をバックアップ（保存）するためのソフトウェアです。バックアップをとってあれば、データやインターネットに関する設定を、簡単に元に戻すことができます。

■使い方

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「FM かんたんバックアップ」→「FM かんたんバックアップ」の順にクリックして起動します。
「FM かんたんバックアップ」の画面で、「ヘルプ」をクリックします。

Fujitsu Display Manager

■概要

パソコンを自分の好きな画面設定に切り替えて使えるソフトウェアです。外部ディスプレイコネクタに接続したディスプレイの表示切り替えや、目的にあわせた表示設定の選択が簡単にできます。

■使い方

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Fujitsu Display Manager」→「Fujitsu Display Manager」の順にクリックして起動します。
使い方は、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Fujitsu Display Manager」→「ヘルプ」の順にクリックします。

IndicatorUtility

■概要

音声ボリューム、内蔵ポインティングデバイスの状態変更が行われた場合に、パソコンの画面上にインジケータを表示するユーティリティです。
この機能を利用すると、携帯時に画面の明るさを自動的に暗くすることにより、バッテリ節約に役立てることができます。

5

i- フィルター

■概要

インターネット上の有害なコンテンツをブロックするソフトウェアです。

重要

・「i- フィルター」の利用期間は、初回起動時から 30 日間です。利用期間が経過すると、フィルター機能は利用できなくなります。継続して利用する場合は、オンラインにてユーザー登録、シリアル ID の購入が必要です。

■使い方

初めてお使いになるときに、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「i- フィルター 4」→「i- フィルター 4」の順にクリックするとセットアップを開始します。
セットアップ終了後「i- フィルター4」が起動しているときは、画面右下の通知領域に (i- フィルターのアイコン)が表示されます。
画面右下の通知領域に (i- フィルターのアイコン)が表示されていないときは、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「i- フィルター 4」→「i- フィルター 4」の順にクリックすると起動します。
使い方は「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「i- フィルター 4」→「i- フィルター 4 ヘルプ」の順にクリックします。

OmniPass

■概要
指紋認証を使うための設定を行います。新たなユーザーを登録したり、指紋認証でユーザーを切替えたり、ホームページのログオンに必要な ID、パスワードなどを入力したりできます。

■使い方
操作方法については『取扱説明書』をご覧ください。

PC 乗換ガイド

■概要
今までお使いになっていたパソコンから現在お使いのパソコンへ、必要なデータを移行するお手伝いをするガイドです。

■使い方
「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「PC 乗換ガイド」→「PC 乗換ガイド」の順にクリックして使います。
使い方は、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「PC 乗換ガイド」→「ヘルプ」の順にクリックします。

PowerUtility - スケジュール機能

■概要
タイマーでパソコンの電源のオフやソフトウェアの起動をするためのソフトウェアです。

■使い方
「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「PowerUtility」→「スケジュール」→「PowerUtility- スケジュール機能」の順にクリックして起動します。
使い方は、「PowerUtility - スケジュール機能」の画面で、「ヘルプ」をクリックしてご覧ください。

PowerUtility - リモート管理機能

■概要

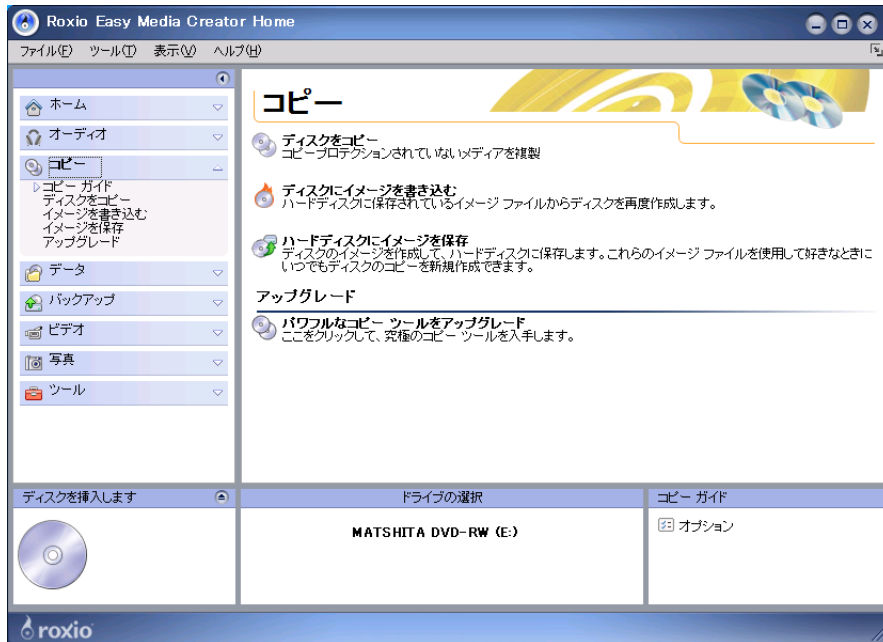
ネットワークでつながった別のパソコンをリモート管理するためのソフトウェアです。

■使い方

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「PowerUtility」→「リモート」→「PowerUtility-リモート管理機能」の順にクリックして起動します。
使い方は、「PowerUtility - リモート管理機能」の画面で、「ヘルプ」をクリックしてご覧ください。

Roxio Easy Media Creator

音楽 CD やデータ CD、DVD を簡単に作成できるソフトウェアです。

■使い方

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Roxio」→「Easy Media Creator Home」→「Home」の順にクリックして起動します。
使い方は、「Easy Media Creator」の画面で、「ヘルプ」メニュー→「ヘルプ」の順にクリックしてご覧ください。

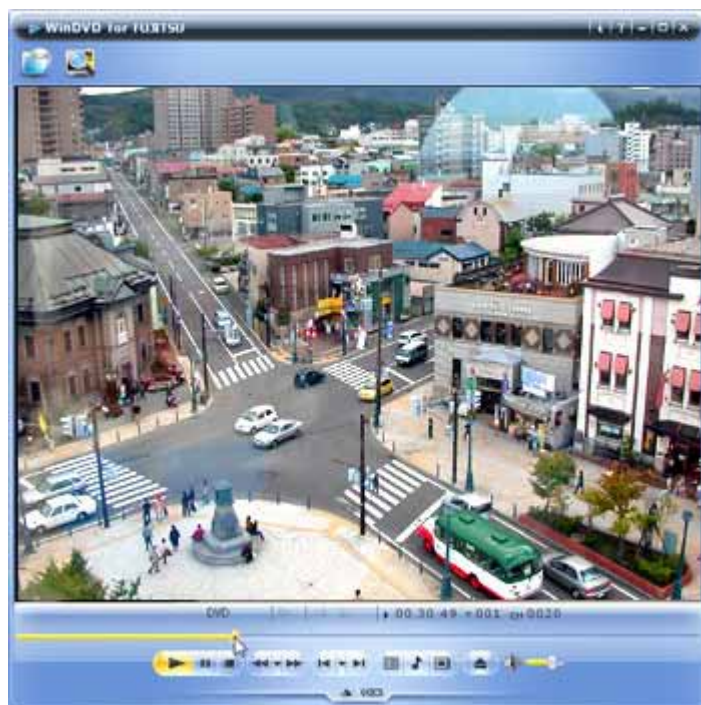
POINT

・液晶ディスプレイは、横向きでお使いください。

WinDVD

■概要

映画や音楽などの DVD を再生するソフトウェアです。パソコンで映画や音楽を楽しめます。

■使い方

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「InterVideo WinDVD」→「InterVideo WinDVD for FUJITSU」の順にクリックして起動します。
使い方は、「WinDVD」の画面で、「ヘルプ」をクリックしてご覧ください。

アップデートナビ

■概要

インターネットを経由して、富士通が推奨する最新情報を確認し、お使いのパソコンが安定して動作するお勧めの状態にすることができます。画面に表示されるメッセージに従って操作すると、簡単にアップデート（更新）できます。
「アップデートナビ」が起動しているときは、画面右下の通知領域に（アップデートナビ）が表示されます。

■使い方

「セキュリティ」－「ネットワーク接続時のセキュリティ」－「Windows やソフトウェアのアップデート」（→ P.132）をご覧ください。

5

インターネット移行アシスタント

■概要

使用中のパソコンに設定されている、インターネットやメールに関する情報を、別のパソコンに移行するためのツールです。

■使い方

「アプリケーションディスク 1」をセットした後、次の操作を行ってください。

- 設定保存ツール
  デスクトップの（コンピュータ）→（FUJITSU）→「Settool」→「SaveTool」の順にクリックして起動します。
  使い方は、「設定保存ツール」の画面で「ヘルプ」をクリックします。
- 設定移行ツール
  デスクトップの（コンピュータ）→（FUJITSU）→「Settool」→「SetTool」の順にクリックして起動します。
  使い方は、「設定移行ツール」の画面で「ヘルプ」をクリックします。

省電力ユーティリティ

■概要

お使いの状況に合わせて、省電力モードの設定を変更することができるソフトウェアです。

■使い方

「機能」－「省電力」－「省電力モードの設定」（→ P.124）をご覧ください。

スーパー統合辞書／学研総合百科辞典

■概要

わからない用語を直接入力して調べたり、ジャンル別、図や写真、熟語などを調べることができる、日本語、英語、現代用語から百科辞典まで、14 種類の辞書を搭載しています。

■使い方

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「CDView」→「CDView」の順にクリックすると辞書の一覧が表示されます。
お使いになりたい辞書をクリックして「OK」をクリックすると起動します。
使い方はお使いになりたい辞書の画面で「ヘルプ」をクリックします。

乗換案内 VER.5

■概要

出発地から目的地までの経路・運賃・時間を調べるソフトウェアです。

■使い方

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「乗換案内」→「乗換案内マニュアル（PDF）」の順にクリックします。
ソフトウェア起動中は、「乗換案内 VER.5」の画面で、メニューバーの「ヘルプ」→「目次」の順にクリックします。

ハードディスクデータ消去

■概要

ハードディスク内のデータを消去します。詳しくは「セキュリティ」－「パソコン本体廃棄時のセキュリティ」－「パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意」（→ P.138）をご覧ください。

■注意事項

「ハードディスクデータ消去」を実行する前に、次の点にご注意ください。

- 必要なデータはバックアップしてください。
- データ消去終了まで、数時間かかります。
- 途中で電源を切らないでください。ハードディスクが壊れる可能性があります。
- 周辺機器は取り外してください。
- ご購入時に取り付けられている内蔵ハードディスクのみ消去できます。

■データ消去手順

次の手順に従って、「ハードディスクデータ消去」を実行します。

1 パソコンの電源が入っていたら、電源を切ります。

2 キーボードの【Fn】キーと【E】キーの位置を確認し、押せるように準備しておきます。

3 パソコンの電源を入れ、FUJITSU のロゴ画面が表示されたら、すぐに【Fn】キーを押しながら【E】キーを押します。

軽く押しただけでは認識されない場合があります。画面が変わるまで何度も押してください。

重要

FUJITSU ロゴ画面が表示されないときは

（スタート）→ の →「再起動」の順にクリックし、パソコンを再起動して FUJITSU ロゴ画面を表示させてください。

4 表示されたメニューで【Fn】キーを押しながら【↓】キーを押して「< トラブル解決ナビ >」を選択し、【Enter】キーを押します。

5 「システム回復オプション」ウィンドウで「日本語」を選択し、「次へ」をクリックします。

6 「Microsoft Windows Vista」が選択されていることを確認し、「次へ」をクリックします。

7 **お使いのパソコンで設定しているユーザー名を選択し、「OK」をクリックします。**

パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してから「OK」をクリックしてください。

8 **「回復ツールを選択してください」と表示されたら、「トラブル解決ナビ」をクリックします。**

9 **「ユーティリティ」タブをクリックして「ハードディスクデータ消去」をクリックし、「実行」をクリックします。**

「ハードディスクデータ消去」の画面が表示されます。

10 **内容をよくお読みになり、同意していただいた場合は、「同意します」をクリックして◉にし、「次へ」をクリックします。**

消去するハードディスクを選ぶ画面が表示されます。

11 **データを消去したいハードディスクをクリックして☑にし、「次へ」をクリックします。**

データを消去する方式を選ぶ画面が表示されます。

12 **「固定データ書き込み」または「DoD［ディーオーディ］標準（米国国防総省規格)」のどちらかを選んで◉にし、「次へ」をクリックします。**

エラーが発生したときの処理を選ぶ画面が表示されます。

13 **内容をよくお読みになり、「ハードディスクのエラーを検出した時点で処理を中断します【推奨】」または「エラーを検出した際、その部分をスキップして処理を継続します」のどちらかをクリックして◉にし、「次へ」をクリックします。**

ハードディスクの情報と、データ消去中の注意事項が表示されます。

14 **内容をよくお読みになり、データの消去を実行してもよい場合は、「開始」をクリックします。**

確認のウィンドウが表示されます。

15 **「OK」をクリックします。**

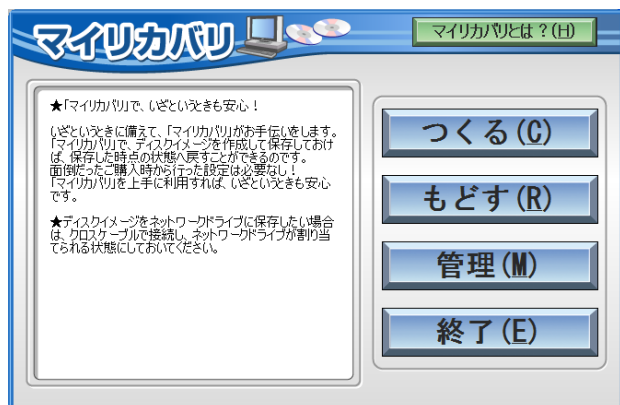
データ消去が始まります。消去には、数時間かかります。

16 **「電源（パソコン電源）ボタンを４秒以上押し続けて電源を切ってください。」と表示されたら、電源スイッチを 4 秒以上スライドさせ続けて、パソコンの電源を切ります。**

マイリカバリ

■概要

現在の C ドライブのディスクイメージを保存できます。
Windows などのシステムが不安定になった場合でも、今まで使っていた設定や環境にすぐに復元することができます。

■使い方

操作方法については『取扱説明書』をご覧ください。

メールソフト切り替えツール

■概要

通常使うメールソフトの起動設定を、簡単に切り替えることができます。メールソフトは、ご購入時にインストールされている「Windows メール」、「Outlook 2007」(「Office Personal 2007」を選択した場合に搭載)から選ぶことができます。

■使い方

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「メールソフト切り替えツール」→「メールソフト切り替えツール」の順にクリックして起動します。

ゆったり設定 2

■概要

パソコンの画面上のアイコンやホームページの文字が小さくて見にくかったり、マウスやキーボードの操作が難しかったりしてお困りの場合に、より使いやすい設定に簡単に変更できます。

■使い方

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ゆったり設定２」→「ゆったり設定２」の順にクリックして起動します。

Office Personal 2007

■概要

・Word 2007

文字の入力から編集、印刷、保存まで、簡単な操作で文書を作成できる日本語ワープロです。

・Excel 2007

ワークシートと呼ばれる集計用紙にデータを入力して表を作成し、集計、並べ替えなどを行うソフトウェアです。入力したデータを利用してグラフを作成することもできます。

・Outlook 2007

メールの送受信の他、予定表や連絡先、仕事など個人の情報をまとめて管理するソフトウェアです。

■使い方

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Microsoft Office」の順にクリックしていくと、表示されるそれぞれのソフトウェア名をクリックして起動します。

使い方は、それぞれの画面で、「ヘルプ」メニューからヘルプをクリックしてご覧ください。

アンインストール方法

注意事項

ソフトウェアをアンインストールする場合は、次の点に注意してください。

・「管理者」のユーザーアカウントでログオンしてください。
・ソフトウェアをすべて終了してからアンインストールを始める
・DLL ファイルは削除しない
　アンインストール時に次のようなメッセージが表示されることがあります。
　「この DLL は複数のソフトウェアで使用されている可能性があります。削除を行いますか」
　この DLL ファイルを削除すると、他のソフトウェアが正常に動作しなくなることがあります。ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルで、特に指示がない場合は DLL ファイルは削除しないことをお勧めします。

アンインストール方法

一般的に、次の方法があります。

・アンインストール機能を使用する
　ソフトウェアにアンインストール機能が用意されている場合があります。
・「プログラムのアンインストールまたは変更」機能を使用する
　「コントロールパネル」ウィンドウ－「プログラム」－「プログラムと機能」－「プログラムのアンインストールまたは変更」機能を使用して、ソフトウェアを削除できます。

アンインストール方法はソフトウェアによって異なります。詳細は各ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。

第 6 章

BIOS

BIOS セットアップというプログラムについて説明しています。
また、本パソコンのデータを守るためにパスワードを設定する
方法についても説明しています。

1 BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、本パソコンの環境を設定するためのプログラムです。本パソコンご購入時は、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。通常の使用状態では、BIOS セットアップで環境を設定（変更）する必要はありません。

BIOS セットアップの設定は、次の場合などに行います。

- 特定の人だけが本パソコンを使用できるように、パスワード（暗証番号）を設定するとき
- 起動時の自己診断（POST）で BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されたとき

重要

- BIOS セットアップの設定項目の詳細については、BIOS セットアップ画面（→ P.164）の「項目ヘルプ」をご覧ください。

POINT

- BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM と呼ばれるメモリに記憶されます。この CMOS RAM は、バックアップ用バッテリによって記憶した内容を保存しています。BIOS セットアップを正しく設定しても、パソコン本体の起動時に「システム CMOS のチェックサムが正しくありません。標準設定値が設定されました。」というメッセージが表示される場合は、バックアップ用バッテリが消耗して、CMOS RAM に設定内容が保存されていないことが考えられますので、「富士通パーソナルエコーセンター」にご連絡ください。
- 起動時の自己診断中は不用意に電源を切らないでください。
  本パソコンは、自己診断中の異常終了の回数を数えており、3 回続いた場合は 4 回目の起動時に「前回の起動が正常に完了しませんでした。」というメッセージを表示します。
- 起動時の自己診断（POST）
  本パソコンの電源を入れたときや再起動したときに、ハードウェアの動作に異常がないかどうか、どのような周辺機器が接続されているかなどを自動的に調べます。これを「起動時の自己診断」（POST: Power On Self Test）といいます。

BIOS セットアップの操作のしかた

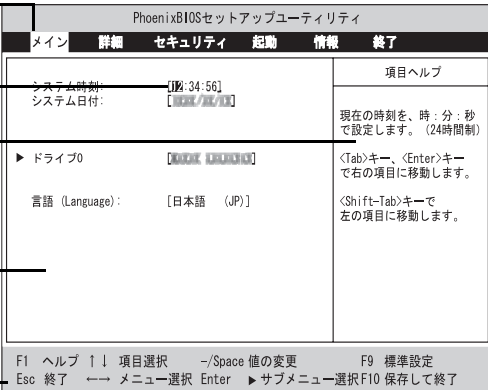
BIOS セットアップを起動する

BIOS セットアップでは、すべての操作をキーボードで行います。

1 作業を終了してデータを保存します。

2 状態表示 LED のディスクアクセスランプが点灯していないことを確認し、本パソコンを再起動します。

3 「FUJITSU」ロゴが表示され、画面の下に「マウスをクリックするか、＜Enter ＞を押してください。」と表示されたらすぐに、【Enter】キーを押します。

ポップアップメニューが表示されます。

・BIOS セットアップの画面ではなく Windows が起動してしまった場合は、起動が完了するのを待って、もう一度手順 2 からやり直してください。

4 【Fn】キーを押しながら【↓】キーまたは【↑】キーを押して「BIOS セットアップ」を選択し、もう一度【Enter】キーを押します。

BIOS セットアップの操作のしかたが表示されます。
BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。

メニューバー
メニューの名称が表示されます。

カーソル
設定する項目に合わせます。

項目ヘルプ
カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。

設定フィールド
各メニューで設定する項目名と設定値が表示されます。

キー一覧
設定時に使うキーの一覧です。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ
メイン　詳細　セキュリティ　起動　情報　終了
システム時刻：[12:34:56]
システム日付：
▶ ドライブ0
言語（Language）：[日本語　(JP)]
項目ヘルプ
現在の時刻を、時：分：秒で設定します。（24時間制）
<Tab>キー、<Enter>キーで右の項目に移動します。
<Shift-Tab>キーで左の項目に移動します。
F1　ヘルプ　↑↓　項目選択　－/Space 値の変更　F9　標準設定
Esc　終了　←→　メニュー選択　Enter　▶サブメニュー選択 F10 保存して終了

（画面は機種やモデルにより異なります）

・手順 4 で「起動メニュー」を選択すると、「起動メニュー」が表示され、起動するドライブを選択することができます。

・手順 4 で「診断プログラム」を選択すると、「診断プログラム」が起動します。お問い合わせのときに、担当者の指示に従ってご使用ください。

設定を変更する

ここでは一般的な操作方法を説明します。

1 **【Fn】キーを押しながら【←】キーまたは【→】キーでカーソルを移動し、設定したいメニューを選びます。**

選択したメニュー画面が表示されます。

2 **【Fn】キーを押しながら【↓】キーまたは【↑】キーでカーソルを移動し、設定したい項目を選びます。**

3 **【Space】キーまたは【Fn】キーを押しながら【−】キーを押して、選択している項目の設定値を変更します。**

続けて他の設定項目を変更する場合は、手順 1 〜 3 を繰り返してください。

4 **設定を保存して終了します。**

終了の手順については、「BIOS セットアップを終了する」（→ P.167）をご覧ください。

重要

BIOS セットアップは正確に設定してください。

設定を間違えると、本パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなることがあります。

このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻して本パソコンを起動し直してください。

POINT

- 設定内容を変更前の値に戻す方法は、「終了メニュー」（→ P.173）をご覧ください。
- 設定内容をご購入時の設定値に戻す方法は、「ご購入時の設定に戻す」（→『取扱説明書』）をご覧ください。
- 項目名に「 ▶ 」が付いている項目にはサブメニューがあります。
  項目名にカーソルを移動して【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。元のメニュー画面に戻るときは【Esc】キーを押します。

各キーの役割

設定時に使用するキーの役割は、次のとおりです。

キー	役割
【↑】キー、【↓】キー	【Fn】キーと同時に押すことで、設定する項目にカーソルを移動します。
【←】キー、【→】キー	【Fn】キーと同時に押すことで、メニューを切り替えます。
【Enter】キー	▶印が付いた項目のサブメニュー画面を表示します。また、「終了」メニューなどでは、各項目の処理を行います。 設定する項目で押すと、設定値が一覧で表示されます。
【Fn】＋【F1】キー	一般ヘルプ画面を表示します。同じキーを再度押すか、【Esc】キーを押せば閉じます。
【Alt】＋【H】キー	
【Fn】＋【F5】キー	各項目の設定を 1 つ前の設定値に変更します。
【Fn】＋【−】キー	
【Fn】＋【F6】キー	各項目の設定を次の設定値に変更します。
【Space】キー	
【Fn】＋【F9】キー	標準設定値を読み込みます。
【Fn】＋【F10】キー	現在の設定値を保存して、BIOS セットアップを終了します。
【X】キー	「起動デバイスの優先順位」の画面で、起動デバイスリストから起動デバイスを除外または追加する場合に使用します。
【Esc】キー	「終了」メニューを表示します。また、サブメニュー画面でこれらのキーを押すと、1 つ上のメニュー画面に戻ります。
【Alt】＋【X】キー	

POINT

・ここでいう【−】キーは のことです。

BIOS セットアップを終了する

変更した設定を有効にするためには、設定内容を CMOS RAM に保存しておく必要があります。以下の操作を行い、設定内容を保存してから BIOS セットアップを終了してください。

1 **【Esc】キーを押します。**

「終了」メニューが表示されます。

2 **【Fn】キーを押しながら【↑】キーまたは【↓】キーを押して「変更を保存して終了する」を選択し、【Enter】キーを押します。**

次のメッセージが表示されます。

セットアップ確認
変更した内容を保存して終了しますか？ [はい]　　　[いいえ]

3 **【Fn】キーを押しながら【←】キーまたは【→】キーで「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。**

すべての設定値が保存された後、BIOS セットアップが終了し、本パソコンが再起動します。

POINT

- サブメニューを表示している場合は、「終了」メニューが表示されるまで、【Esc】キーを 2 ～ 3 回押してください。
- 設定を変更しないで終了する場合は、「終了」メニューで「変更を保存せずに終了する」を選択して終了してください（→ P.173）。
- いったん設定内容を保存したあと、続けて他の項目を設定する場合は、「終了」メニューで「変更を保存する」を選択してください（→ P.173）。
  1. 「終了」メニューの「変更を保存する」を選択し、【Enter】キーを押します。
     「変更した内容を保存しますか ?」というメッセージが表示されます。
  2. 【Fn】キーを押しながら【←】キーまたは【→】キーで「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。

6

3 メニュー詳細

重要

・BIOS セットアップの仕様は、改善のためにことがあります。あらかじめご了承ください。

メインメニュー

「メイン」メニューでは、日時の設定と、ドライブやメモリの機能などの設定を行います。

■システム時刻

■システム日付

■ドライブ 0

POINT

・「終了」メニューの「標準設定値を読み込む」（→ P.173）を実行した直後は、「ドライブ 0」の項目の自動設定が行われていません。BIOS セットアップを再起動すると、各項目が自動設定されます。

・タイプ

POINT

・通常は「自動」に設定してください。

- LBA フォーマット

・合計セクタ
・最大容量
・マルチセクタ転送
・LBA モード制御
・転送モード
・Ultra DMA モード

POINT

・「シリンダ数」、「ヘッド数」、「セクタ数」は、「タイプ」が「自動」で、8.4GB 以下のハードディスクと認識されている場合のみ表示されます。
・「合計セクタ」、「最大容量」は、「タイプ」が「自動」で、ハードディスクと認識されている場合のみ表示されます。
・「タイプ」以外の項目は、表示のみで設定できません。

■言語（Language）

POINT

・設定と同時に画面表示が切り替わり、次に設定を変更するまで同じ言語で表示されます。

詳細メニュー

「詳細」メニューでは、周辺機器の設定などを行います。

■キーボード／マウス設定

・起動時の Numlock 設定

■ディスプレイ設定

POINT

・本パソコンの起動後は、キーボード操作や「画面のプロパティ」ウィンドウで画面表示を切り替えることができます。詳しくは、「機能」－「表示装置の切り替え」（→ P.88）をご覧ください。

・ディスプレイ
・全体表示

■その他の内蔵デバイス設定

・IDE コントローラ
・内蔵 LAN デバイス
・無線 LAN デバイス
・UMTS デバイス
・ワンセグチューナ

POINT

・お使いのモデルにより、「無線 LAN デバイス」、「UMTS デバイス」、「ワンセグチューナ」は表示されません。
・「UMTS デバイス」は FOMA HIGH-SPEED に接続可能な無線 WAN の設定を行います。

■CPU 設定

・SpeedStep（R）テクノロジ
　- バッテリ運用時
　- AC 運用時
・XD ビット機能

■USB 設定

・レガシー USB サポート
　- SCSI サブクラスサポート

POINT

・「SCSI サブクラスサポート」を使用して、パソコンが起動しなくなった場合は、USB デバイスを取り外して再起動してください。

6

■各種設定

・電源ボタン
・LAN によるウェイクアップ
　- 強制 LAN ブート
・音量設定
・ハードウェア省電力機能
・タッチパネル設定

■イベントログ設定

・イベントログ領域の状態
・イベントログ内容の状態
・イベントログの表示

POINT

・イベントログメッセージで、「POST エラー：nnnnnnnn nnnnnnnn」というメッセージが表示された場合は、「富士通パーソナルエコーセンター」にご連絡ください。それ以外のメッセージは、本パソコンの使用には特に問題のないメッセージです。

・イベントログ
　- システム起動
・イベントログの消去
・イベントログのマーク

セキュリティメニュー

「セキュリティ」メニューでは、本パソコンを特定の人だけが使用できるよう設定を行います。

■管理者用パスワード

■ユーザー用パスワード

■管理者用パスワード設定

POINT

・次の項目は、管理者用パスワードが設定されている場合に設定できます。
　・ユーザー用パスワード設定
　・ユーザー用パスワード文字数
　・起動時のパスワード
　　・自動ウェイクアップ時
　・レジューム時のキーボードロック
　・取外し可能なディスクからの起動
　・BIOS フラッシュメモリへの書き込み
　・ハードディスクセキュリティ
　・所有者情報

■ユーザー用パスワード設定

POINT

・管理者用パスワードとユーザー用パスワードの両方が設定されている状態で、ユーザー用パスワードで BIOS セットアップに入ると、設定値がグレーで表示される項目があります。グレー表示される項目は、ユーザー用パスワードでは変更できません。

■ユーザー用パスワード文字数

POINT

・本項目はユーザー用パスワードで BIOS セットアップに入った場合のみ有効です。管理者用のパスワードで BIOS セットアップに入った場合は、最低文字数より少ない文字をユーザー用パスワードとして設定することができます。

■起動時のパスワード

・自動ウェイクアップ時

■レジューム時のキーボードロック

POINT

・USB 規格の周辺機器は「レジューム時のキーボードロック」によるセキュリティの対象外になります。そのため、USB マウスなどの USB 機器はパスワードを入力しなくても使用できます。

■取外し可能なディスクからの起動

■BIOS フラッシュメモリへの書き込み

■ハードディスクセキュリティ

重要

・本パソコンでセキュリティを設定したハードディスクは、他のパソコンに接続しても使用できません。他のパソコンに接続して使用する場合は、本パソコンで設定したハードディスクセキュリティのパスワードの設定が必要になります。

・ドライブ 0 用パスワード
・ドライブ 0 用パスワード設定
・起動時のパスワード入力

POINT

・ハードディスクパスワード設定後、パスワード入力を求めるウィンドウを表示させたくない場合には、「使用しない」に設定してください。

■所有者情報

POINT

・管理者用パスワードが設定されていない場合は、「所有者情報」の各項目は表示されますが、選択できません。

・所有者情報
・所有者情報設定
・文字色
・背景色

起動メニュー

「起動」メニューでは、本パソコンの起動時の動作についての設定を行います。

■高速起動

■起動時の自己診断画面

■起動メニュー

POINT

・管理者用パスワードが設定されている場合に設定できます。

■ネットワークサーバからの起動

■起動デバイスの優先順位

・起動デバイスリスト

1：Floppy Disk Drive
2：Drive0：nnnnn
3：CD/DVD Drive
4：NETWORK：nnnnn
5：
6：
7：
8：

・除外された起動デバイス

：USB MEMORY：None
：USB HDD：None

POINT

・起動デバイスリスト内の nnnnn には、お使いのデバイス名が表示されます。
・利用可能な起動デバイスが、起動時の検索順序の高い順に表示されます。検索順序を変更したり、起動デバイスリストから除外したりすることができます。また、除外された起動デバイスを起動デバイスリストに戻すこともできます。
・「1：Floppy Disk Drive」はポータブルの FDD ユニット（USB）も含まれます。
・「3：CD/DVD Drive」はポータブル CD/DVD ドライブ（USB）も含まれます。

・「ネットワークサーバからの起動」が「使用する」に設定されている場合、「4：NETWORK：nnnnn」と表示され起動デバイスとして検索されます。「使用しない」に設定されている場合は、「4：NETWORK：None」と表示され検索の対象外になります。
・CD から起動するには起動可能な OS の入った CD が必要となります。再起動前に CD をセットしてください。

情報メニュー

「情報」メニューには、BIOS セットアップやパソコン本体についての情報が表示されます。設定を変更することはできません。

■BIOS 版数

■BIOS 日付

■BIOS 領域

■CPU タイプ

■CPU 速度

■L1 キャッシュ

■L2 キャッシュ

■全メモリ容量

・標準メモリ

終了メニュー

「終了」メニューでは、設定値の保存や読み込み、BIOS セットアップの終了などを行います。

■変更を保存して終了する

設定した内容を CMOS RAM に保存して BIOS セットアップを終了します。

■変更を保存せずに終了する

設定した内容を CMOS RAM に保存しないで BIOS セットアップを終了します。

■標準設定値を読み込む

すべての項目を標準設定値にします。

■変更前の値を読み込む

すべての項目について、CMOS RAM から変更前の値を読み込み、変更を取り消します。

■変更を保存する

変更した内容を CMOS RAM に保存します。

6

■変更を保存して電源を切る

変更した内容を CMOS RAM に保存して電源を切ります。

4 BIOS のパスワード機能を使う

ここでは、本パソコンのデータを守るためのパスワード機能について説明します。

本パソコンは、他人による不正使用を防止するために、パスワードを設定することができます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外は本パソコンを使用できなくなります。

パスワードの種類

設定できるパスワードは次のとおりです。

- 管理者用パスワード
  本パソコンをご購入になった方などが使用するパスワードです。パスワード機能を使用するときは必ず設定してください。
- ユーザー用パスワード
  「管理者」以外で本パソコンをお使いになる方が使用するパスワードです。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。
- ハードディスク用パスワード
  本パソコンのハードディスクを他のユーザーや他のパソコンで使用できないようにするためのパスワードです。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。

6

パスワードを設定する

パスワードの設定は、BIOS セットアップで行います。パスワードの設定方法は、次のとおりです。

管理者用パスワード／ユーザー用パスワードを設定する

1 BIOS セットアップを起動します。

起動の手順については、「BIOS セットアップを起動する」（→ P.163）をご覧ください。

2 「セキュリティ」メニューで「管理者用パスワード設定」（→ P.170）、または「ユーザー用パスワード設定」（→ P.171）を選択して【Enter】キーを押します。

パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

3 8 桁までのパスワードを入力します。

入力できる文字種はアルファベットと数字です。
入力した文字は表示されず、代わりに「■」が表示されます。
また、ユーザー用のパスワードの最低文字数は、「ユーザー用パスワード文字数」（→ P.171）で設定することができます。

4 パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。

「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。

5 手順 3 で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。

「セットアップ通知」と書かれたウィンドウが表示されます。

6 【Enter】キーを押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順 3 からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

ハードディスク用パスワードを設定する

1 BIOS セットアップを起動します。

起動の手順については、「BIOS セットアップを起動する」（→ P.163）をご覧ください。

2 「セキュリティ」メニューで「ハードディスクセキュリティ」（→P.171）→「ドライブ0用パスワード設定」（→P.171）を選択して【Enter】キーを押します。

パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

3 8 桁までのパスワードを入力します。

入力できる文字種はアルファベットと数字です。
入力した文字は表示されず、代わりに「■」が表示されます。

4 パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。

「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。

5 手順 3 で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。

「セットアップ通知」と書かれたウィンドウが表示されます。

6 【Enter】キーを押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順 3 からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

パスワードを設定した後は

パスワードを設定すると、設定状態によって次の場合にパスワードの入力が必要になります。

・BIOS セットアップを起動するとき
・パソコンを起動するとき
・休止状態からレジュームするとき
・スリープからレジュームするとき

POINT

・管理者用パスワードまたはユーザー用パスワードとハードディスク用パスワードが異なる場合は、それぞれのパスワードの入力が必要になります。

BIOS セットアップやパソコンの起動時、休止状態からのレジューム時のパスワード入力

パスワードの入力を求めるウィンドウが表示されたら、パスワードを入力し、【Enter】キーを押してください。

POINT

・誤ったパスワードを3回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードやマウスが一切反応しなくなるので、電源スイッチを4秒以上スライドして本パソコンの電源をいったん切ってください。その後、10秒以上待ってからもう一度電源を入れて、正しいパスワードを入力してください。
・「PowerUtility-リモート管理機能」では、パソコンを指定時刻に自動的に起動させたり、LANを使って起動させたりできます。BIOSセットアップの「セキュリティ」メニューにある「自動ウェイクアップ時」で、これらの機能を使って起動した場合にパスワードを入力するかどうかを設定することができます。

レジューム時のパスワード入力

パスワードを入力する画面は表示されず、状態表示 LED の Caps Lock ランプと Num Lock ランプが交互に点滅します。この状態では、スティックポイントとパスワードを入力する以外のキーボード操作ができません。これらを使えるようにするには、本パソコンの起動時に入力したパスワードと同じパスワードを入力してください（【Enter】キーは不要です）。
ただし、USB マウスなどの USB 機器は、セキュリティの対象外になります。

POINT

・正しいパスワードを入力しない限り、キーボードやスティックポイントは使用できません。
・Windows の「電源オプションのプロパティ」ウィンドウで、スリープや休止状態からの回復時にパスワードを入力するように設定した場合は、スリープから回復するときに引き続きWindowsのパスワードの入力も必要です。

6

ハードディスク用パスワード

ハードディスク用パスワードを設定すると、パソコンを起動するときにハードディスク用パスワードの入力が必要になります。

POINT

・誤ったパスワードを3回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードやマウスが一切反応しなくなるので、電源スイッチを4秒以上スライドして本パソコンの電源をいったん切ってください。その後、10秒以上待ってからもう一度電源を入れて、正しいパスワードを入力してください。
・「ハードディスクセキュリティ」（→ P.171）でパスワードを設定したハードディスクは、他のパソコンに接続しても使用できません。他のパソコンに接続して使用する場合は、本パソコンで設定したハードディスク用パスワードの設定が必要となります。パスワードを忘れるとそのハードディスクは使用できなくなるので、ご注意ください。
・設定状態によっては、管理者用またはユーザー用パスワードと、ハードディスク用パスワードの入力が必要になります。
ただし、管理者用またはユーザー用パスワードと、ハードディスク用パスワードが同じ場合は、パスワードの入力は 1 回になります。

パスワードを変更／削除する

重要

・Windows を再起動して BIOS セットアップを起動したときには、ハードディスク用パスワードを変更／削除できません。
ハードディスク用パスワードを変更／削除する場合は、「終了メニュー」の「変更を保存して電源を切る」（→ P.174）を実行してください。次回起動時にハードディスク用パスワードを変更／削除することができます。

パスワードを変更する

設定したパスワードを変更するときは、次の操作を行ってください。

1 BIOS セットアップを起動します。

起動の手順については、「BIOS セットアップを起動する」（→ P.163）をご覧ください。

2 「セキュリティ」メニュー（→ P.170）で設定したいパスワードを選択して【Enter】キーを押します。

・管理者用パスワード設定
・ユーザー用パスワード設定
・ハードディスクセキュリティ→ドライブ 0 用パスワード設定

3 設定してあるパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。

「新しいパスワードを入力して下さい。」にカーソルが移ります。

4 8桁までの新しく設定したいパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。

「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。

重要

- 管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れると、パスワード機能が解除できなくなり、修理が必要となります。そのため、パスワードを設定したら、次のことを行ってください。
  - 解除する手順が書かれたこのページを印刷しておく
  - 設定したパスワードを忘れないよう、何かに書き留めておく

  また、これらは安全な場所に保管しておいてください。
  管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れてしまった場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元までご連絡ください。なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。
- ハードディスク用パスワードは、盗難などによる不正な使用を防止することを目的としています。これは強固なセキュリティであるため、もしもパスワードを忘れてしまうと、たとえ修理をしても、パスワードの解除や、ハードディスク内のプログラムやデータの復元ができず、これらのデータは完全に失われてしまいます。
  パスワードの管理には充分注意してください。

5 手順4で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。

「変更が保存されました。」というウィンドウが表示されます。

6 【Enter】キーを押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順4からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

POINT

- 誤ったパスワードを3回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードやマウスが一切反応しなくなるので、電源スイッチを4秒以上スライドして本パソコンの電源をいったん切ってください。その後、10秒以上待ってからもう一度電源を入れて、正しいパスワードを入力してください。

パスワードを削除する

設定したパスワードを削除するときは、「パスワードを変更する」の手順4～5で何も入力せずに、【Enter】キーを押してください。

POINT

- ユーザーがユーザー用パスワードを削除できるのは、ユーザー用パスワード文字数設定が0のときだけです。0以外のときは、パスワード文字数不足のメッセージが表示されます。

5 BIOS が表示するメッセージ一覧

メッセージが表示されたときは

エラーメッセージが表示された場合は、次の手順に従って処置をしてください。

1 BIOS セットアップを再実行します。

BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップの、各項目を正しい値に設定してください。
それでもメッセージが表示される場合には、BIOS セットアップの設定値をご購入時の設定に戻して起動し直してください（→『取扱説明書』）。

2 周辺機器を取り外します。

周辺機器を取り付けている場合には、すべての周辺機器を取り外し、パソコン本体をご購入時の状態にして動作を確認してください。
それでも同じメッセージが表示される場合には、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

3 取り外した周辺機器を、1 つずつ取り付けます。

取り外した周辺機器を 1 つずつ取り付けて起動し直し、動作を確認してください。
また、割り込み番号（IRQ）を使用する周辺機器を取り付けたときは、割り込み番号が正しく割り当てられるように、設定を確認してください。このとき、各周辺機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合にはそれらのマニュアルも、あわせてご覧ください。

上記の処理を実行しても、まだ同じメッセージが表示される場合は、本パソコンが故障している可能性があります。「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

メッセージ一覧

本パソコンは、自動的に故障を検出します。故障の検出は、通常自己診断（POST）（→ P.162）時に行われます。本パソコンが表示するメッセージの一覧は、次のとおりです。

POINT

・メッセージ中の「n」には数字が表示されます。

正常時のメッセージ

パソコン本体や周辺機器に問題がない正常時には、BIOS のメッセージは自動では表示されません。
正常時に BIOS のメッセージを表示させる場合は、パソコンを起動して「FUJITSU」ロゴが表示されている間に【Esc】キーを押します。

・**Please Wait... お待ちください ...**
　BIOS セットアップの起動中に表示されます。

・**nnnnM システムメモリテスト完了。**
　システムメモリのテストが、正常に完了したことを表示しています。

・**nnnnK メモリキャッシュテスト完了。**
　キャッシュメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。

・**マウスが初期化されました。**
　マウス機能が初期化され、スティックポイントが使えるようになったことを示しています。

6

POINT

・正常時のメッセージを常に表示させる場合は、「起動」メニューの「起動時の自己診断画面」（→ P.172）の項目を「使用する」に設定してください。

エラーメッセージ

- **拡張メモリエラー。アドレス行：nn**

  拡張メモリのテスト中に、アドレス nn でエラーが発見されたことを示しています。
  メモリを増設しているときは、メモリが正しく取り付けられているか、または弊社純正品かを確認してください。
  それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

- **キーボードエラーです。**

  キーボードテストで、エラーが発生したことを示しています。
  電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

- **キーボード接続エラーです。**

  キーボードテストで、接続エラーが発生したことを示しています。
  テンキーボードや外付けキーボードを接続しているときは、正しく接続されているかを確認し、もう一度電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

- **ディスクのエラーです。：ハードディスク n**

  ハードディスクドライブの設定に誤りがあることを示しています。
  BIOS セットアップを起動し、「メイン」メニューの「ドライブ n」の各項目が正しく設定されているか、確認してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

- **システムタイマーのエラーです。**

  システムタイマーのテストで、エラーが発生したことを示しています。
  電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

- **リアルタイムクロックのエラーです。**

  リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。
  電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

- **システム CMOS のチェックサムが正しくありません。- 標準設定値が設定されました。**

  CMOS RAM のテストでエラーが発見されたため、いったん標準設定値が設定されたことを示しています。
  【Fn】＋【F2】キーを押して BIOS セットアップを起動し、標準設定値を読み込んだあと、設定を保存して起動し直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

- **前回の起動が正常に完了しませんでした。- 標準設定値が設定されました。**

  前回の起動時に正しく起動されなかったため、一部の設定項目が標準設定値で設定されたことを示しています。
  起動途中に電源を切ってしまったり、または BIOS セットアップで誤った値を設定して起動できなかったとき、3 回以上同じ操作で起動し直したときに表示されます。そのまま起動する場合は【Fn】＋【F1】キーを押してください。BIOS セットアップを起動して設定を確認する場合は【Fn】＋【F2】キーを押してください。

- **＜ F1 ＞キーを押すと継続、＜ F2 ＞キーを押すと BIOS セットアップを起動します。**

  起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OS を起動する前に本メッセージが表示されます。【Fn】＋【F1】キーを押すと発生しているエラーを無視して OS の起動を開始し、【Fn】＋【F2】キーを押すと BIOS セットアップを起動して設定を変更することができます。

- **日付と時刻の設定を確認してください。**

  日付と時刻の設定値が正しくありません。
  設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。

- **NVRAM データが正しくありません。**

  NVRAM データのテストでエラーが発見されたことを示しています。
  「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

- **セキュリティボタン異常**

  電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

- **サーマルセンサエラー。システムの電源が切れます。**

  温度制御系の設定が正しく行えなかったことを示しています。
  電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

- **ファンエラー。システムの電源が切れます。**

  冷却用ファンのテストでエラーが発生したことを示しています。
  「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

- **前回の起動中にサーマルセンサエラーが発生しました。**

  前回の起動時にサーマルセンサエラーが発生したことを示しています。
  「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

- **前回の起動中にファンエラーが発生しました。**

  前回の起動時にファンエラーが発生したことを示しています。
  「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

- Invalid system disk
  Replace the disk, and then press any key

  フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
  フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。

- Non-System disk or disk error
  Replace and press any key when ready

  フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
  フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。

- NTLDR is missing
  Press any key to restart

  フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
  フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。

- Remove disks or other media.
  Press any key to restart

  フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
  フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。

- Operating system not found

  OS が見つからなかったことを示しています。
  BIOS セットアップの「起動」メニューの設定が正しいか、指定したドライブに OS が正しくインストールされているかを確認してください。

・ PXE-E61:Media test failure, Check cable

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。LAN ケーブルが正しく接続されていません。LAN ケーブルを正しく接続してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元に連絡してください。

・ PXE-E53:No boot filename received

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーから、起動時に必要な IP アドレスまたは boot filename を取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元に連絡してください。

・ PXE-E78:Could not locate boot server

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがないか、正しく動作していません。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元に連絡してください。

・ PXE-E89:Could not download boot image

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元に連絡してください。

・ PXE-E32:TFTP open timeout

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ネットワークブートに失敗しました。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元に連絡してください。

・本書に記述されていないシステムエラーメッセージが表示された場合は、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

第 7 章

トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

1 トラブルに備えて

テレビ／ラジオなどの受信障害防止について

本パソコンは、テレビやラジオなどの受信障害を防止する VCCI の基準に適合しています。しかし、設置場所によっては、本パソコンの近くにあるラジオやテレビなどに受信障害を与える場合があります。このような現象が生じても、本パソコンの故障ではありません。
テレビやラジオなどの受信障害を防止するために、次のような点に注意してください。

本パソコンの注意事項

- 周辺機器と接続するケーブルは、指定のケーブルを使い、それ以外のケーブルは使わないでください。
- ケーブルを接続する場合は、コネクタが確実に固定されていることを確認してください。また、ネジなどはしっかり締めてください。
- 本パソコンの AC アダプタは、テレビやラジオなどを接続しているコンセントとは別のコンセントに接続してください。

テレビやラジオなどの注意事項

- テレビやラジオなどを、本パソコンから遠ざけて設置してください。
- テレビやラジオなどのアンテナの方向や位置を変更して、受信障害を生じない方向と位置を探してください。
- テレビやラジオなどのアンテナ線の配線ルートを、本パソコンから遠ざけてください。
- アンテナ線は同軸ケーブルをお使いください。

本パソコンや周辺機器などが、テレビやラジオなどの受信に影響を与えているかどうかは、本パソコンや周辺機器など全体の電源を切ることで確認できます。
テレビやラジオなどに受信障害が生じている場合は、前述の項目を再点検してください。
それでも改善されない場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

Windows のセットアップ後の操作

Windows のセットアップが終了したら、バックアップを行ったり、セキュリティホール対策のための修正プログラムを適用したりすることをお勧めします。
詳しくは、「セキュリティ」－「コンピュータウイルス対策」（→ P.129）または「セキュリティ」－「Windows やソフトウェアのアップデート」（→ P.132）をご覧ください。また、『取扱説明書』もあわせてご覧ください。

修正プログラムの適用について

セキュリティの強化、安定したシステム運用のため、本パソコンに最新のサービスパックや修正モジュールを適用することを基本的にお勧めします。ただし、お客様の環境によっては、サービスパックや修正モジュールの適用により、予期せぬ不具合が発生する場合もありますので、ご利用前には「Readme.txt」などを必ずご確認ください。
また、万一、インストールに失敗したときのことを考慮し、システムのバックアップをとることをお勧めいたします。
なお、弊社のサポートページ（http://azby.fmworld.net/support/）でも、本パソコンに関連したサポート情報やドライバを提供しておりますので、ご覧ください。また、「アップデートナビ」を利用すると、本パソコンに関連したソフトウェアを自動的にダウンロードすることができます。
Windows については、「Windows Update（Microsoft Update）」で最新の修正プログラムを入手できます。

データのバックアップ

ハードディスクに障害が発生した場合などは、データが失われることがあります。必要なデータはフロッピーディスクや CD などの別媒体や、バックアップ装置を備えたファイルサーバーなどに定期的にバックアップしてください。

自動車内での使用について

パソコン本体を自動車内に設置した状態での使用は、保証しておりません。

7

ドキュメントの確認

周辺機器の取り付けやソフトウェアのインストールを行う前に、製品に添付されているドキュメントを読み、次の点を確認してください。

・ハードウェア／ソフトウェア要件
　使用したい周辺機器やソフトウェアが本パソコンのハードウェア構成や Windows で使用できるか確認します。
・取り付け時やインストール時に注意すべき点
　特に「Readme.txt」や「Install.txt」などのテキストファイルがある場合は、マニュアルに記述できなかった重要な情報が記載されている場合があります。忘れずに目を通してください。

また、製品添付のドキュメントだけではなく、Web 上の情報もあわせて確認してください。
ベンダーの Web サイトからは、次のような情報やプログラムを得ることができます。

・製品出荷後に判明した問題などの最新情報
・問題が解決されたドライバやソフトウェアの修正モジュール

弊社のサポートページ（http://azby.fmworld.net/support/）でも、本パソコンに関連したサポート情報やドライバを提供しておりますので、ご覧ください。

2 トラブル発生時の基本操作

本パソコンや周辺機器の電源を確認する

電源が入らない、画面に何も表示されない、ネットワークに接続できない、などのトラブルが発生したら、まず本パソコンや周辺機器の電源が入っているか確認してください。

- 電源ケーブルや周辺機器との接続ケーブルは正しいコネクタに接続されていますか？ またゆるんだりしていませんか？
- 電源コンセント自体に問題はありませんか？
  他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- OA タップを使用している場合、OA タップ自体に問題はありませんか？
  他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- 使用する装置の電源スイッチはすべて入っていますか？
  ネットワーク接続ができなくなった場合は、ネットワークを構成する機器（サーバー本体やハブなど）の接続や電源も確認してください。
- キーボードの上に物を載せていませんか？
  キーが押され、本パソコンが正常に動作しないことがあります。

この他、「起動・終了時のトラブル」（→P.191）の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」もあわせてご覧ください。

以前の状態に戻す

周辺機器の取り付けやソフトウェアのインストールの直後にトラブルが発生した場合は、いったん以前の状態に戻してください。

- 周辺機器を取り付けた場合は、取り外します。
- ソフトウェアをインストールした場合は、アンインストールします。

その後、製品に添付されているマニュアル、「Readme.txt」などの補足説明書、Web 上の情報を確認し、取り付けやインストールに関して何か問題がなかったか確認してください（→P.187）。
発生したトラブルに該当する記述があれば、ドキュメントの指示に従ってください。

セーフモードで起動する

Windowsが起動しない場合、セーフモードで起動できるか確認してください。
起動方法は、次のとおりです。

1 本パソコンの電源を入れます。

2 「FUJITSU」ロゴが消えたら、【Fn】+【8(F8)】キーを押します。

「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されます。

3 【Fn】+【↓】キーまたは【Fn】+【↑】キーを押し、「セーフモード」を選択し、【Enter】キーを押します。

4 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。

パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してログオンします。

「Windows ヘルプとサポート」ウィンドウが表示されます。

バックアップを行う

ハードディスクの障害などで本パソコンの動作が不安定になった場合は、必要なデータをただちにバックアップしてください。

メッセージなどが表示されたらメモしておく

画面上にメッセージなどが表示されたら、メモしておいてください。マニュアルで該当する障害を検索する場合や、お問い合わせのときに役立ちます。

診断プログラムを使用する

Windows が起動しない場合、この診断プログラムを使用することで、ハードウェアの障害箇所を診断できます。

診断後にエラーコードが表示された場合は、メモしておき、「富士通パーソナルエコーセンター」にお問い合わせの際にお知らせください。

診断時間は通常 5 ～ 10 分程度ですが、診断するパソコンの環境によっては長時間かかる場合があります。

1 本パソコンの電源を一度切り、再び電源を入れます。

2 「FUJITSU」ロゴの下に文字が表示されている間に【Fn】+【E(F12)】キーを押します。

起動メニューが表示されます。

3 【Fn】+【↓】キーまたは【Fn】+【↑】キーを押し、「診断プログラム」を選択し、【Enter】キーを押します。

診断プログラムが実行されます。表示される内容に従って操作を行ってください。

リカバリ

トラブル発生時の基本操作をした後も回復しない場合には、リカバリを実行します。リカバリの方法については、『取扱説明書』をご覧ください。

リカバリ後も状態が改善されない場合は

リカバリ後も状態が改善されない場合は、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元に連絡してください。

3 起動・終了時のトラブル

■メッセージが表示された

電源を入れた後の自己診断（POST）時に、画面にメッセージが表示される場合があります。メッセージ内容と意味については、「BIOS」－「BIOS が表示するメッセージ一覧」（→ P.180）をご覧ください。

■電源が入らない

- **AC アダプタは接続されていますか？**

  お買い上げ後最初にお使いになるときなど、バッテリが充電されていない場合は、ACアダプタを接続してください。また、電源スイッチ付きのACタップをお使いの場合は、ACタップの電源をONにしてください。

- **バッテリは充電されていますか？（バッテリ運用時）**

  状態表示 LED のバッテリ残量ランプで、バッテリの残量を確認してください。
  バッテリ残量表示、および確認方法については、「ハードウェア」－「バッテリ残量を確認する」（→ P.40）をご覧ください。
  バッテリが充電されていない場合は、AC アダプタを接続してお使いください。

- **長期間未使用状態ではありませんでしたか？**

  長期間お使いにならなかった後でお使いになるときは、AC アダプタを接続してから電源を入れてください。

■画面に何も表示されない

- **電源ランプは点灯していますか？**
  - 点灯している場合

    【Fn】+【D】キー、または【Fn】+【S】キーを押して明るさを調節してください。
  - 点滅または消灯している場合

    電源スイッチをスライドして動作状態にしてください。また、バッテリ運用時は、バッテリが充電されているか確認してください。充電されていないときには、AC アダプタを接続して充電してください。
    AC アダプタをお使いになっている場合は、コンセント、およびパソコン本体に正しく接続されているか確認してください。

- **キーを操作していましたか？**

  本パソコンには省電力機能が設定されており、一定時間キーを押さないと CPU が停止したり、液晶ディスプレイのバックライトが消灯したりします（何かキーを押すとバックライトが点灯します）。頻繁に停止してしまうときは、「電源オプションのプロパティ」ウィンドウで省電力の設定を変更してください。

- **外部ディスプレイ出力に設定されていませんか？**

  外部ディスプレイだけに表示する設定になっていると、液晶ディスプレイには表示されません。
  「機能」－「表示装置の切り替え」（→ P.88）をご覧になり、設定を液晶ディスプレイ表示に切り替えてください。

- **外部ディスプレイを使用している場合**（→ P.88、→ P.90）、次の項目を確認してください。
  - パソコン本体の電源を入れる前に、外部ディスプレイの電源を入れていますか？
  - セットアップ前に、外部ディスプレイを接続していませんか？

    必ずセットアップ後に接続してください。

7

・解像度や走査周波数は、外部ディスプレイに合った設定になっていますか？（外部ディスプレイに表示している場合）

そのまま 15 秒くらい待っても、液晶ディスプレイ表示に戻らない場合は、本パソコンを強制終了してください。

その後、外部ディスプレイのケーブルを外してから電源を入れると、液晶ディスプレイに表示されます。

「機能」－「外部ディスプレイの走査周波数について」（→ P.93）をご覧になり、お使いになる外部ディスプレイに合わせた設定値に変更してから、外部ディスプレイ表示への切り替えを行ってください（→ P.88）。

■ポインティングデバイスが使えないため、Windows を終了できない

・キーボードを使って Windows を終了させることができます。

1. 【Windows】キーまたは【Ctrl】+【Esc】キーを押します。
   「スタート」メニューが表示されます。
2. 【Fn】＋【↑】【↓】【←】【→】キーを押し、の▶を選択し、「シャットダウン」を選び【Enter】キーで決定を行うことで Windows の終了操作を行います。

ポインティングデバイスが故障している場合は、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元に連絡してください。

■Windows が動かなくなってしまい、電源が切れない

・次の手順で Windows を終了させてください。

1. 【Ctrl】+【Alt】+【Fn】+【BS】キーを押します。
2. Windows を終了します。
   表示された画面の右下にある「シャットダウン」ボタンをクリックします。

POINT

・強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
・強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします（→ P.197）。

この操作で強制終了されないときは、電源スイッチを 4 秒以上スライドして電源を切り、10 秒以上待ってから電源を入れます。

4 Windows・ソフトウェア関連のトラブル

ここでは、Windows、ソフトウェアに関連するトラブルを説明します。トラブルに合わせてご覧ください。

■Windows が起動しなくなった

・周辺機器を取り付けませんでしたか？

いったん周辺機器を取り外し、Windows が起動するか確認してください（→ P.188）。
もし起動するようであれば、周辺機器の取り付け方法が正しいか、もう一度確認してください。

・セーフ モードで起動できますか？

いったんセーフモードで起動し（→ P.188）、問題を解決（ドライバの再インストールなど）してください。

・Windows を正常に終了できなかった場合

- 次回起動時に自動的にセーフモードになり、「キーボードの選択」画面が表示されることがあります。この場合、そのままセーフモードで起動し、起動が完了したら本パソコンを再起動してください。
- 次回起動時に「スタートアップ修復」ウィンドウが表示され、Windows Vista の修復が行われることがあります。修復後は自動的に再起動されます。

■Windows にログオンできない

・指紋認証でログオンできなくなった場合

いったんログオンパスワードを入力して Windows にログオンし、指紋認証に必要な情報を OmniPass に登録しなおしてください。（→『取扱説明書』）

・Windows のパスワードがわからなくなった場合

- あらかじめ「パスワードのヒント」を設定した場合は、Windows のログオン画面で をクリックすると、ログオンパスワードを思い出すためのヒントが表示されます。
-「パスワード リセット ディスク」を作成済みであれば、パスワードをリセットし、新しいパスワードを設定することができます。Windows のログオン画面で をクリックすると、パスワードをリセットするためのメニューが表示されます。

POINT

・OmniPass がインストールされている場合は、パスワードのヒントやパスワードのリセットのためのメニューはセーフモードで起動（→ P.188）した場合の Windows ログオン画面でのみ表示されます。
・パスワード リセット ディスクの作成方法や、パスワードをリセットする場合の注意事項については、Windows のヘルプをご覧ください。

■プログラムが動かなくなってしまった

・次の手順でプログラムを終了させてください。

1. 【Ctrl】+【Shift】+【Esc】キーを押します。
   「Windows タスクマネージャ」ウィンドウが表示されます。
2. 「アプリケーション」タブをクリックします。
3. 動かなくなったプログラムを選択し、「タスクの終了」をクリックします。
   プログラムが強制終了されます。

7

・プログラムを強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
・プログラムを強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします（→P.197）。

■省電力機能が実行されない

・電源オプションや BIOS の設定を確認してください。
省電力機能の詳細については、「機能」－「省電力」（→ P.118）をご覧ください。

■バッテリ運用時に画面がちらつく

・ご購入時の状態で、本パソコンをバッテリ運用すると、液晶ディスプレイの消費電力を節約するインテル®ディスプレイ省電テクノロジの機能が有効となり、画面がちらついて見えたり、画質が変化しているように見えたりする場合があります。
「機能」－「液晶ディスプレイの明るさ設定」（→P.80）をご覧になり、設定を変更してください。

■周辺機器の動作が不安定になった

・なんらかの理由でドライバが削除されているか破損している場合があります。
ドライバを再インストールしてください。

■ソフトウェアのインストールが正常に行われない

・ウイルス検索ソフトを起動している場合、その影響が考えられます。
ウイルス検索ソフトを終了させ、ソフトウェアのインストールができるか試してください。
ウイルス検索ソフトを終了させてもインストールが正常に行われないときは、各ソフトウェアのサポート窓口にお問い合わせください。

■画面右下の通知領域にソフトウェアのアイコンが表示されない

・Windows を起動したあと、通知領域に表示されるはずのソフトウェアのアイコンが表示されないことがあります。
通知領域にアイコンが表示されなかったソフトウェアをお使いになる場合は、次のいずれかの方法を実行してください。
-「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」の順にクリックし、表示されるメニューからソフトウェアを選択する
-「スタートボタン」→ の →「再起動」の順にクリックし、Windows を再起動する

・Windows を起動したあと、通知領域にアイコンが表示されなかった場合、ソフトウェアによっては起動できなかったことを通知するメッセージが表示されることがあります。この場合、メッセージに従って、Windows を再起動してください。

5 ハードウェア関連のトラブル

ハードウェア関連のトラブル一覧

7

BIOS

■管理者用パスワードを忘れてしまった

管理者用パスワードを忘れると、BIOS セットアップを管理者権限で起動することができなくなり、項目の変更やパスワード解除ができなくなります。この場合は、修理が必要となりますので「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。

■ユーザー用パスワードを忘れてしまった

ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。パソコンの管理者に管理者用パスワードをいったん削除してもらった後、管理者用パスワード、ユーザー用パスワードの順にパスワードを設定し直してください。パスワードの設定方法については、「BIOS」－「BIOS のパスワード機能を使う」（→ P.175）をご覧ください。

■エラーメッセージが表示された

パソコン本体起動時に、画面にエラーメッセージが表示される場合があります。
エラーメッセージの内容と意味については、「BIOS」－「BIOS が表示するメッセージ一覧」（→ P.180）をご覧ください。

内蔵 LAN

■ネットワークに接続できない

- **ネットワークケーブルは正しく接続されていますか？**
  パソコン本体との接続、ハブとの接続を確認してください。
- **ネットワークケーブルに関して、次の項目を確認してください。**
  - ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
  - 100Mbps で通信している場合、カテゴリ 5 以上のケーブルを使用してください。
- **内蔵 LAN に関して、次の項目を確認してください。**
  - 無線 LAN 設定が正しく設定されていますか？
    必要に応じて、『内蔵無線 LAN をお使いになる方へ』をご覧になり、再度設定等を確認してください。
    無線 LAN と有線 LAN で、同じ設定にはできません。
  - LAN ドライバは正しくインストールされていますか？
    必要に応じて、再インストールしてください。
- **画面右下の通知領域に LAN の接続状況が表示されますので、確認してください。**
- **スリープや休止状態にしませんでしたか？**
  LAN 機能を使ってネットワークに接続中は、スリープや休止状態にしないことをお勧めします。お使いの環境によっては、ネットワークへの接続が正常に行われない場合があります。

■ネットワークリソースに接続できない

各種サーバーに接続できない場合は、ネットワーク管理者に原因を確認してください。一般的に、次の点を確認します。

・お使いのネットワークに適したコンポーネント（クライアント / サービス / プロトコル）をインストールしていますか？
・各コンポーネントの設定は、正しいですか？
・サーバーにアクセスするためのユーザー名やパスワードは正しいですか？
・サーバーにアクセスする権限を与えられていますか？
・サーバーがなんらかの理由で停止していませんか？

ハードディスク

■ハードディスクが使えない

・**エラーメッセージは出ていませんか？**
「BIOS」－「BIOS が表示するメッセージ一覧」（→ P.180）をご覧ください。

■ハードディスクからカリカリ音がする

・**次のような場合に、ハードディスクからカリカリという音がすることがあります。**
- Windows を終了した直後
- スリープや休止状態にした直後
- パソコンの操作を一時中断した場合（ハードディスクアクセスが数秒間なかった場合）
- 中断した状態から再度パソコンを操作させた場合
- パソコンを操作しない場合でも、常駐しているソフトウェアなどが動作した場合（ハードディスクアクセスされた場合）

これはハードディスクの特性です。故障ではありませんので、そのままお使いください。

■頻繁にフリーズするなど動作が不安定

・**次の手順でハードディスクをチェックしてください。**
1. 実行中のプログラムをすべて終了します。
2. 「スタート」ボタン→「コンピュータ」の順にクリックします。
3. プログラムをインストールしてあるディスクを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
4. 「ツール」タブをクリックし、「エラーチェック」の「チェックする」をクリックします。
「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示された場合は、「続行」をクリックします。
「続行」が表示されず「管理者アカウント」が表示されている場合は、そのアカウントのパスワードを入力してから「OK」をクリックします。
5. 「チェックディスクのオプション」内の項目をチェックし、「開始」をクリックします。
「ファイルシステムエラーを自動的に修復する」をチェックして C ドライブを検査する場合は、「次回のコンピュータの再起動後に、このディスクの検査を実行しますか ?」と表示されます。
「はい」をクリックすると、次回 Windows 起動時にエラーのチェックが行われます。それ以外の場合は、ディスクのチェックが開始されます。終了すると「ディスクの検査が完了しました。」と表示されます。
6. 「OK」をクリックします。

修復してもトラブルが頻繁に発生する場合は、リカバリを実行してください（→『取扱説明書』）。

POINT

・新しいユーザーを作成すると、エラーメッセージが表示されることがあります。この場合も、同様の手順で CHKDSK コマンドを実行してください。

なお、ハードディスクのチェックは、CHKDSK コマンドではなく、ディスクのプロパティの「ツール」タブから行うことをお勧めします。

CD ／ DVD

■ディスクからデータの読み出しができない

・ディスクが正しくセットされていますか？
ディスクの表裏を間違えないよう、正しくセットしてください。

・ディスクが汚れていたり、水滴がついたりしていませんか？
汚れたり水滴がついたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側へ向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。

・ディスクが傷ついていたり、極端に反っていたりしませんか？
ディスクを交換してください。

・規格外のディスクを使用していませんか？
規格に合ったディスクをお使いください。

■WinDVD が起動しない

・市販されているアンチウイルスソフトを起動していませんか？
市販されているアンチウイルスソフトと「WinDVD」を同時に起動することはできません。アンチウイルスソフトを終了してから、「WinDVD」を起動してください。

・自動検索機能付きのアンチウイルスソフト（市販）をインストールしていませんか？
自動検索機能付きのアンチウイルスソフトをインストールしていると、「WinDVD」を起動することはできません。
アンチウイルスソフトをアンインストールしてから「WinDVD」を起動してください。

■DVD の再生が円滑に行われない

・「WinDVD」を正しくインストールしましたか？
「WinDVD」を再インストールしてください。

・管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてからインストールしましたか？
一度アンインストールしてから管理者権限を持ったユーザーとしてログオンし直し、「WinDVD」を再インストールしてください。

・Wave 音源の再生、または AVI ファイル等の映像再生をしていませんか？
Wave 音源、または AVI ファイル等の映像と同時再生はできません。

■外部ディスプレイに再生画面が表示されない

・パソコン本体がマルチモニタ機能を使用していませんか？
マルチモニタ機能に設定している場合、再生映像は「プライマリディスプレイ」側にしか表示できません。

■DVD の再生音が小さい

・パソコン本体のボリュームの設定は正しいですか？
DVD ディスクによっては音のレベルが小さく録音されているものがあります。Windows の「音量の調整」または「音量ミキサ」の設定を調節してください。

■ディスクへの書き込み速度が遅い

・ウイルス対策ソフトなどを常駐させていませんか？
ウイルス対策ソフトなどを常駐し、ファイルアクセスの監視を行った状態でディスクに書き込むと、書き込み速度が低下する場合があります。

バッテリ

■状態表示 LED のバッテリ残量ランプが赤色に早い間隔で点滅している

・バッテリは正しく取り付けられていますか？

バッテリが正しく充電できないことを示します。パソコン本体の電源を切ってからバッテリの取り付けをやり直してください。それでも赤色に点滅している場合はバッテリが異常です。新しいバッテリと交換してください。バッテリパックの交換については、「ハードウェア」－「内蔵バッテリパックを交換する」（→ P.43）をご覧ください。

■状態表示 LED のバッテリ充電ランプがオレンジ色に点滅している

・バッテリ運用直後ではありませんか？

バッテリ運用直後の充電などでは、バッテリの温度が上昇しているため、保護機能が働いてバッテリ充電ランプがオレンジ点滅することがあります。しばらくして、バッテリの温度が低下し、正常な温度に戻ると、そのときのバッテリ残量を表示します。

■バッテリが充電されない

・AC アダプタは接続されていますか？

AC アダプタを接続している場合は、コンセントおよびパソコン本体に正しく接続されているか確認してください。

・バッテリが熱くなっていませんか？

状態表示LEDのバッテリ充電ランプがオレンジ点滅します。

周囲の温度が高いときや使用中にバッテリの温度が上昇すると、バッテリの保護機能が働いて、充電を止めることがあります。

・パソコン本体が冷えていませんか？

状態表示LEDのバッテリ充電ランプがオレンジ点滅します。

バッテリの温度が 5 ℃以下になっていると、バッテリの保護機能が働いて、充電を止めることがあります。

・充電を途中で中断させていませんか？

充電を始めてから、バッテリの充電が完了するまでの間に本パソコンを使用したり、ACアダプタを取り外したりすると、バッテリの特性により充電が不完全に終わることがあります。この場合は、本パソコンをしばらくの間バッテリで稼働させ、バッテリ残量が89%以下になってから充電してください。また、いったん充電を開始したら、バッテリの充電が完了するまでACアダプタを接続したまま充電を終わらせてください。

ディスプレイ

■画面に何も表示されない

・「起動・終了時のトラブル」（→P.191）の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」をご覧ください。

■ディスプレイの表示が見にくい

・ディスプレイは見やすい角度になっていますか？

ディスプレイの角度を調節してください。

・明るさなどを調節しましたか？
「機能」－「液晶ディスプレイの明るさ設定」（→ P.80）をご覧になり、明るさを調節してください。

■液晶ディスプレイが閉まらない

・間に物がはさまっていませんか？
無理に閉めようとすると液晶ディスプレイに傷をつけることがあります。物がはさまっていないか確認してください。また、クリップなどの金属製品がキーのすき間などに入ると、故障の原因になります。

■表示が乱れる

・Windows の画面が正常に表示されない場合は、ディスプレイドライバを再インストールしてください。
Windowsが起動しないときは、セーフモードで起動してからインストールしてください（→P.188）。
・ソフトウェアを使用中に、アイコンやウィンドウの一部が画面に残ってしまった場合は、次の手順でウィンドウを再表示してください。
1. ウィンドウの右上にある最小化ボタンをクリックし、ソフトウェアを最小化します。
2. タスクバーに最小化されたソフトウェアのボタンをクリックします。

次のような場合に表示が乱れることがありますが、動作上は問題ありません。
・Windows 起動時および画面の切り替え時
・DirectX を使用した一部のソフトウェア使用時

・近くにテレビなどの強い磁界が発生するものがありませんか？
強い磁界が発生するものは、ディスプレイやパソコン本体から離して置いてください（→ P.186）。
・外部ディスプレイに出力していますか？
外部ディスプレイによっては、対応している解像度や走査周波数が異なるため、正常に表示されないことがあります。その場合は、外部ディスプレイのマニュアルで外部ディスプレイが対応しているリフレッシュレートを確認し、設定を変更してください（→ P.93）。

サウンド

■スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる

・内蔵スピーカーに関して、次の項目を確認してください。
- 音量は正しく調節されていますか？
本体側面の音量ボリュームで音量を調節してください。
- スピーカーの出力は ON になっていますか？
本体側面の音量ボリュームを押して、ミュートになっていないかを確認してください。

・音量を設定するウィンドウで、ミュートや音量などを確認してください。詳細については、「機能」－「音量の設定」（→ P.94）をご覧ください。
・音が割れる場合は、音量を小さくしてください。
・ハードウェアの競合が起こっていませんか？
・サウンドドライバが正しくインストールされていますか？
必要に応じて、再インストールしてください。

■マイクからうまく録音ができない

・音量は調節されていますか？

音量を設定するウィンドウで録音の項目を有効にし、音量を調節してください。詳細については、「機能」－「音量の設定」（→ P.94）をご覧ください。

キーボード

■押したキーと違う文字が入力される

・テンキーモードになっていたり、【CapsLk】キーが有効になっていませんか？

状態表示LEDのNum Lk表示やCaps Lk表示が点灯していないか確認してください。

・文字入力モードは正しく設定されていますか？

「Microsoft IME」の言語バー（またはタスクバー）の「入力モード」が正しく設定されているか確認してください。

・「コントロールパネル」の「キーボード」の設定は正しいですか？

次の手順で確認してください。

1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
   「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
2. 「ハードウェアとサウンド」をクリックします。
3. 「キーボード」をクリックします。
   「キーボードのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
4. 「ハードウェア」タブの「デバイス」で、正しい日本語キーボードが設定されているか確認します。
5. 「OK」をクリックして、すべてのウィンドウを閉じます。

ポインティングデバイス

■ポインティングデバイスが使えないため、Windows を終了できない

・キーボードを使用して Windows を終了してください（→ P.192）。

USB

■USB デバイスが使えない

・ケーブルは正しく接続されていますか？

ケーブルが正しく接続されているか確認してください。

・USB デバイスに不具合はありませんか？

USB デバイスに不具合がある場合、Windows が動かなくなります。

パソコンを再起動して、USB デバイスを接続し直してみてください。それでも正常に動作しない場合は、USB デバイスのご購入元にご連絡ください。

■USB デバイスが使えず、「デバイスマネージャ」で確認するとエクスクラメーションマーク（!）が表示される

・**デバイスドライバに問題はありませんか？インストールされていますか？**

必要なドライバをインストールしてください。

・**外部から電源を取らない USB デバイスの場合、消費電力に問題はありませんか？**

次の手順で USB コネクタの電力使用状況を確認してください。

1. 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
2. 「スタート」ボタン →「コントロールパネル」の順にクリックします。
   「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます
3. 「ハードウェアとサウンド」→「デバイスマネージャ」の順にクリックします。
   「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されます。
4. 「続行」をクリックします。
   「続行」が表示されず「管理者アカウント」が表示されている場合は、そのアカウントのパスワードを入力してから「OK」をクリックします。
   「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。
5. 「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」をダブルクリックし、「USB ルートハブ」をダブルクリックします。
   「USB ルートハブのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
6. 「電力」タブをクリックし、USB バスの電力使用状況がデバイスマネージャで使用可能な電力の合計を超えていないか確認します。
7. 「OK」をクリックして、すべてのウィンドウを閉じます。

プリンタ

■プリンタを使用できない

・**次の点を確認してください。**

- プリンタケーブルは正しく接続されていますか？
- ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
- プリンタの電源は入っていますか？
- プリンタドライバは正しくインストールされていますか？
  プリンタのマニュアルをご覧になり、再インストールしてください。
- ネットワークプリンタの場合、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行いましたか？
- ネットワークプリンタの場合、ネットワーク自体へのアクセスはできていますか？（→ P.196）

その他

■使用中の製品に関する最新情報を知りたい

・製品出荷後に判明した問題などの最新情報は、弊社のサポートページ（http://azby.fmworld.net/support/）で公開しています。必要に応じてご覧ください。

6 それでも解決できないときは

お問い合わせ先

本製品に添付されているソフトウェアは、提供会社によってお問い合わせ先が異なります。お問い合わせについては、添付の冊子『サポート＆サービスのご案内』をご覧ください。

7

索引

ま行

や行

ら行

わ行